

市民アンケートの集計結果

調査の概要

(1) 調査の目的

本アンケート調査は、市民の意識やまちづくりに対する意向などを把握し、新たな大野市総合計画策定に関する計画課題と施策展望などについて検討するための基礎資料として、実施するものです。

(2) 調査の方法

市内に居住する18歳以上の市民から、無作為にサンプリング対象として抽出し、郵送による配布・回収によりアンケート調査を実施しました。

(3) 調査期間

アンケートの配布・回収 令和元年 7月19日～ 8月 5日

(4) 回収率

配布数	回収数	回収率
1,000	327	32.7%

(5) 掲載数値について

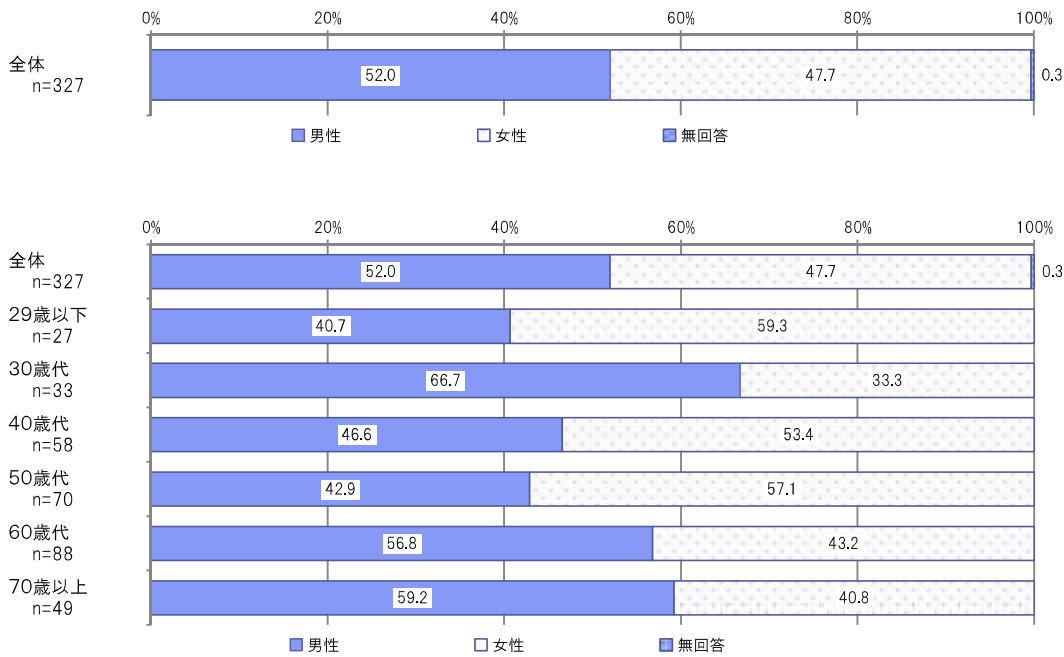
- 1) 構成比(%)の合計は、個々のデータに対して、小数点第2位を四捨五入しています。そのため、合計が100%にならない場合があります。
- 2) 「無回答」は、回答していないものを表しています。
- 3) その他の意見や自由回答についての掲載は、同じ意見や回答は一つにとりまとめて整理してあります。

(6) クロス集計表について

クロス集計とは、2つ以上のデータ(回答)を掛け合わせ(クロスさせ)て、その傾向をみるための集計方法です。例えば「性別」と「年齢」をクロス集計することによって、30歳代の男性回答者は何人でどのくらいの構成比なのかといった結果を知ることができます。

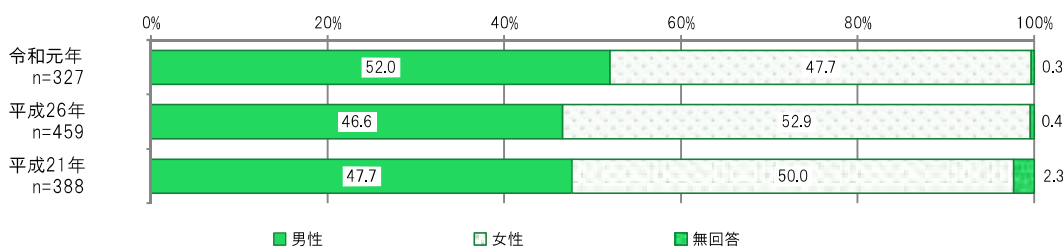
問 1 性別

「男性」が52.0%、「女性」が47.7%となっている。



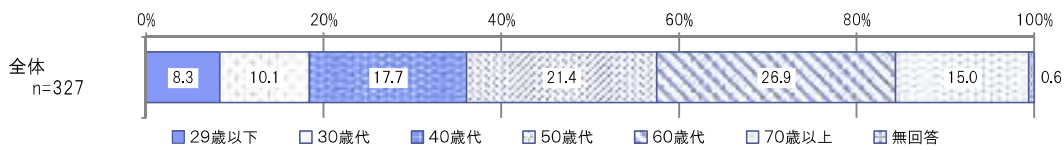
(上段:実数、下段:%)

		回答者数	問1 性別		
			男性	女性	無回答
全体		327	170	156	1
		100.0	52.0	47.7	0.3
年齢別	29歳以下	27	11	16	-
		100.0	40.7	59.3	-
	30歳代	33	22	11	-
		100.0	66.7	33.3	-
	40歳代	58	27	31	-
		100.0	46.6	53.4	-
	50歳代	70	30	40	-
		100.0	42.9	57.1	-
	60歳代	88	50	38	-
		100.0	56.8	43.2	-
	70歳以上	49	29	20	-
		100.0	59.2	40.8	-



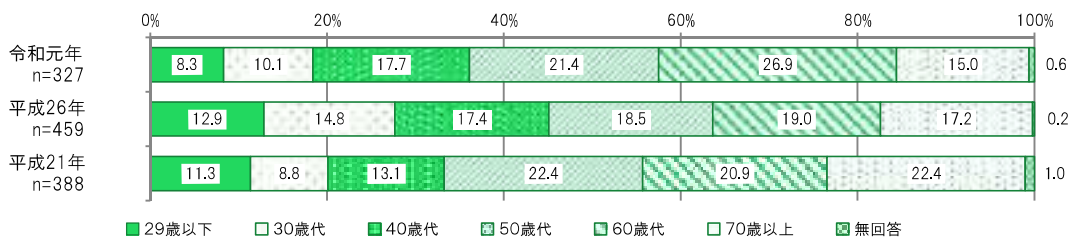
問2 年齢

「60歳代」が26.9%と最も多く、次いで「50歳代」(21.4%)、「40歳代」(17.7%)、「70歳以上」(15.0%)、「30歳代」(10.1%)、「29歳以下」(8.3%)の順となっている。



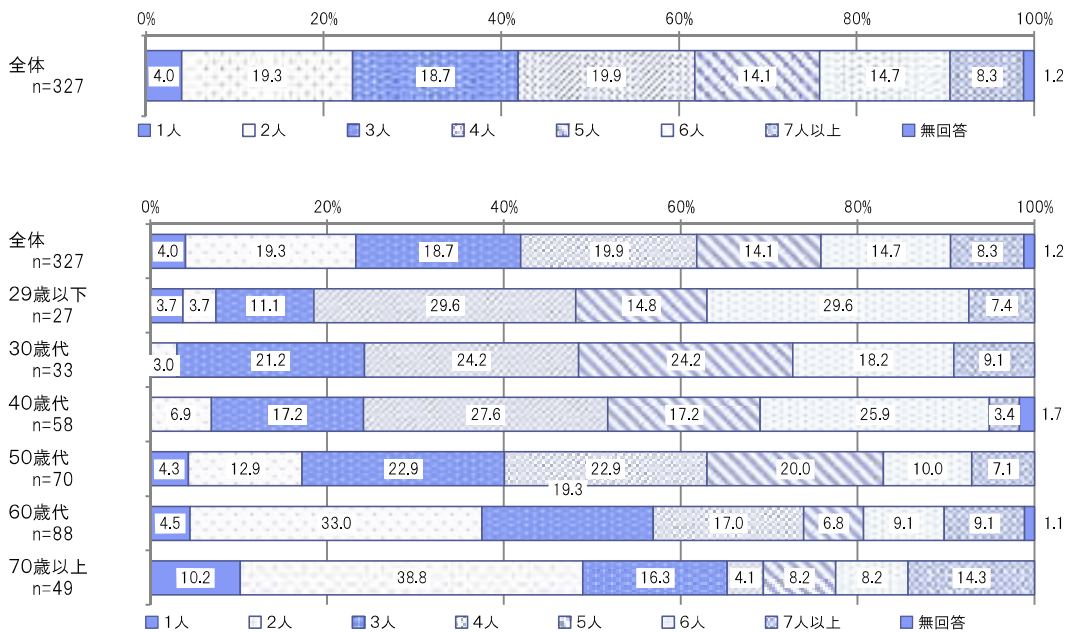
(上段:実数、下段:%)

	回答者数	問2 年齢						
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
全体	327	27	33	58	70	88	49	2
	100.0	8.3	10.1	17.7	21.4	26.9	15.0	0.6



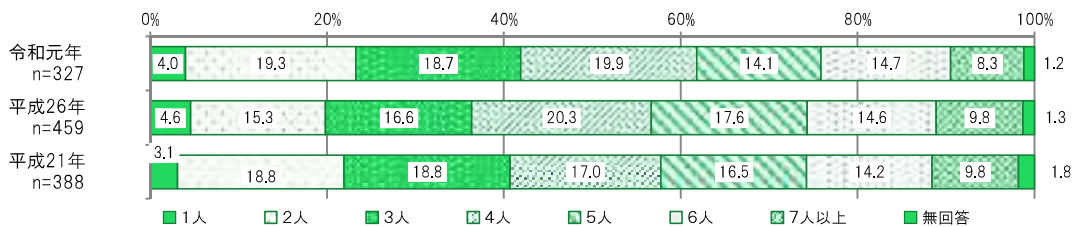
問3 家族構成

「4人」が19.9%と最も多く、次いで「2人」(19.3%)、「3人」(18.7%)、「6人」(14.7%)、「5人」(14.1%)、「7人以上」(8.3%)、「1人」(4.0%)の順となっている。



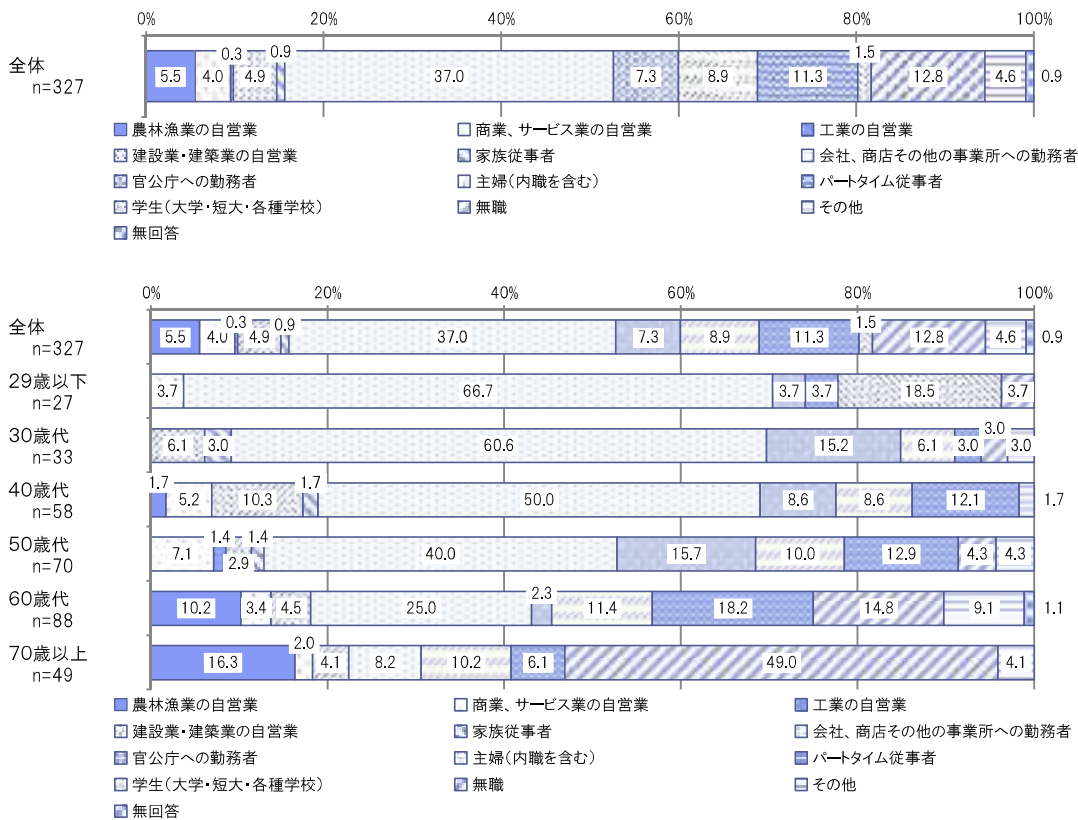
(上段:実数、下段:%)

		回答者数	問3 家族構成						
			1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人以上
全体		327	13	63	61	65	46	48	27
		100.0	4.0	19.3	18.7	19.9	14.1	14.7	8.3
年齢別	29歳以下	27	1	1	3	8	4	8	2
		100.0	3.7	3.7	11.1	29.6	14.8	29.6	7.4
	30歳代	33	-	1	7	8	8	6	3
		100.0	-	3.0	21.2	24.2	24.2	18.2	9.1
	40歳代	58	-	4	10	16	10	15	2
		100.0	-	6.9	17.2	27.6	17.2	25.9	3.4
	50歳代	70	3	9	16	16	14	7	5
		100.0	4.3	12.9	22.9	22.9	20.0	10.0	7.1
	60歳代	88	4	29	17	15	6	8	8
		100.0	4.5	33.0	19.3	17.0	6.8	9.1	9.1
	70歳以上	49	5	19	8	2	4	4	7
		100.0	10.2	38.8	16.3	4.1	8.2	8.2	14.3



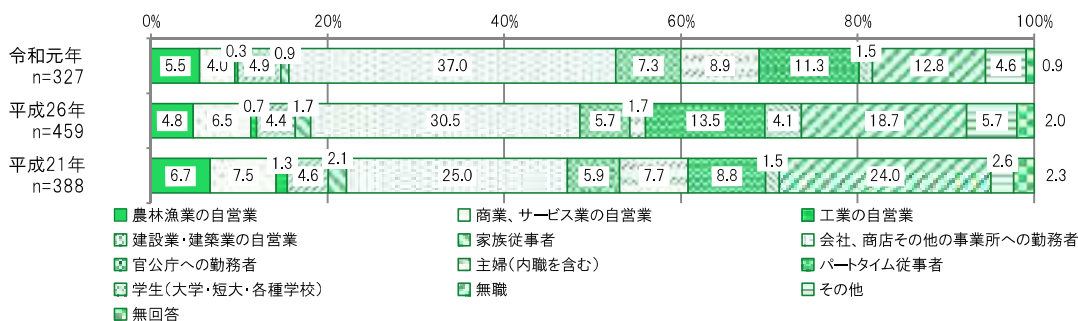
問 4 職業

「会社、商店その他の事業所への勤務者」が37.0%と最も多く、次いで「無職」(12.8%)、「パートタイム従事者」(11.3%)、「主婦(内職を含む)」(8.9%)、「官公庁への勤務者」(7.3%)、「農林漁業の自営業」(5.5%)の順となっている。



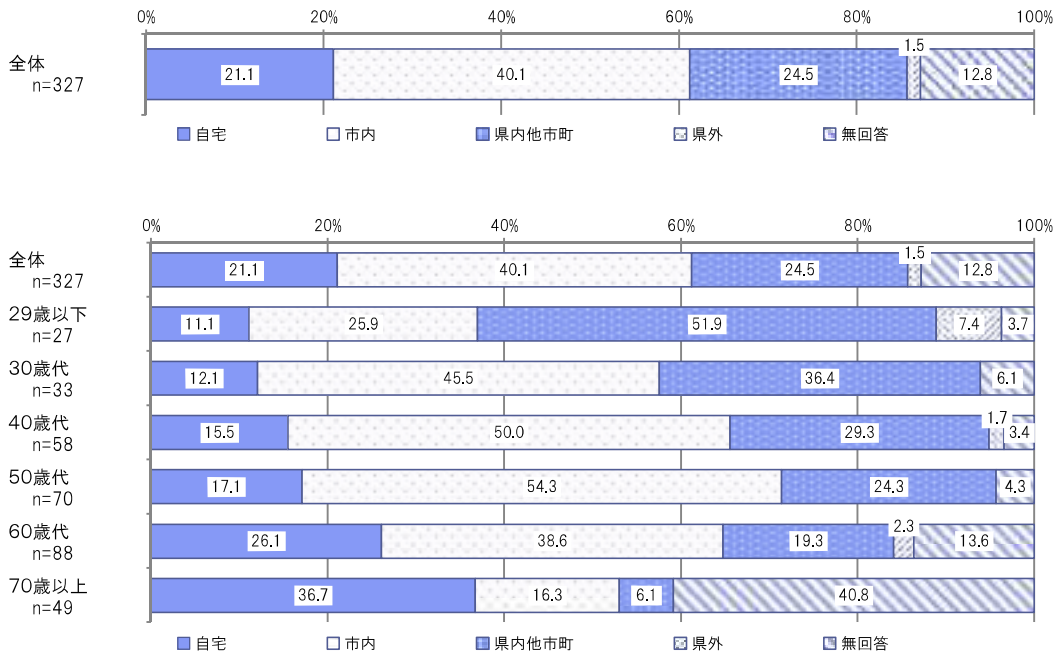
(上段:実数、下段:%)

		問4 職業																
		回答者数	農林漁業の自営業	商業、サービス業の自営業	工業の自営業	建設業・建築業の自営業	家族従事者	会社、商店その他の事業所への勤務者	官公庁への勤務者	主婦(内職を含む)	パートタイム従事者	大学・各(大学・短大・各種学校)	無職	その他	無回答			
年齢別	全体	327	18	13	1	16	3	121	24	29	37	5	42	15	3			
		100.0	5.5	4.0	0.3	4.9	0.9	37.0	7.3	8.9	11.3	1.5	12.8	4.6	0.9			
	29歳以下	27	-	1	-	-	-	18	1	-	1	5	1	-	-			
		100.0	-	3.7	-	-	-	66.7	3.7	-	3.7	18.5	3.7	-	-			
	30歳代	33	-	-	-	2	1	20	5	2	1	-	1	1	-			
		100.0	-	-	-	6.1	3.0	60.6	15.2	6.1	3.0	-	3.0	3.0	-			
	40歳代	58	1	3	-	6	1	29	5	5	7	-	-	1	-			
		100.0	1.7	5.2	-	10.3	1.7	50.0	8.6	8.6	12.1	-	-	1.7	-			
	50歳代	70	-	5	1	2	1	28	11	7	9	-	3	3	-			
		100.0	-	7.1	1.4	2.9	1.4	40.0	15.7	10.0	12.9	-	4.3	4.3	-			
	60歳代	88	9	3	-	4	-	22	2	10	16	-	13	8	1			
		100.0	10.2	3.4	-	4.5	-	25.0	2.3	11.4	18.2	-	14.8	9.1	1.1			
	70歳以上	49	8	1	-	2	-	4	-	5	3	-	24	2	-			
		100.0	16.3	2.0	-	4.1	-	8.2	-	10.2	6.1	-	49.0	4.1	-			



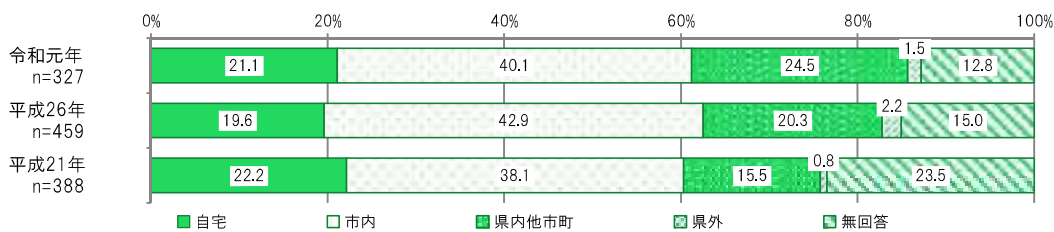
問5 勤務先の所在地

「市内」が40.1%と最も多く、次いで「県内他市町」（24.5%）、「自宅」（21.1%）、「県外」（1.5%）の順となっている。



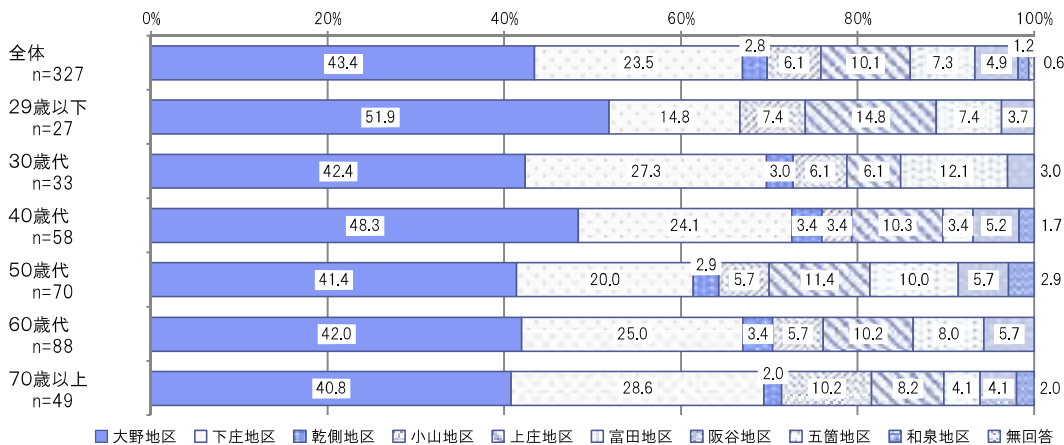
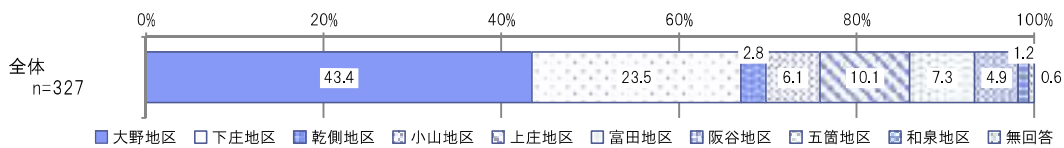
(上段:実数、下段:%)

		回 答 者 数	問5 勤務先の所在地				
			自 宅	市 内	県 内 他 市 町	県 外	無 回 答
全体		327 100.0	69 21.1	131 40.1	80 24.5	5 1.5	42 12.8
年 齢 別	29歳以下	27 100.0	3 11.1	7 25.9	14 51.9	2 7.4	1 3.7
	30歳代	33 100.0	4 12.1	15 45.5	12 36.4	- -	2 6.1
	40歳代	58 100.0	9 15.5	29 50.0	17 29.3	1 1.7	2 3.4
	50歳代	70 100.0	12 17.1	38 54.3	17 24.3	- -	3 4.3
	60歳代	88 100.0	23 26.1	34 38.6	17 19.3	2 2.3	12 13.6
	70歳以上	49 100.0	18 36.7	8 16.3	3 6.1	- -	20 40.8



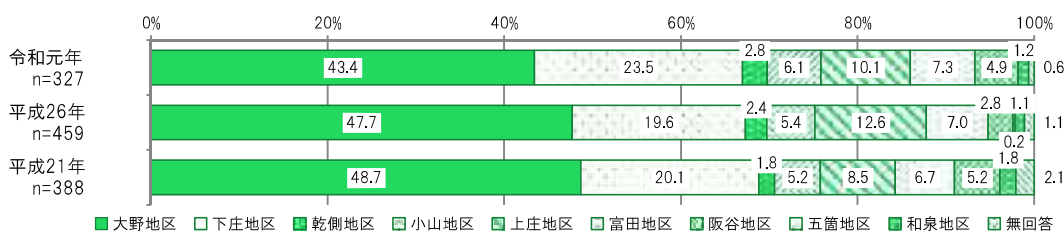
問6 居住地区

「大野地区」が43.4%と最も多く、次いで「下庄地区」(23.5%)、「上庄地区」(10.1%)、「富田地区」(7.3%)、「小山地区」(6.1%)の順となっている。



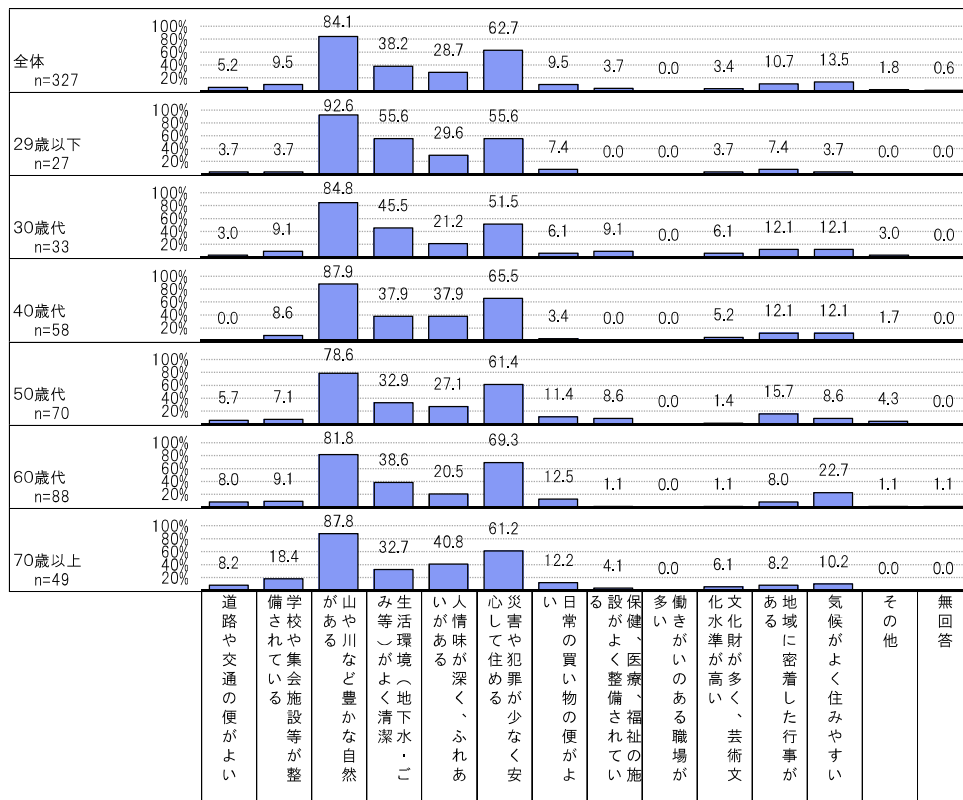
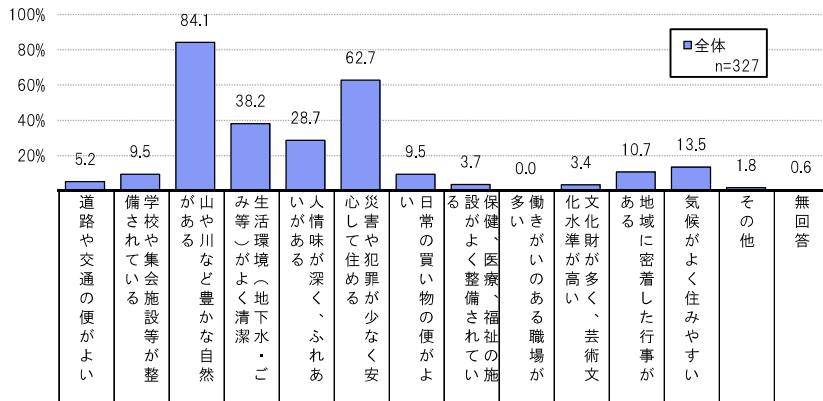
(上段:実数、下段:%)

		回答者数	問6 居住地区									
			大野地区	下庄地区	乾側地区	小山地区	上庄地区	富田地区	阪谷地区	五箇地区	和泉地区	無回答
全体		327 100.0	142 43.4	77 23.5	9 2.8	20 6.1	33 10.1	24 7.3	16 4.9	- -	4 1.2	2 0.6
年齢別	29歳以下	27 100.0	14 51.9	4 14.8	- -	2 7.4	4 14.8	2 7.4	1 3.7	- -	- -	- -
	30歳代	33 100.0	14 42.4	9 27.3	1 3.0	2 6.1	2 6.1	4 12.1	1 3.0	- -	- -	- -
	40歳代	58 100.0	28 48.3	14 24.1	2 3.4	2 3.4	6 10.3	2 3.4	3 5.2	- -	1 1.7	- -
	50歳代	70 100.0	29 41.4	14 20.0	2 2.9	4 5.7	8 11.4	7 10.0	4 5.7	- -	2 2.9	- -
	60歳代	88 100.0	37 42.0	22 25.0	3 3.4	5 5.7	9 10.2	7 8.0	5 5.7	- -	- -	- -
	70歳以上	49 100.0	20 40.8	14 28.6	1 2.0	5 10.2	4 8.2	2 4.1	2 4.1	- -	1 2.0	- -



問 7 大野市のイメージ

「山や川など豊かな自然がある」が84.1%と最も多く、次いで「災害や犯罪が少なく安心して住める」(62.7%)、「生活環境(地下水・ごみ等)がよく清潔」(38.2%)、「人情味が深く、ふれあいがある」(28.7%)、「気候がよく住みやすい」(13.5%)、「地域に密着した行事がある」(10.7%)の順となっている。



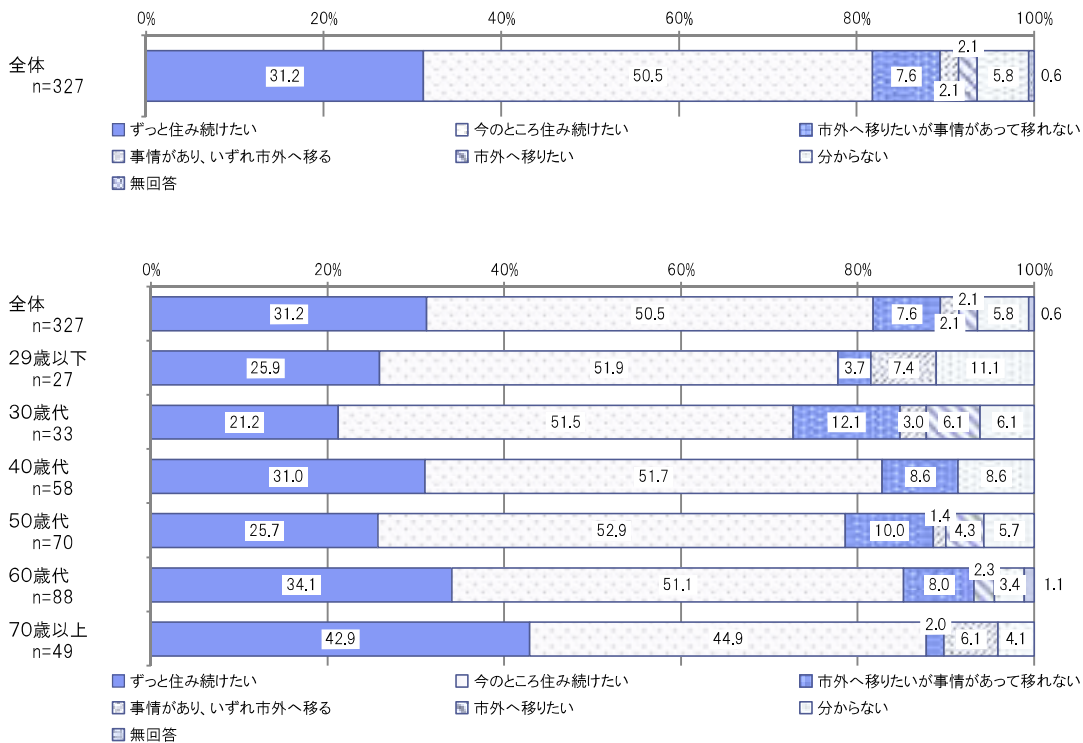
[市民アンケートの集計結果]

(上段:実数、下段:%)

		回答者数	問7 大野市のイメージ													
			道路や交通の便がよい	学校や集会施設等が整備されている	山や川など豊かな自然がある	生活環境(地下水・ごみ等)がよく清潔	人情味が深く、ふれあいがある	災害や犯罪が少なく安心して住める	日常の買い物の便がよい	保健、医療、福祉の施設がよく整備されている	働きがいのある職場が多い	文化財が多く、芸術文化水準が高い	地域に密着した行事がある	気候がよく住みやすい	その他	無回答
全体		327 100.0	17 5.2	31 9.5	275 84.1	125 38.2	94 28.7	205 62.7	31 9.5	12 3.7	-	11 3.4	35 10.7	44 13.5	6 1.8	2 0.6
年齢別	29歳以下	27 100.0	1 3.7	1 3.7	25 92.6	15 55.6	8 29.6	15 55.6	2 7.4	-	-	1 3.7	2 7.4	1 3.7	-	-
	30歳代	33 100.0	1 3.0	3 9.1	28 84.8	15 45.5	7 21.2	17 51.5	2 6.1	3 9.1	-	2 6.1	4 12.1	4 12.1	1 3.0	-
	40歳代	58 100.0	-	5 8.6	51 87.9	22 37.9	22 37.9	38 65.5	2 3.4	-	-	3 5.2	7 12.1	7 12.1	1 1.7	-
	50歳代	70 100.0	4 5.7	5 7.1	55 78.6	23 32.9	19 27.1	43 61.4	8 11.4	6 8.6	-	1 1.4	11 15.7	6 8.6	3 4.3	-
	60歳代	88 100.0	7 8.0	8 9.1	72 81.8	34 38.6	18 20.5	61 69.3	11 12.5	1 1.1	-	1 1.1	7 8.0	20 22.7	1 1.1	1
	70歳以上	49 100.0	4 8.2	9 18.4	43 87.8	16 32.7	20 40.8	30 61.2	6 12.2	2 4.1	-	3 6.1	4 8.2	5 10.2	-	-

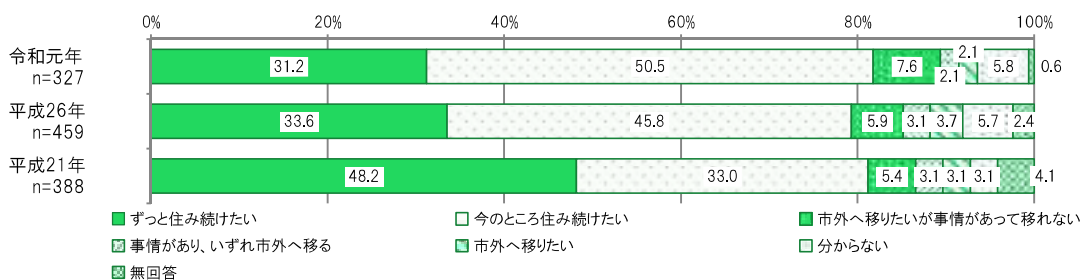
問8 今後の居住意向

「今のところ住み続けたい」が50.5%と最も多く、次いで「ずっと住み続けたい」(31.2%)、「市外へ移りたいが事情があって移れない」(7.6%)の順となっている。



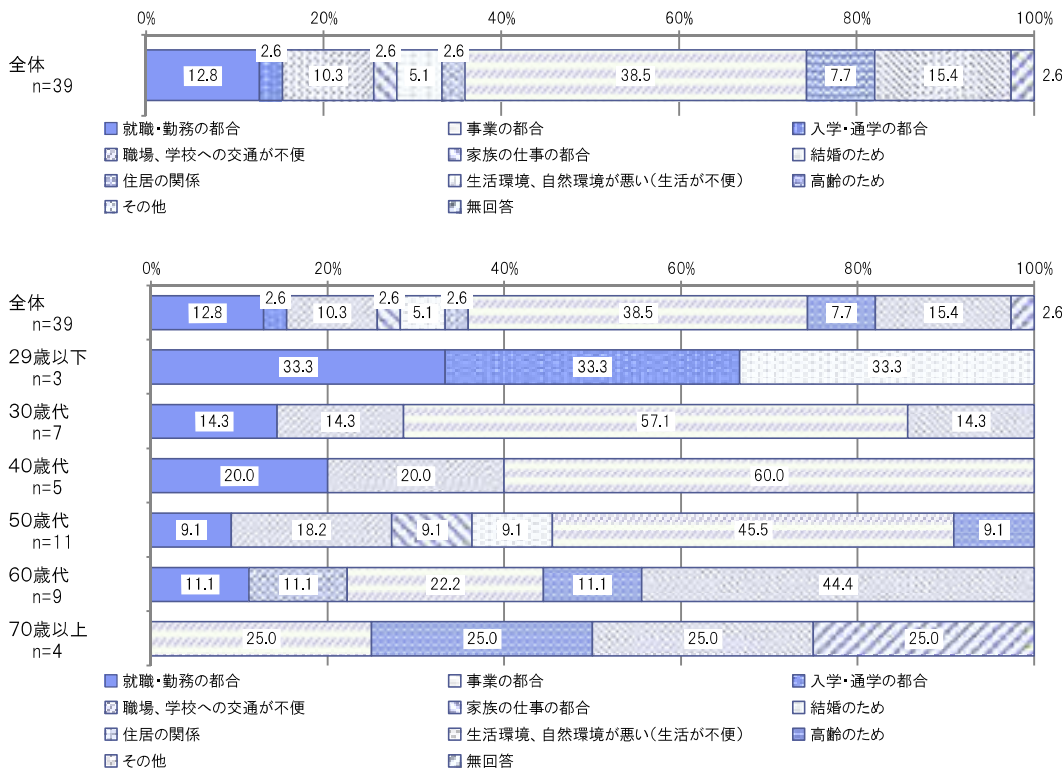
(上段:実数、下段:%)

		問8 今後の居住意向						
	回答者数							
		ずっと住み続けたい	今のところ住み続けたい	市外へ移りたいが事情があって移れない	市外へ移りたい	分からない	無回答	
全体	327	102	165	25	7	19	2	
	100.0	31.2	50.5	7.6	2.1	5.8	0.6	
年齢別	29歳以下	27	7	14	1	2	3	-
		100.0	25.9	51.9	3.7	7.4	11.1	-
	30歳代	33	7	17	4	1	2	-
		100.0	21.2	51.5	12.1	3.0	6.1	-
	40歳代	58	18	30	5	-	5	-
		100.0	31.0	51.7	8.6	-	8.6	-
	50歳代	70	18	37	7	1	3	-
	100.0	25.7	52.9	10.0	1.4	4.3	5.7	-
	60歳代	88	30	45	7	-	2	3
	100.0	34.1	51.1	8.0	-	2.3	3.4	1.1
	70歳以上	49	21	22	1	3	2	-
	100.0	42.9	44.9	2.0	6.1	-	4.1	-



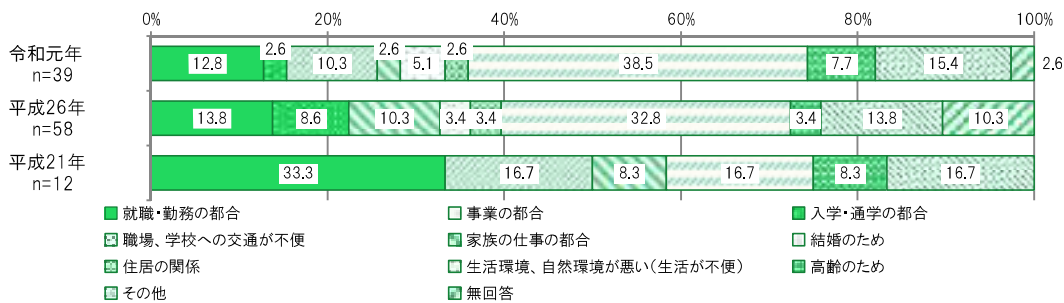
問 8-2 大野市外に住みたい理由

「生活環境、自然環境が悪い(生活が不便)」が38.5%と最も多く、次いで「就職・勤務の都合」(12.8%)、「職場、学校への交通が不便」(10.3%)の順となっている。



(上段:実数、下段:%)

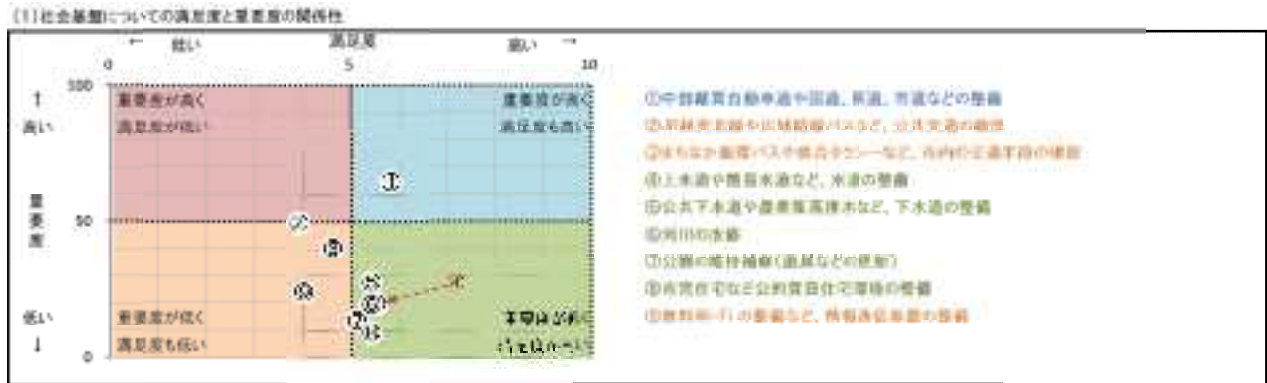
		問8-2 大野市外に住みたい理由										
	回答者数	就職・勤務の都合	事業の都合	入学・通学の都合	職場、学校への交通が不便	家族の仕事の都合	結婚のため	住居の関係	生活環境、自然環境が悪い(生活が不便)	高齢のため	その他	無回答
		実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	割合
全体	39	5	12.8	-	4	1	2	1	15	3	6	1
	100.0				10.3	2.6	5.1	2.6	38.5	7.7	15.4	2.6
年齢別	29歳以下	3	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-
	100.0		33.3		33.3		33.3		-	-	-	-
	30歳代	7	1	-	1	-	-	-	4	-	1	-
	100.0		14.3		14.3		-	-	57.1	-	14.3	-
	40歳代	5	1	-	1	-	-	-	3	-	-	-
	100.0		20.0		20.0		-	-	60.0	-	-	-
	50歳代	11	1	-	2	1	1	-	5	1	-	-
	100.0		9.1		18.2	9.1	9.1		45.5	9.1	-	-
60歳代	9	1	-	-	-	-	-	1	2	1	4	-
	100.0		11.1		-	-	-	11.1	22.2	11.1	44.4	-
70歳以上	4	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1
	100.0		-		-	-	-	-	25.0	25.0	25.0	25.0



問9 満足度と重要度

(1) 社会基盤についての満足度と重要度

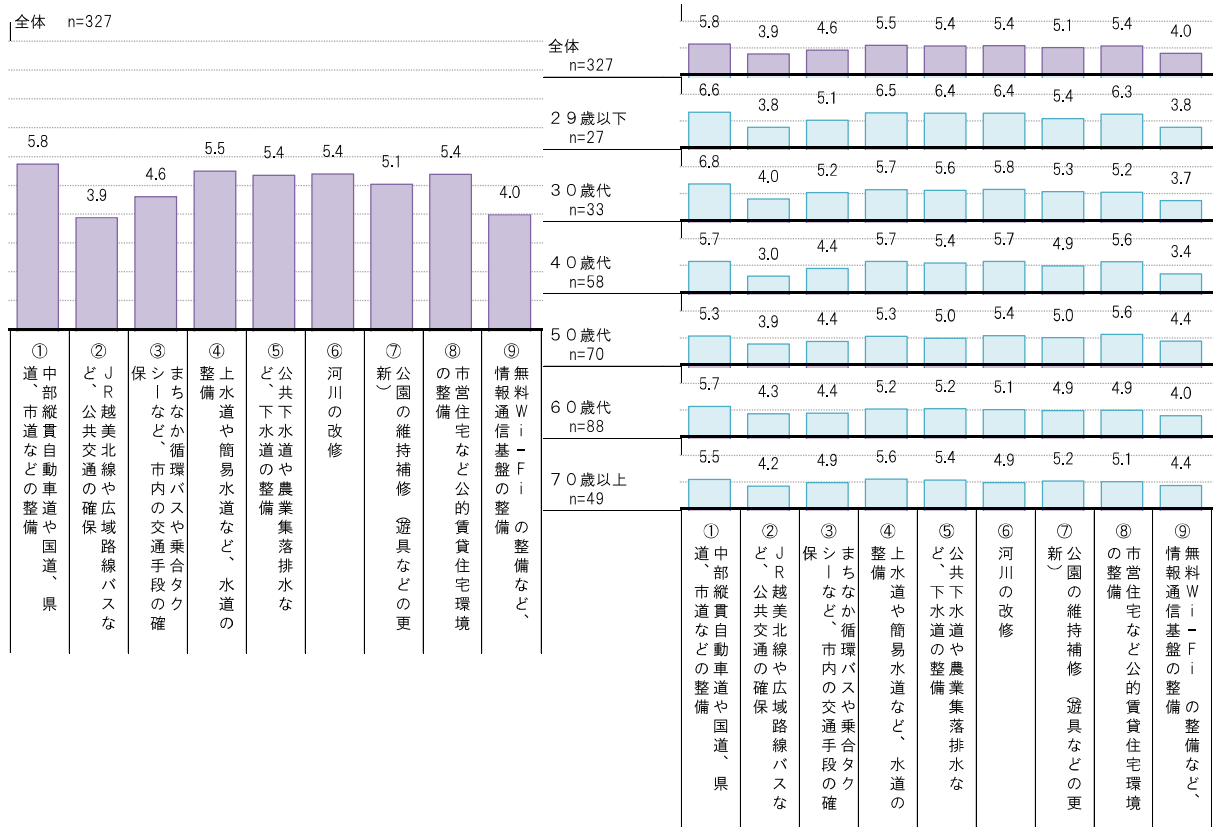
満足度と重要度の関係は、「重要度が高く、満足度も高い項目」は1項目、「重要度が低く、満足度が高い項目」は5項目、「重要度が低く、満足度も低い項目」は3項目となっている。



満足度

満足度は「満足（10点）」「やや満足（7点）」「やや不満（3点）」「不満（0点）」として集計したものの平均値を得点として集計しています。

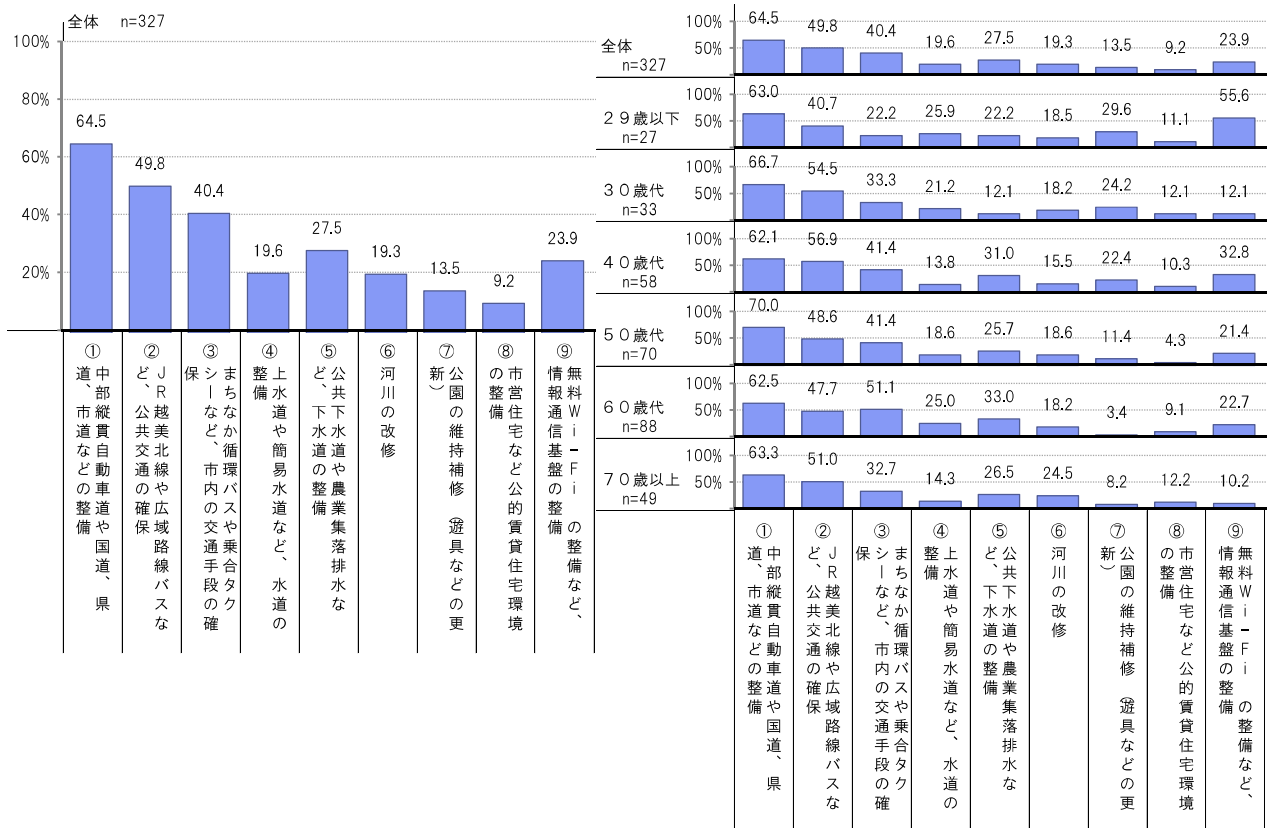
満足度では、「①中部縦貫自動車道や国道、県道、市道などの整備」が5.8点と最も高く、次いで「④上水道や簡易水道など、水道の整備」（5.5点）、「⑤公共下水道や農業集落排水など、下水道の整備」「⑥河川の改修」「⑧市営住宅など公営賃貸住宅環境の整備」（5.4点）、「⑦公園の維持補修（遊具などの更新）」（5.1点）の順となっている。



重要度

重要度は、項目①～⑨の中で、重要だと思われる取り組みを3つ選択して頂き、項目ごとに回答数を母数で割り集計しています。

重要度では、「①中部縦貫自動車道や国道、県道、市道などの整備」が64.5%と最も多く、次いで「②JR 越美北線や広域路線バスなど、公共交通の確保」(49.8%)、「③まちなか循環バスや乗合タクシーなど、市内の交通手段の確保」(40.4%)、「⑤公共下水道や農業集落排水など、下水道の整備」(27.5%)、「⑨無料 Wi-Fi の整備など、情報通信基盤の整備」(23.9%)、「④上水道や簡易水道など、水道の整備」(19.6%)、「⑥河川の改修」(19.3%)、「⑦公園の維持補修（遊具などの更新）」(13.5%)、「⑧市営住宅など公営賃貸住宅環境の整備」(9.2%)の順となっている。



(2) 生活環境についての満足度と重要度

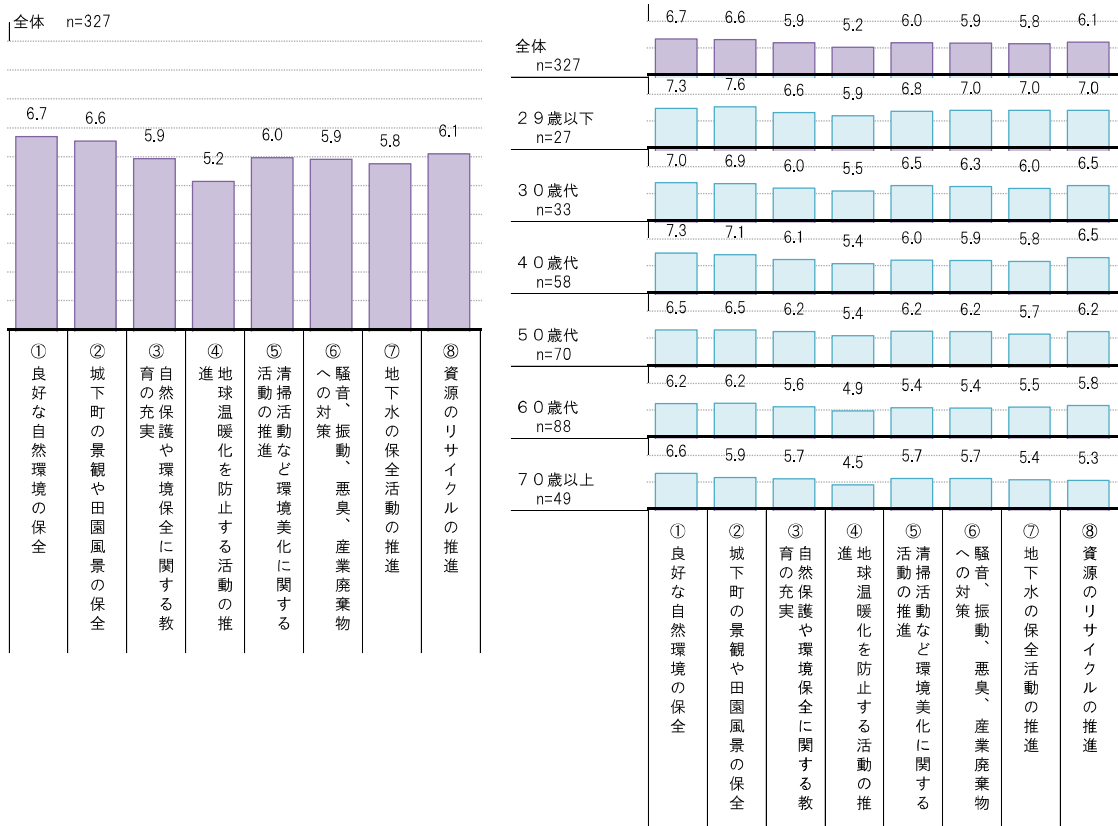
満足度と重要度の関係は、「重要度が高く、満足度も高い項目」は1項目、「重要度が低く、満足度が高い項目」は7項目となっている。



満足度

満足度は「満足（10点）」「やや満足（7点）」「やや不満（3点）」「不満（0点）」として集計したものの平均値を得点として集計しています。

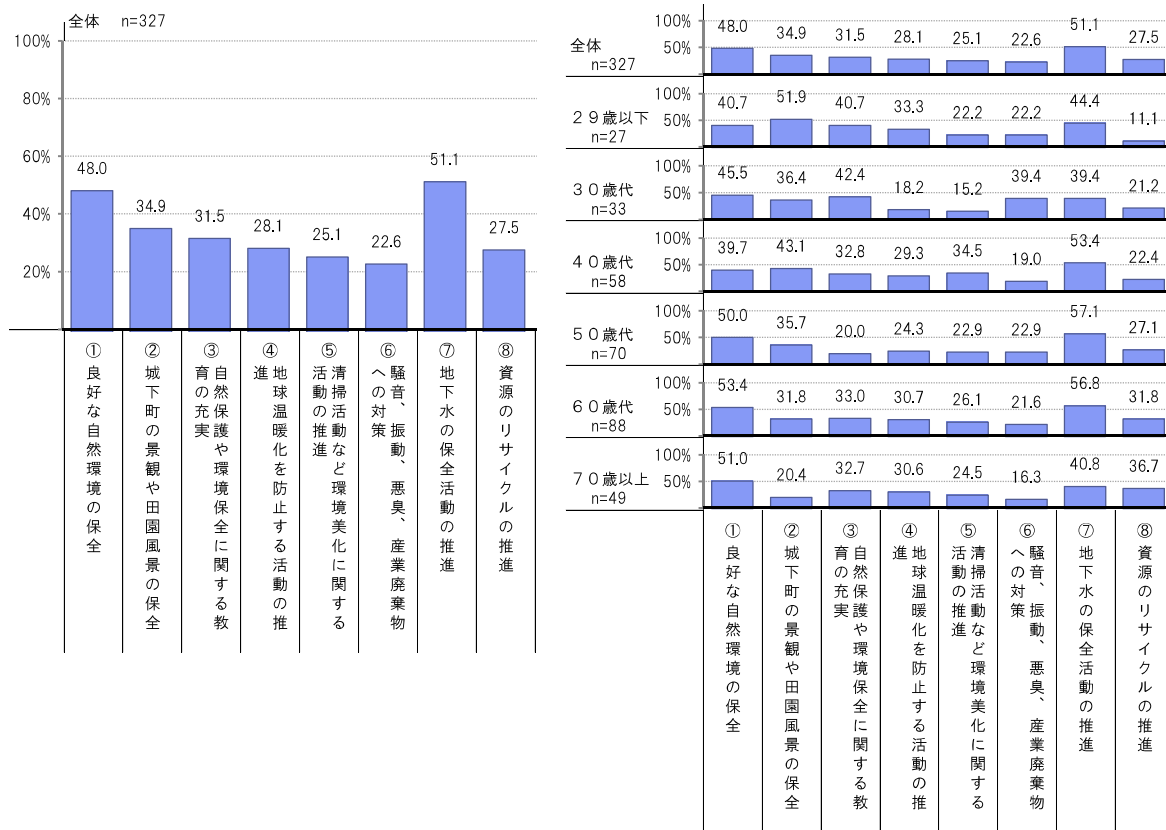
満足度では、「①良好な自然環境の保全」が6.7点と最も高く、次いで「②城下町の景観や田園風景の保全」（6.6点）、「⑧資源のリサイクルの推進」（6.1点）、「⑤清掃活動など環境美化に関する活動の推進」（6.0点）の順となっており、上記4項目で6点以上、それ以外の4項目でも5点を超えている。



重要度

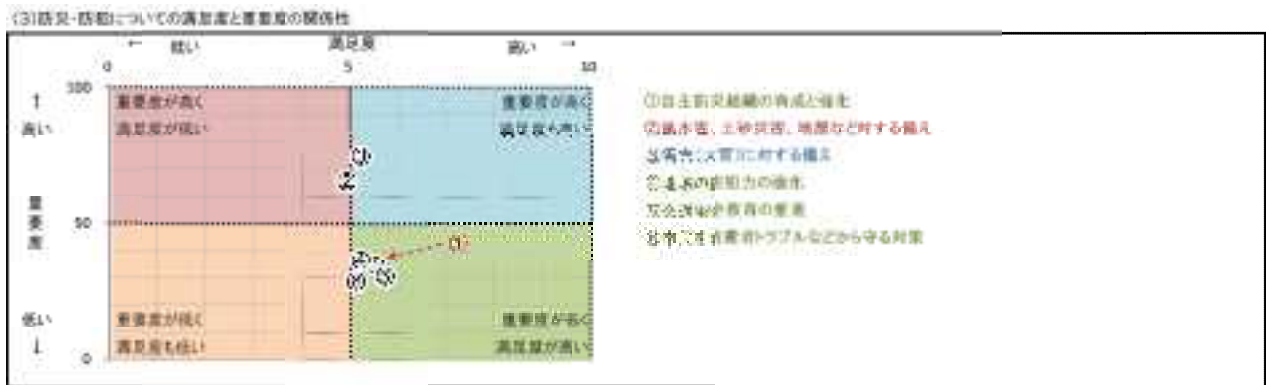
重要度は、項目①～⑧の中で、重要だと思われる取り組みを3つ選択して頂き、項目ごとに回答数を母数で割り集計しています。

重要度では、「⑦地下水の保全活動の推進」が51.1%と最も多く、次いで「①良好な自然環境の保全」(48.0%)、「②城下町の景観や田園風景の保全」(34.9%)、「③自然保護や環境保全に関する教育の充実」(31.5%)、「④地球温暖化を防止する活動の推進」(28.1%)、「⑧資源のリサイクルの推進」(27.5%)、「⑤清掃活動など環境美化に関する活動の推進」(25.1%)、「⑥騒音、振動、悪臭、産業廃棄物への対策」(22.6%)の順となっている。



(3) 防災・防犯についての満足度と重要度

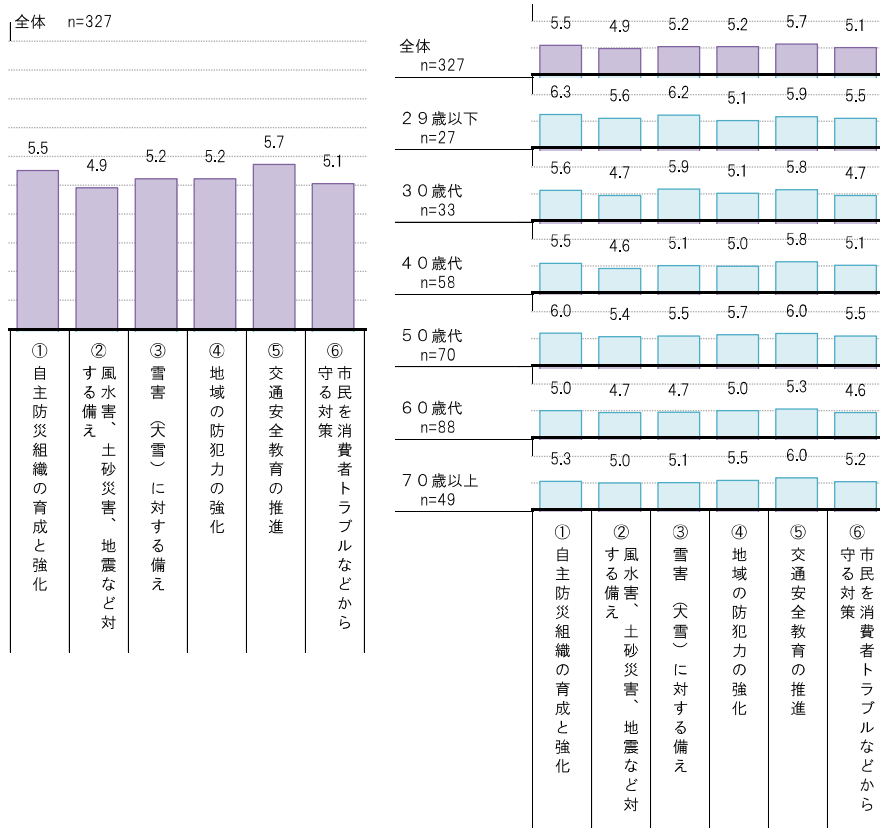
満足度と重要度の関係は、「重要度が高く、満足度も高い項目」は1項目、「重要度が高く、満足度が低い項目」は1項目、「重要度が低く、満足度が高い項目」は4項目となっている。



満足度

満足度は「満足（10点）」、「やや満足（7点）」、「やや不満（3点）」、「不満（0点）」として集計したものの平均値を得点として集計しています。

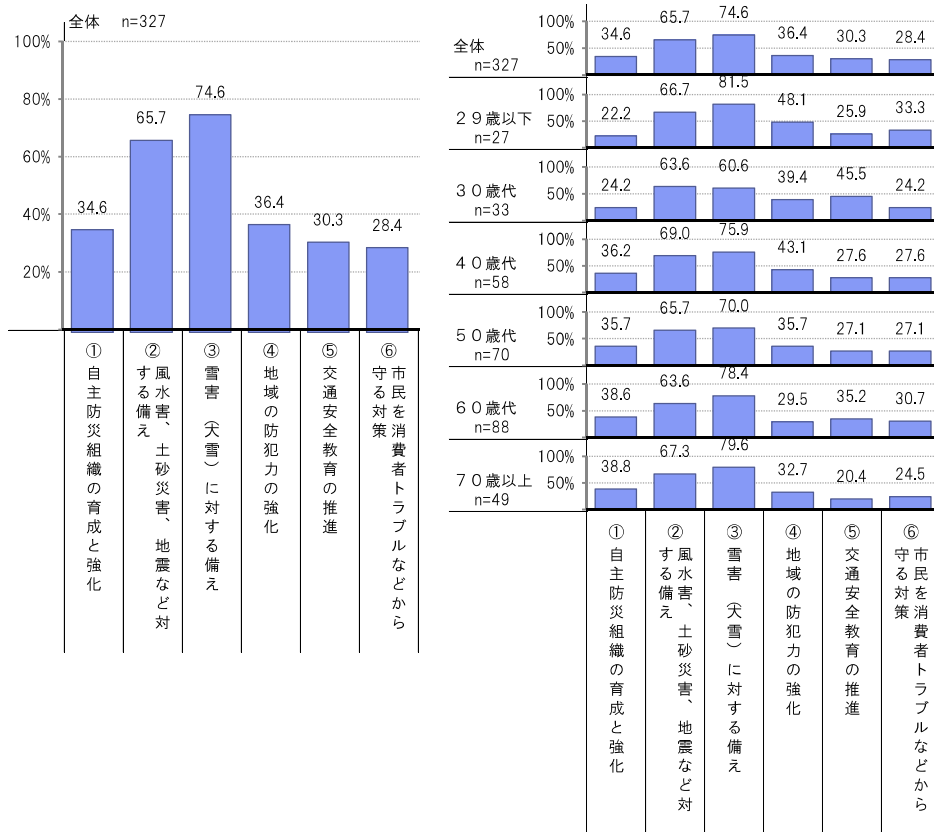
満足度では、「⑤交通安全教育の推進」が5.7点と最も多く、次いで「①自主防災組織の育成と強化」（5.5点）、「③雪害（大雪）に対する備え」「④地域の防犯力の強化」（5.2点）、「⑥市民を消費者トラブルなどから守る対策」（5.1点）の順となっており、「②風水害、土砂災害、地震などに対する備え」（4.9点）を除く全ての項目で5点以上となっている。



重要度

重要度は、項目①～⑥の中で、重要だと思われる取り組みを3つ選択して頂き、項目ごとに回答数を母数で割り集計しています。

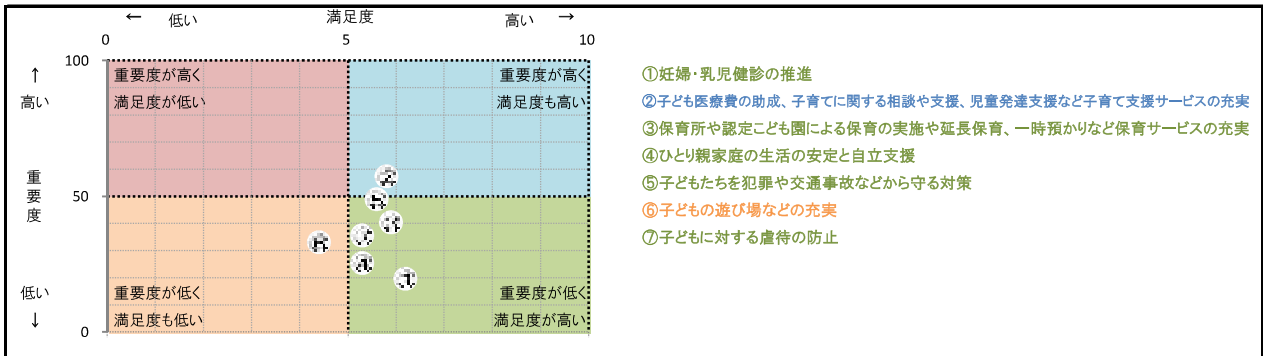
重要度では、「③雪害（大雪）に対する備え」が74.6%と最も多く、次いで「②風水害、土砂災害、地震などに対する備え」（65.7%）、「④地域の防犯力の強化」（36.4%）、「①自主防災組織の育成と強化」（34.6%）、「⑤交通安全教育の推進」（30.3%）、「⑥市民を消費者トラブルなどから守る対策」（28.4%）の順となっている。



(4) 子ども子育て支援についての満足度と重要度

満足度と重要度の関係は、「重要度が高く、満足度も高い項目」は1項目、「重要度が低く、満足度が高い項目」は5項目、「重要度が低く、満足度も低い項目」は1項目となっている。

(4)子ども子育て支援についての満足度と重要度の関係性

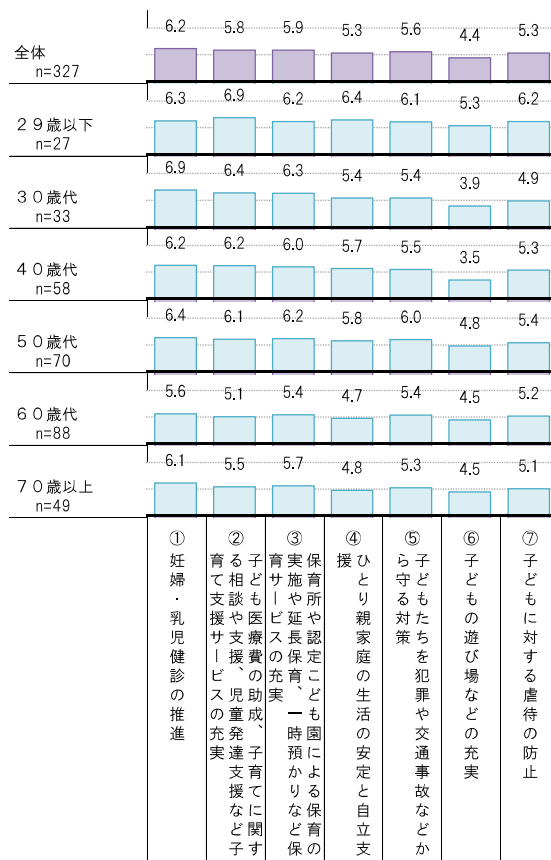
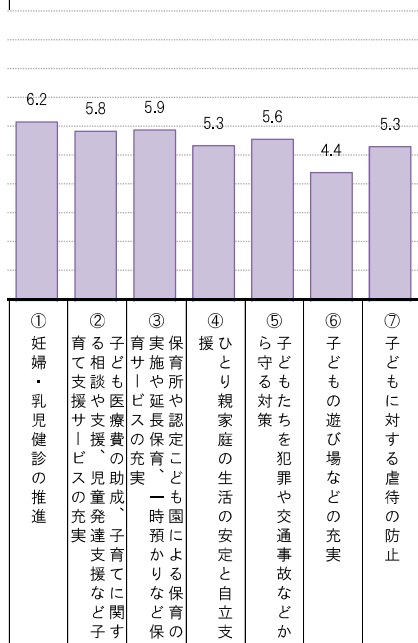


満足度

満足度は「満足（10点）」「やや満足（7点）」「やや不満（3点）」「不満（0点）」として集計したものの平均値を得点として集計しています。

満足度では、「①妊婦・乳児健診の推進」が6.2点と最も高く、次いで「③保育所や認定こども園による保育の実施や延長保育、一時預かりなど保育サービスの充実」（5.9点）、「②子ども医療費の助成、子育てに関する相談や支援、児童発達支援など子育て支援サービスの充実」（5.8点）、「⑤子どもたちを犯罪や交通事故などから守る対策」（5.6点）の順となっており、「⑥子どもの遊び場などの充実」（4.4点）を除く全ての項目で5点以上となっている。

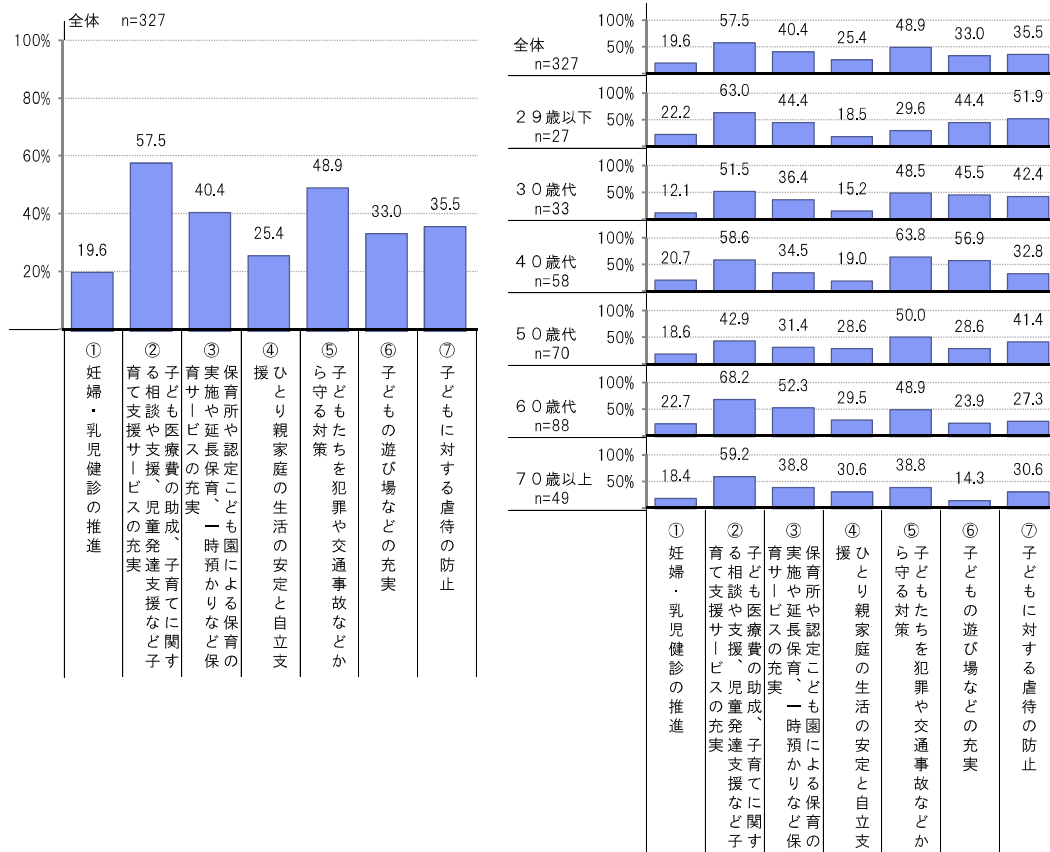
全体 n=327



重要度

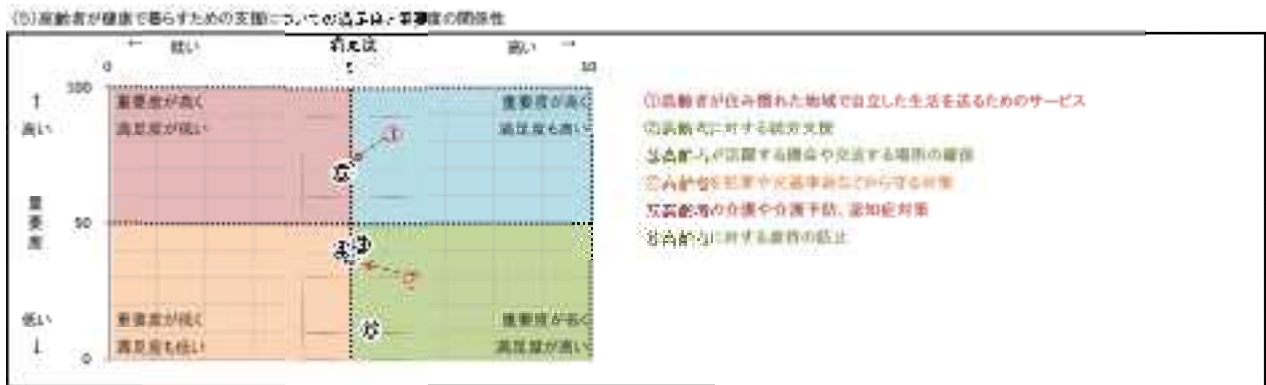
重要度は、項目①～⑦の中で、重要だと思われる取り組みを3つ選択して頂き、項目ごとに回答数を母数で割り集計しています。

重要度では、「②子ども医療費の助成、子育てに関する相談や支援、児童発達支援など子育て支援サービスの充実」が57.5%と最も多く、次いで「⑤子どもたちを犯罪や交通事故などから守る対策」(48.9%)、「③保育所や認定こども園による保育の実施や延長保育、一時預かりなど保育サービスの充実」(40.4%)、「⑦子どもに対する虐待の防止」(35.5%)、「⑥子どもの遊び場などの充実」(33.0%)、「④ひとり親家庭の生活の安定と自立支援」(25.4%)、「①妊婦・乳児健診の推進」(19.6%)の順となっている。



(5) 高齢者が健康で暮らすための支援についての満足度と重要度

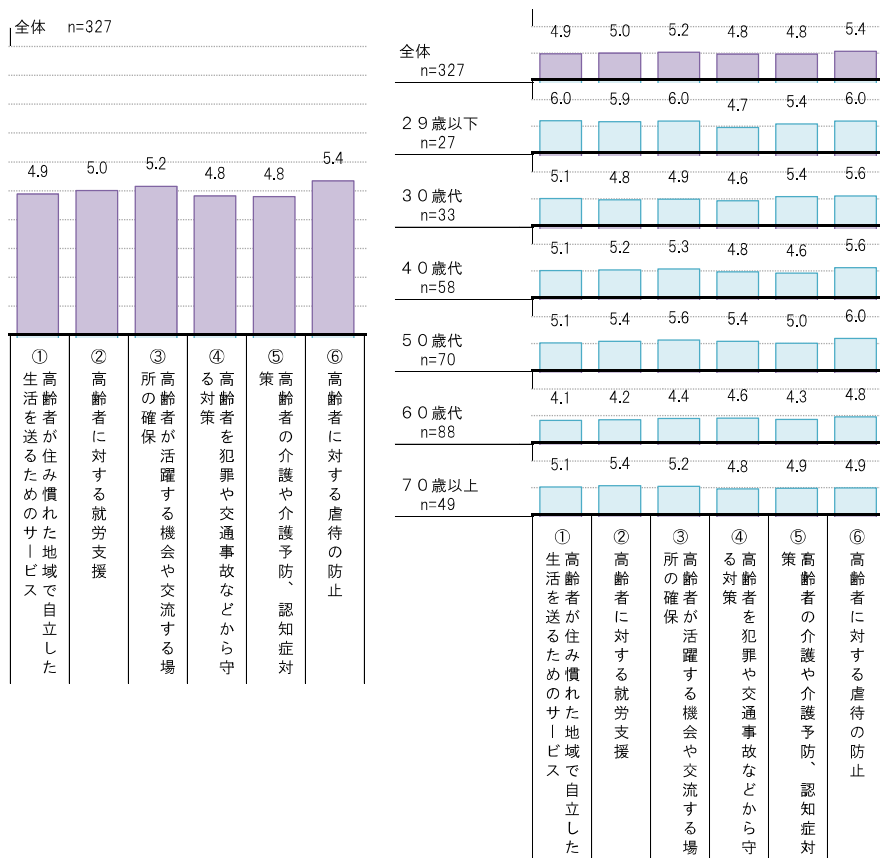
満足度と重要度の関係は、「重要度が高く、満足度が低い項目」は2項目、「重要度が低く、満足度が高い項目」は3項目、「重要度が低く、満足度も低い項目」は1項目となっている。



満足度

満足度は「満足（10点）」、「やや満足（7点）」、「やや不満（3点）」、「不満（0点）」として集計したものの平均値を得点として集計しています。

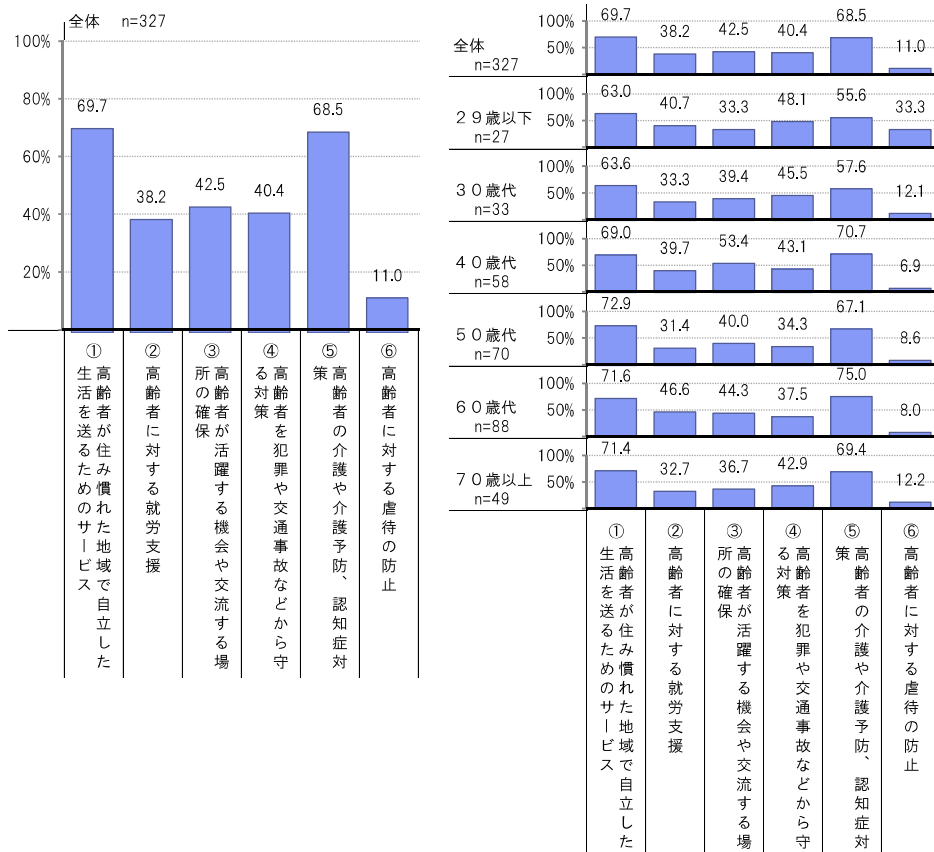
満足度では、「⑥高齢者に対する虐待の防止」が5.4点と最も高く、次いで「③高齢者が活躍する機会や交流する場所の確保」（5.2点）、「②高齢者に対する就労支援」（5.0点）、「①高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を送るためのサービス」（4.9点）、「④高齢者を犯罪や交通事故などから守る対策」⑤高齢者の介護や介護予防、認知症対策」（4.8点）の順となっている。



重要度

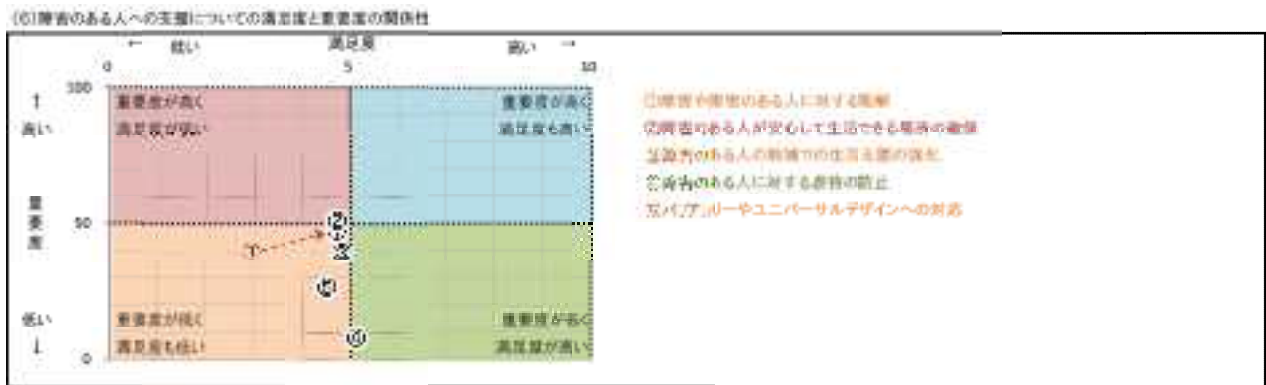
重要度は、項目①～⑥の中で、重要だと思われる取り組みを3つ選択して頂き、項目ごとに回答数を母数で割り集計しています。

重要度では、「①高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を送るためのサービス」が69.7%と最も多く、次いで「⑤高齢者の介護や介護予防、認知症対策」(68.5%)、「③高齢者が活躍する機会や交流する場所の確保」(42.5%)、「④高齢者を犯罪や交通事故などから守る対策」(40.4%)、「②高齢者に対する就労支援」(38.2%)、「⑥高齢者に対する虐待の防止」(11.0%)の順となっている。



(6) 障害のある人への支援についての満足度と重要度

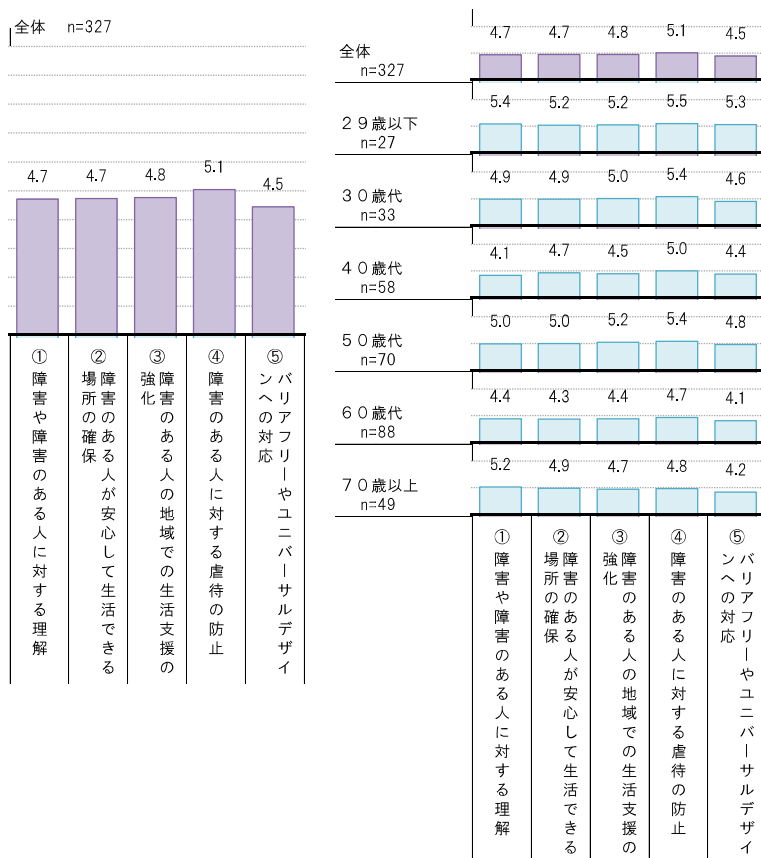
満足度と重要度の関係は、「重要度が高く、満足度が低い項目」は1項目、「重要度が低く、満足度が高い項目」は1項目、「重要度が低く、満足度も低い項目」は3項目となっている。



満足度

満足度は「満足（10点）」「やや満足（7点）」「やや不満（3点）」「不満（0点）」として集計したものの平均値を得点として集計しています。

満足度では、「④障害のある人に対する虐待の防止」が5.1点と最も高く、次いで「③障害のある人の地域での生活支援の強化」（4.8点）、「①障害や障害のある人に対する理解」「②障害のある人が安心して生活できる場所の確保」（4.7点）、「⑤バリアフリーやユニバーサルデザインへの対応」（4.5点）の順となっている。



重要度

重要度は、項目①～⑤の中で、重要だと思われる取り組みを2つ選択して頂き、項目ごとに回答数を母数で割り集計しています。

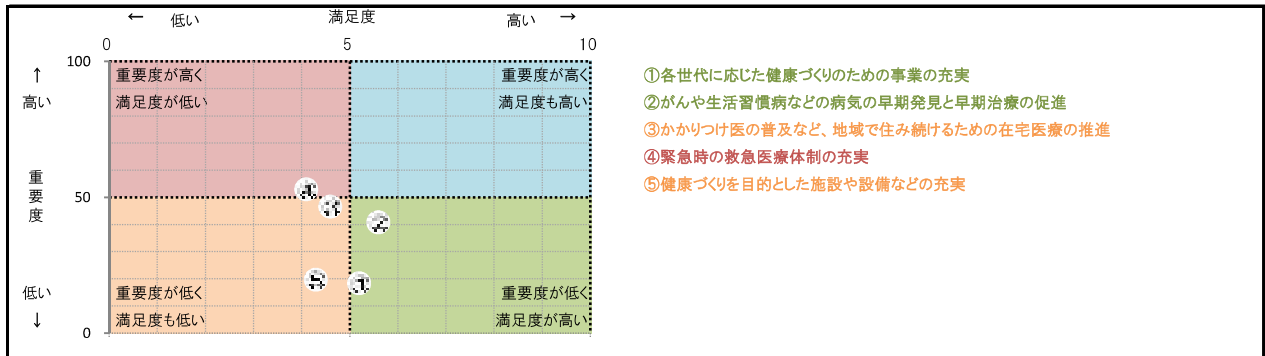
重要度では、「②障害のある人が安心して生活できる場所の確保」が51.4%と最も多く、次いで「①障害や障害のある人に対する理解」(47.4%)、「③障害のある人の地域での生活支援の強化」(39.4%)、「⑤バリアフリーやユニバーサルデザインへの対応」(26.3%)、「④障害のある人に対する虐待の防止」(8.0%)の順となっている。



(7) 健康づくりについての満足度と重要度

満足度と重要度の関係は、「重要度が高く、満足度が低い項目」は1項目、「重要度が低く、満足度が高い項目」は2項目、「重要度が低く、満足度も低い項目」は2項目となっている。

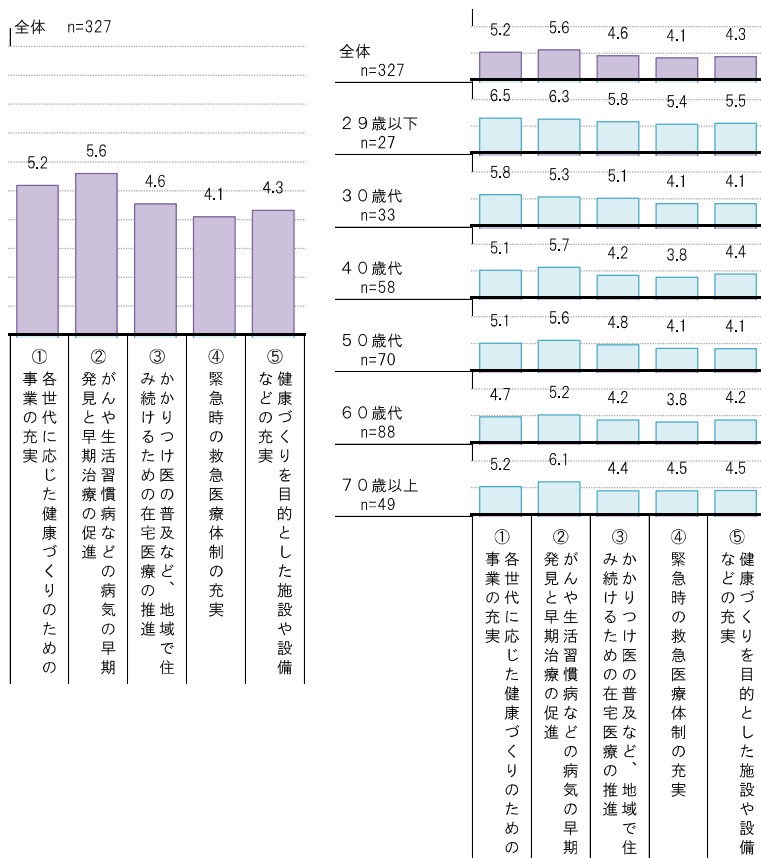
(7) 健康づくりについての満足度と重要度の関係性



満足度

満足度は「満足（10点）」、「やや満足（7点）」、「やや不満（3点）」、「不満（0点）」として集計したものの平均値を得点として集計しています。

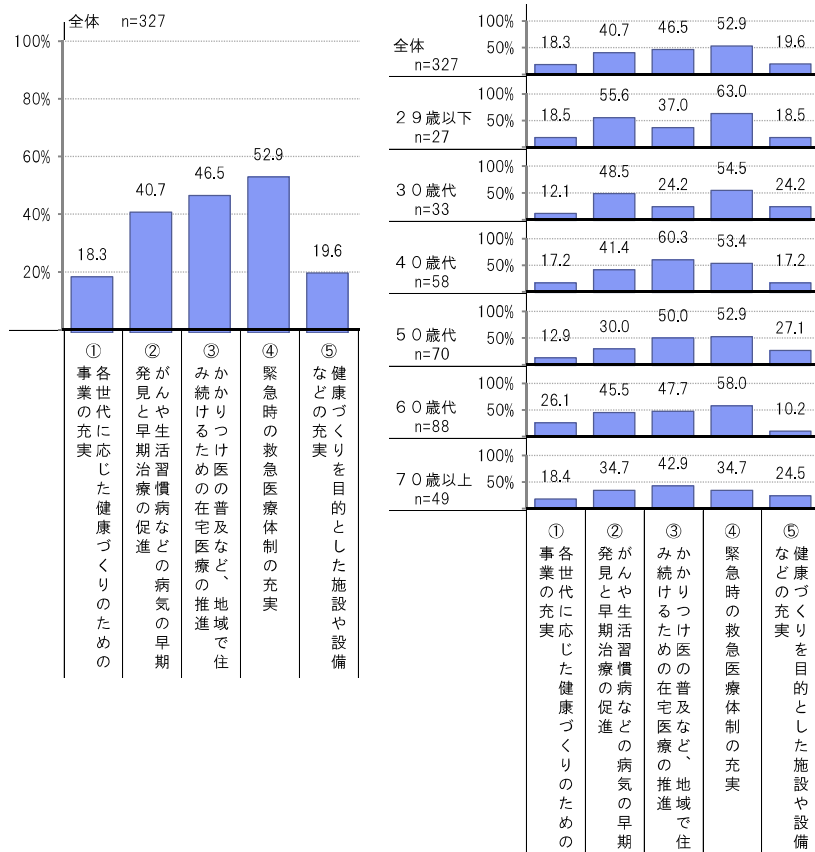
満足度では、「②がんや生活習慣病などの病気の早期発見と早期治療の促進」が5.6点と最も高く、次いで「①各世代に応じた健康づくりのための事業の充実」（5.2点）、「③かかりつけ医の普及など、地域で住み続けるための在宅医療の推進」（4.6点）、「⑤健康づくりを目的とした施設や設備などの充実」（4.3点）、「④緊急時の救急医療体制の充実」（4.1点）の順となっている。



重要度

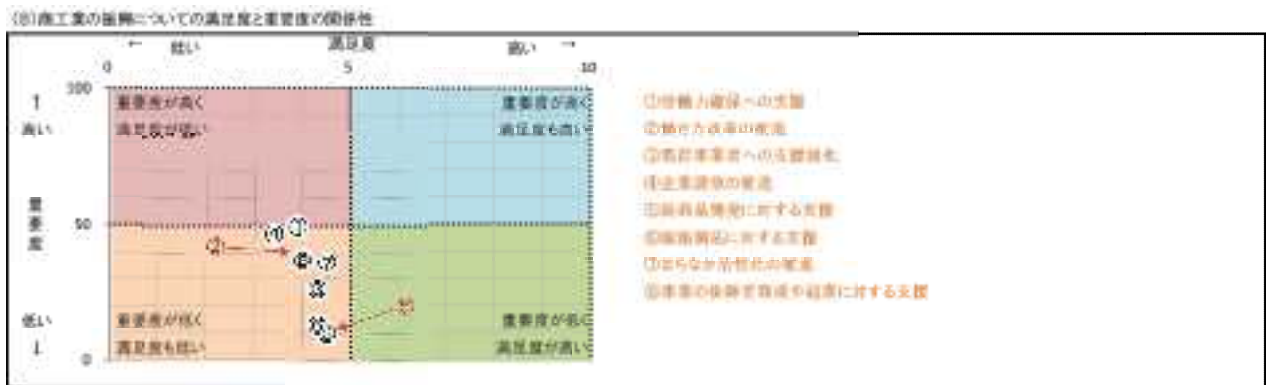
重要度は、項目①～⑤の中で、重要だと思われる取り組みを2つ選択して頂き、項目ごとに回答数を母数で割り集計しています。

重要度では、「④緊急時の救急医療体制の充実」が52.9%と最も多く、次いで「③かかりつけ医の普及など、地域で住み続けるための在宅医療の推進」(46.5%)、「②がんや生活習慣病などの病気の早期発見と早期治療の促進」(40.7%)、「⑤健康づくりを目的とした施設や設備などの充実」(19.6%)、「①各世代に応じた健康づくりのための事業の充実」(18.3%)の順となっている。



(8) 商工業の振興についての満足度と重要度

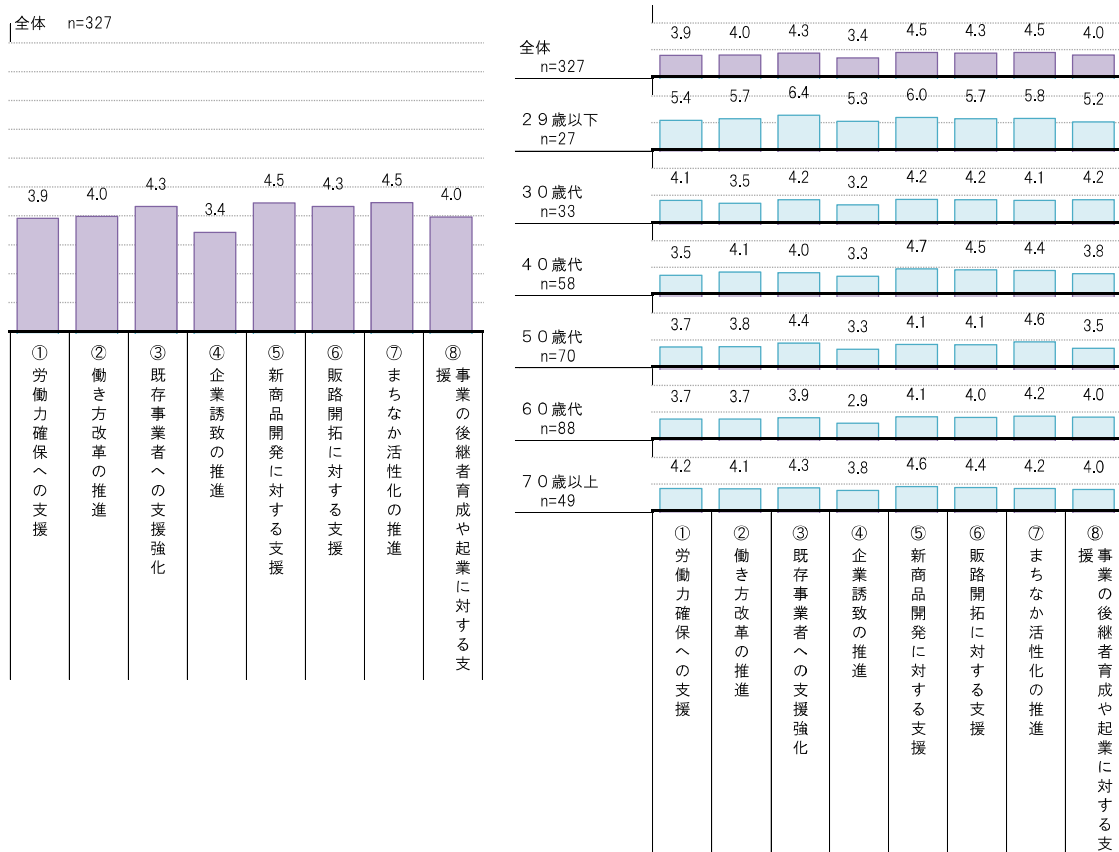
満足度と重要度の関係は、8項目全てが「重要度が低く、満足度も低い項目」となっている。



満足度

満足度は「満足 (10 点)」、「やや満足 (7 点)」、「やや不満 (3 点)」、「不満 (0 点)」として集計したものの平均値を得点として集計しています。

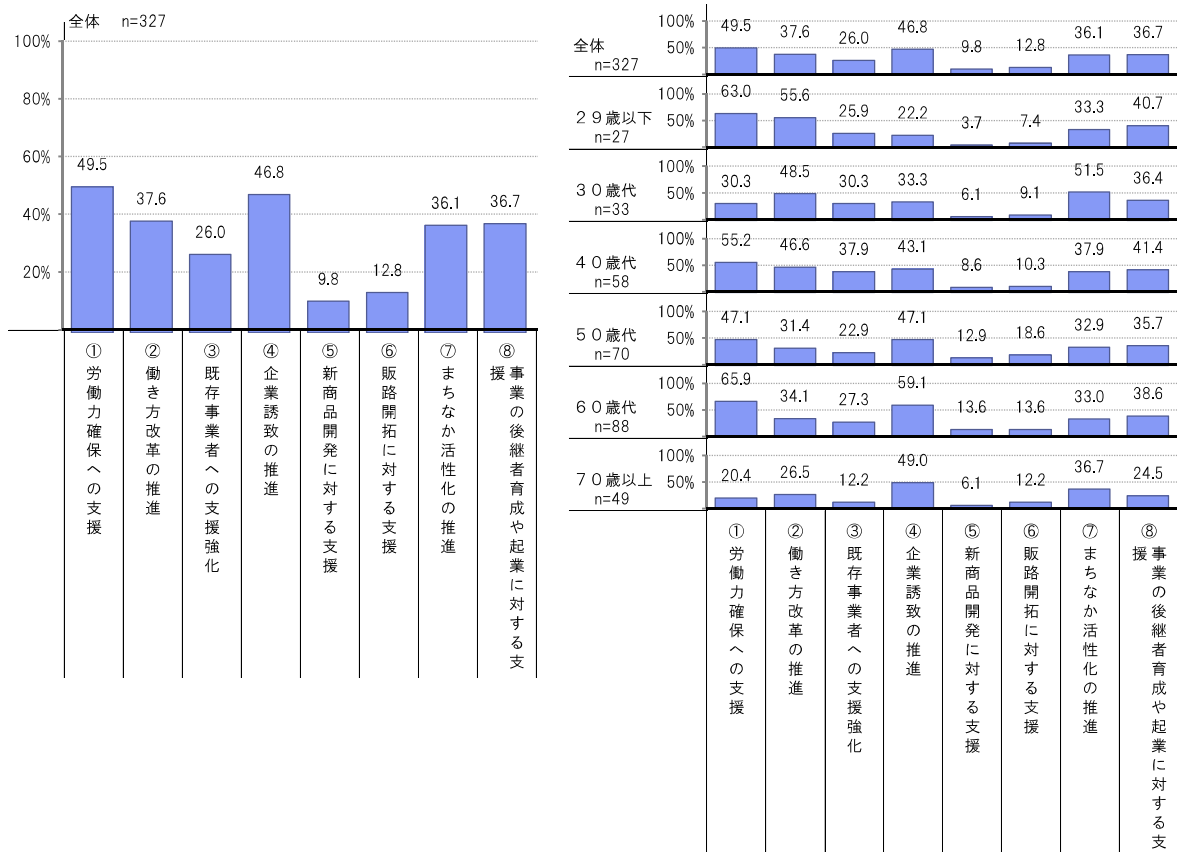
満足度では、「⑤新商品開発に対する支援」と「⑦まちなか活性化の推進」が 4.5 点と最も高く、次いで「③既存事業者への支援強化」「⑥販路開拓に対する支援」(4.3 点)、「②働き方改革の推進」「⑧事業の後継者育成や起業に対する支援」(4.0 点)の順となっている。



重要度

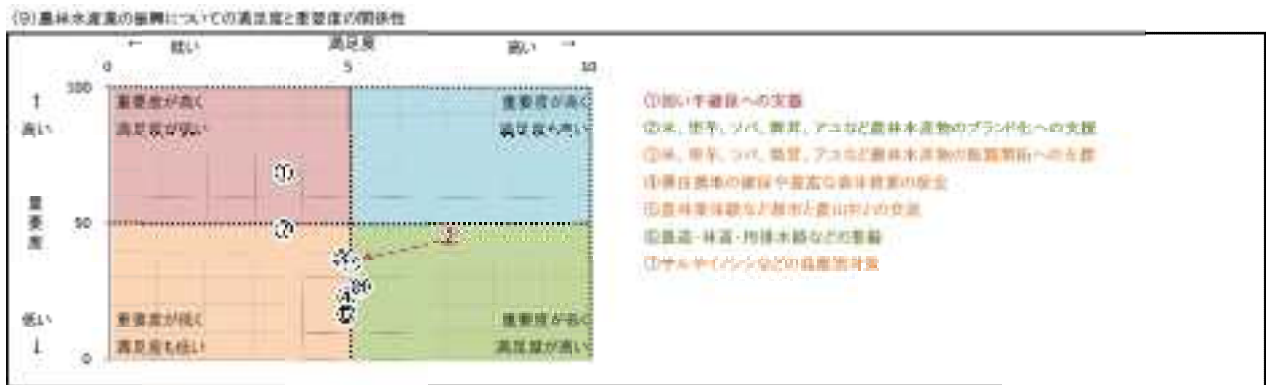
重要度は、項目①～⑧の中で、重要だと思われる取り組みを3つ選択して頂き、項目ごとに回答数を母数で割り集計しています。

重要度では、「①労働力確保への支援」が49.5%と最も多く、次いで「④企業誘致の推進」(46.8%)、「②働き方改革の推進」(37.6%)、「⑧事業の後継者育成や起業に対する支援」(36.7%)、「⑦まちなか活性化の推進」(36.1%)、「③既存事業者への支援強化」(26.0%)、「⑥販路開拓に対する支援」(12.8%)、「⑤新商品開発に対する支援」(9.8%)の順となっている。



(9) 農林水産業の振興についての満足度と重要度

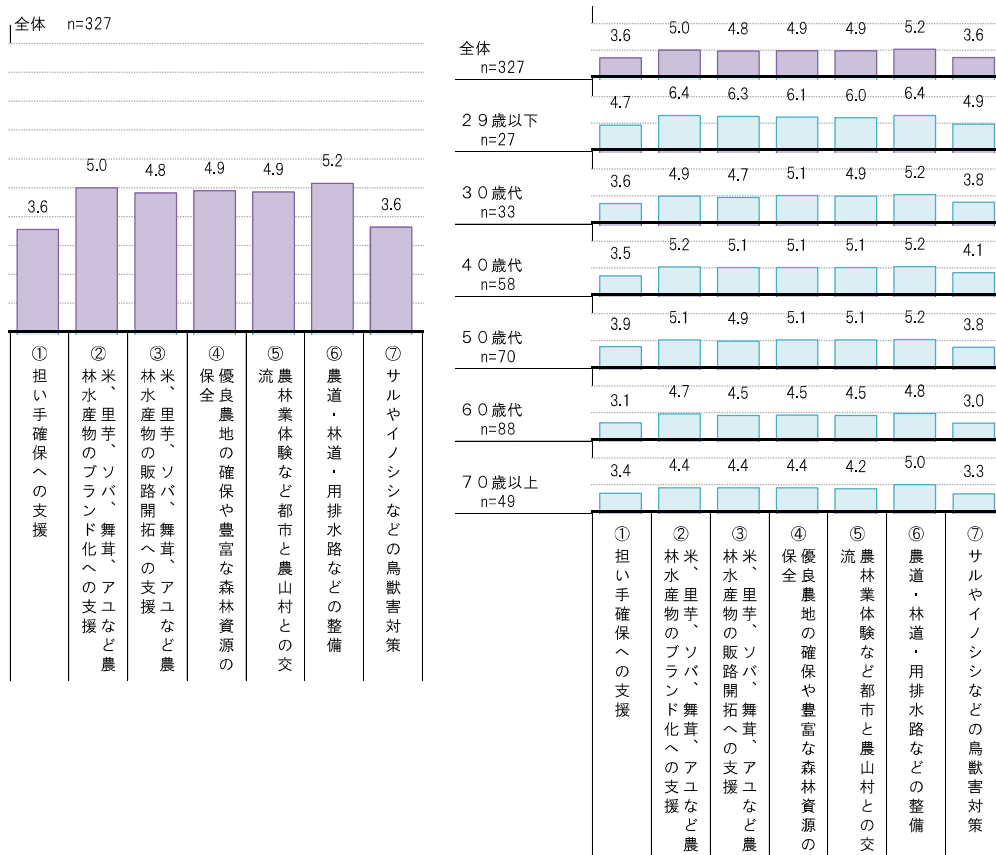
満足度と重要度の関係は、「重要度が高く、満足度が低い項目」は1項目、「重要度が低く、満足度が高い項目」は2項目、「重要度が低く、満足度も低い項目」は4項目となっている。



満足度

満足度は「満足（10点）」「やや満足（7点）」「やや不満（3点）」「不満（0点）」として集計したものの平均値を得点として集計しています。

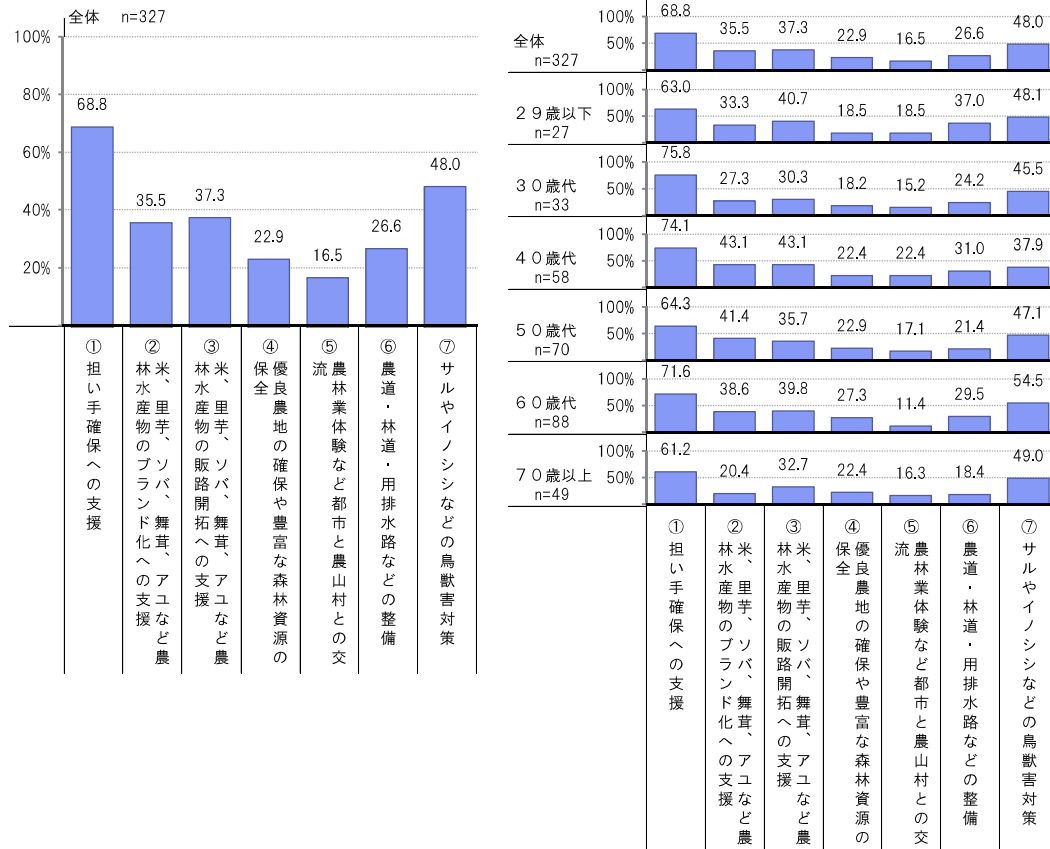
満足度では、「⑥農道・林道・用排水路などの整備」が5.2点と最も高く、次いで「②米、里芋、ソバ、舞茸、アユなど農林水産物のブランド化への支援」（5.0点）、「④優良農地の確保や豊富な森林資源の保全」「⑤農林業体験など都市と農山村との交流」（4.9点）、「③米、里芋、ソバ、舞茸、アユなど農林水産物の販路開拓への支援」（4.6点）の順となっている。



重要度

重要度は、項目①～⑦の中で、重要だと思われる取り組みを3つ選択して頂き、項目ごとに回答数を母数で割り集計しています。

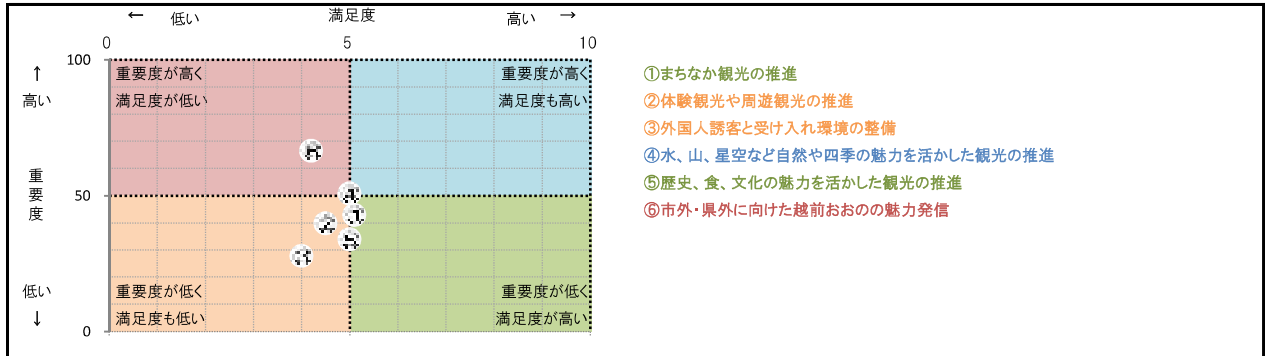
重要度では、「①担い手確保への支援」が68.8%と最も多く、次いで「⑦サルやイノシシなどの鳥獣害対策」(48.0%)、「③米、里芋、ソバ、舞茸、アユなど農林水産物の販路開拓への支援」(37.3%)、「②米、里芋、ソバ、舞茸、アユなど農林水産物のブランド化への支援」(35.5%)の順となっている。



（10）観光の振興についての満足度と重要度

満足度と重要度の関係は、「重要度が高く、満足度も高い項目」は1項目、「重要度が高く、満足度が低い項目」は1項目、「重要度が低く、満足度が高い項目」は2項目、「重要度が低く、満足度も低い項目」は2項目となっている。

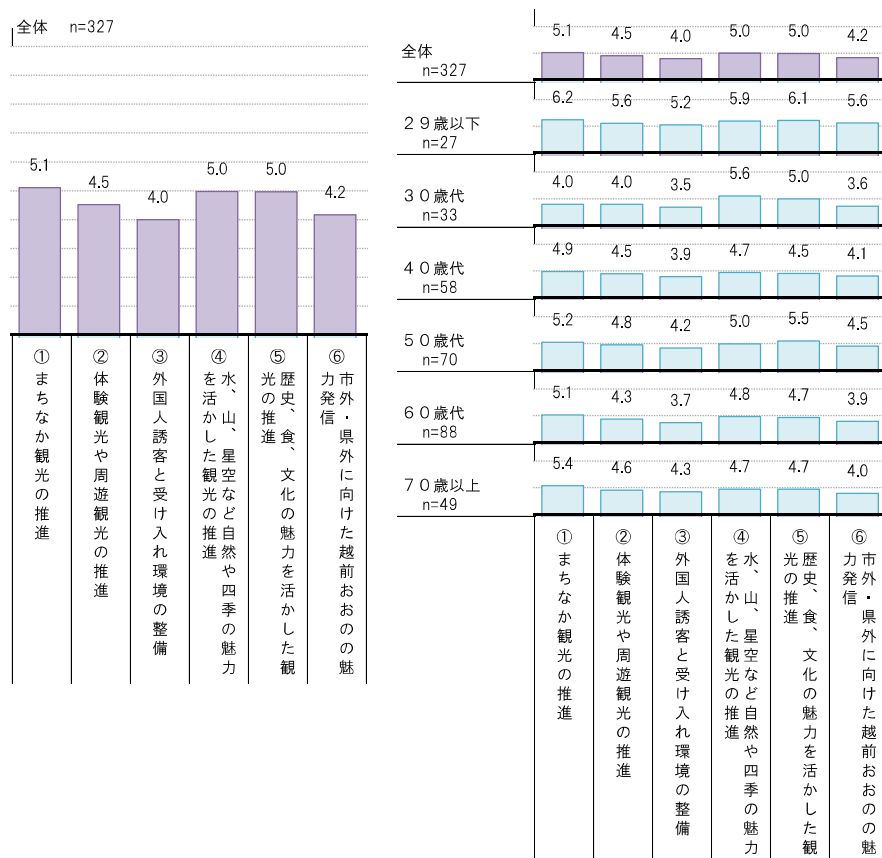
（10）観光の振興についての満足度と重要度の関係性



満足度

満足度は「満足（10点）」、「やや満足（7点）」、「やや不満（3点）」、「不満（0点）」として集計したものの平均値を得点として集計しています。

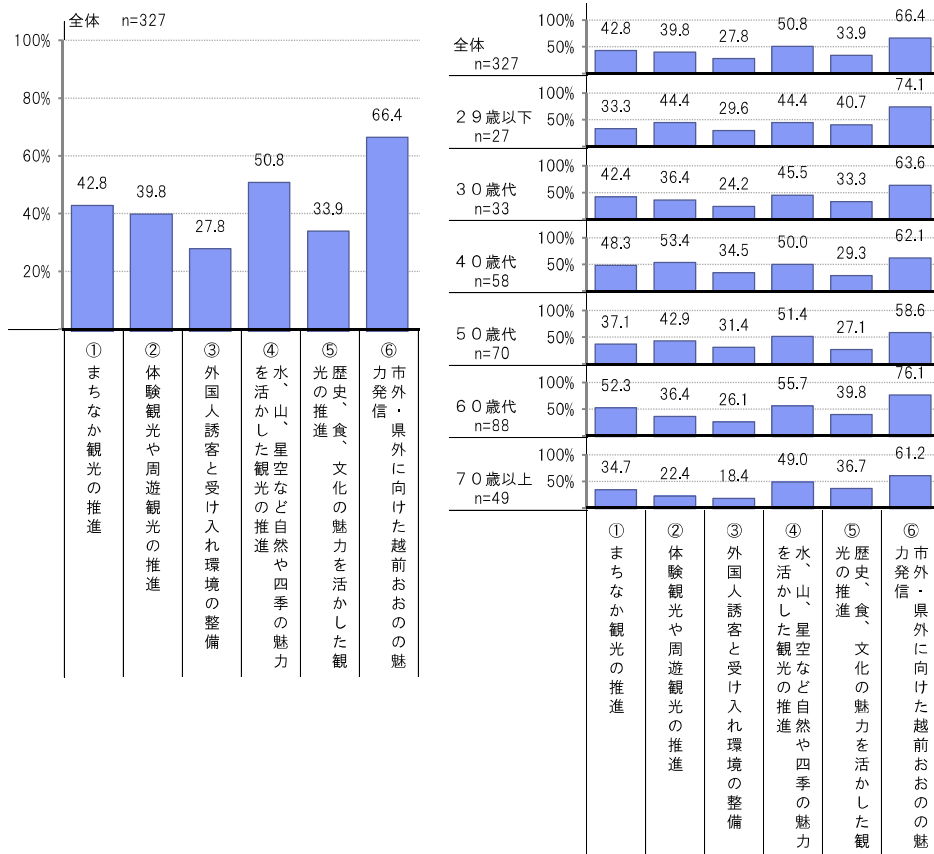
満足度では、「①まちなか観光の推進」が5.1点と最も高く、次いで「④水、山、星空など自然や四季の魅力を活かした観光の推進」「⑤歴史、食、文化の魅力を活かした観光の推進」（5.0点）、「②体験観光や周遊観光の推進」（4.5点）の順となっている。



重要度

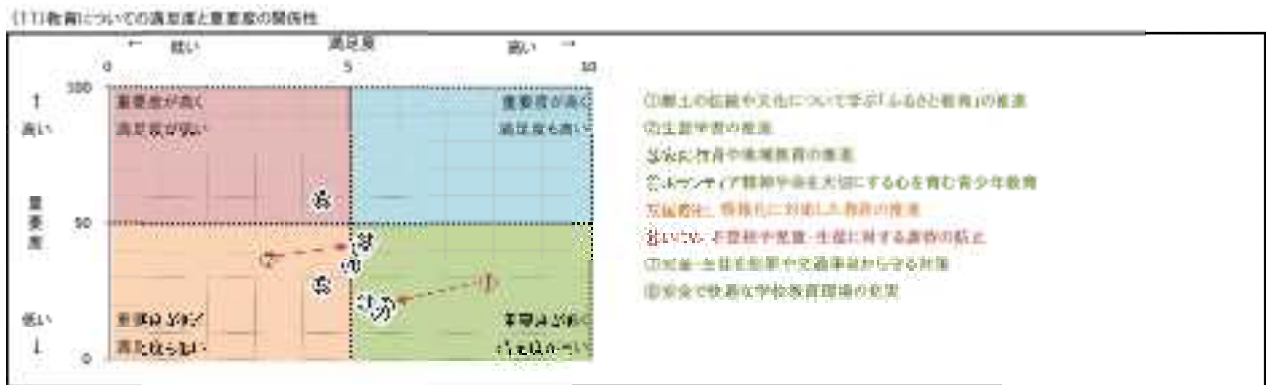
重要度は、項目①～⑥の中で、重要だと思われる取り組みを3つ選択して頂き、項目ごとに回答数を母数で割り集計しています。

重要度では、「⑥市外・県外に向けた越前おおのの魅力発信」が66.4%と最も多く、次いで「④水、山、星空など自然や四季の魅力を活かした観光の推進」(50.8%)、「①まちなか観光の推進」(42.8%)、「②体験観光や周遊観光の推進」(39.8%)の順となっている。



(11) 教育についての満足度と重要度

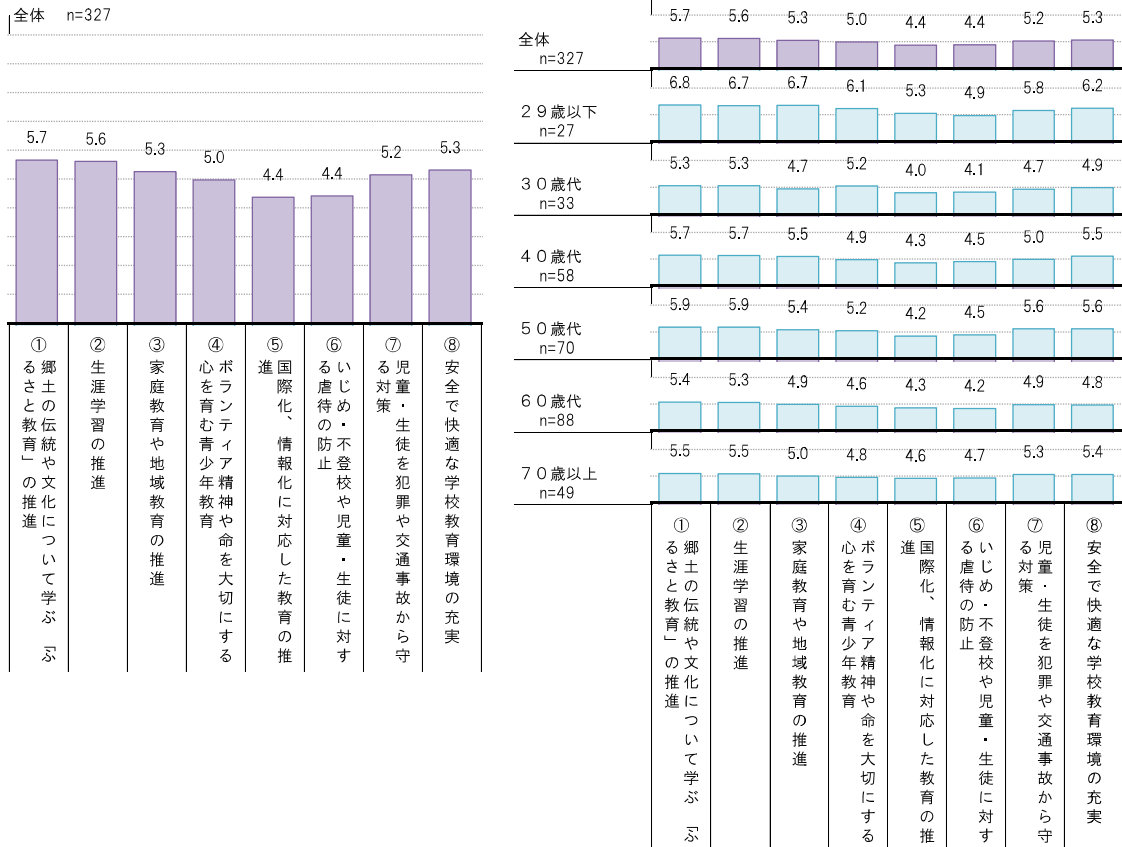
満足度と重要度の関係は、「重要度が高く、満足度が低い項目」は1項目、「重要度が低く、満足度が高い項目」は5項目、「重要度が低く、満足度も低い項目」は2項目となっている。



満足度

満足度は「満足（10点）」「やや満足（7点）」「やや不満（3点）」「不満（0点）」として集計したものの平均値を得点として集計しています。

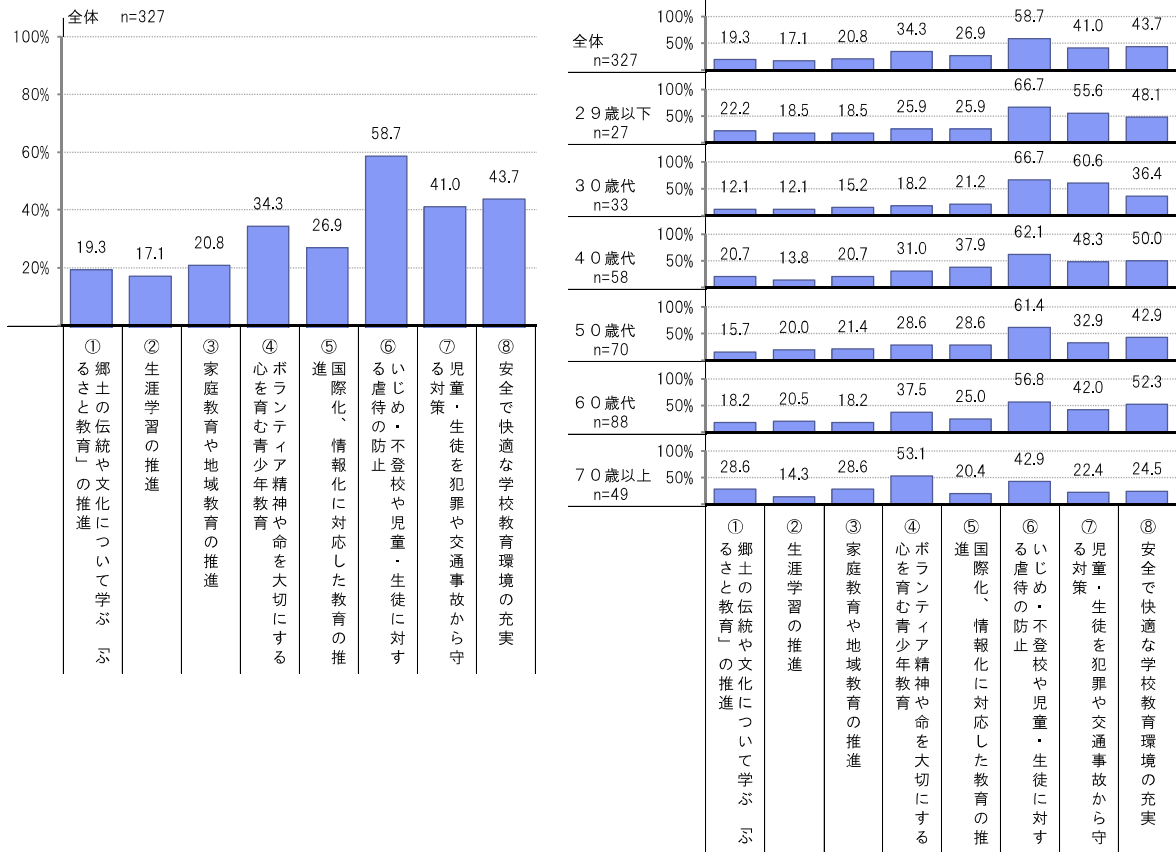
満足度では、「①郷土の伝統や文化について学ぶ「ふるさと教育」の推進」が5.7点と最も高く、次いで「②生涯学習の推進」（5.6点）、「⑧安全で快適な学校教育環境の充実」「③家庭教育や地域教育の推進」（5.3点）、「⑦児童・生徒を犯罪や交通事故から守る対策」（5.2点）、「④ボランティア精神や命を大切にする心を育む青少年教育」（5.0点）の順となっており、多くの項目で5点を超えている。



重要度

重要度は、項目①～⑧の中で、重要だと思われる取り組みを3つ選択して頂き、項目ごとに回答数を母数で割り集計しています。

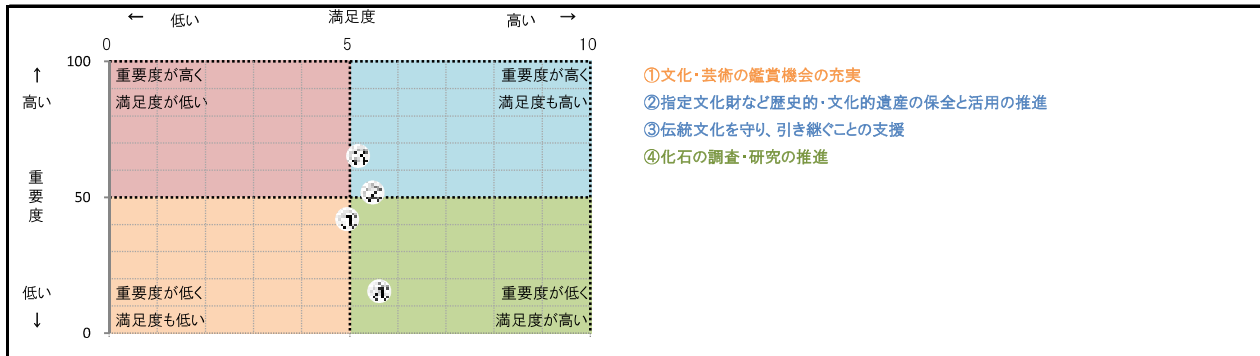
重要度では、「⑥いじめ・不登校や児童・生徒に対する虐待の防止」が58.7%と最も多く、次いで「⑧安全で快適な学校教育環境の充実」(43.7%)、「⑦児童・生徒を犯罪や交通事故から守る対策」(41.0%)、「④ボランティア精神や命を大切にする心を育む青少年教育」(34.3%)の順となっている。



(12) 文化の保存や継承についての満足度と重要度

満足度と重要度の関係は、「重要度が高く、満足度も高い項目」は2項目、「重要度が低く、満足度が高い項目」は1項目、「重要度が低く、満足度も低い項目」は1項目となっている。

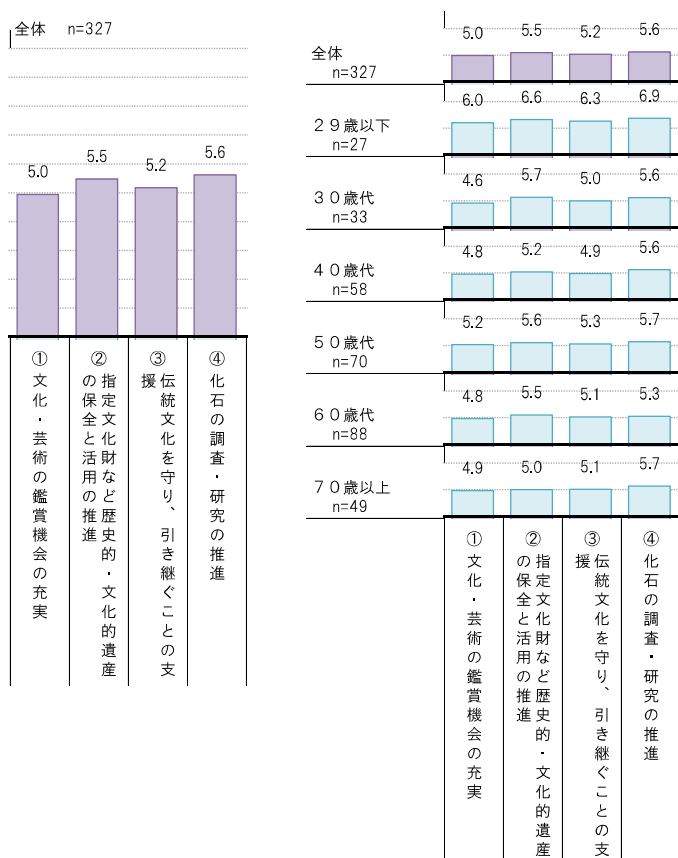
(12)文化の保存や継承についての満足度と重要度の関係性



満足度

満足度は「満足（10点）」、「やや満足（7点）」、「やや不満（3点）」、「不満（0点）」として集計したものの平均値を得点として集計しています。

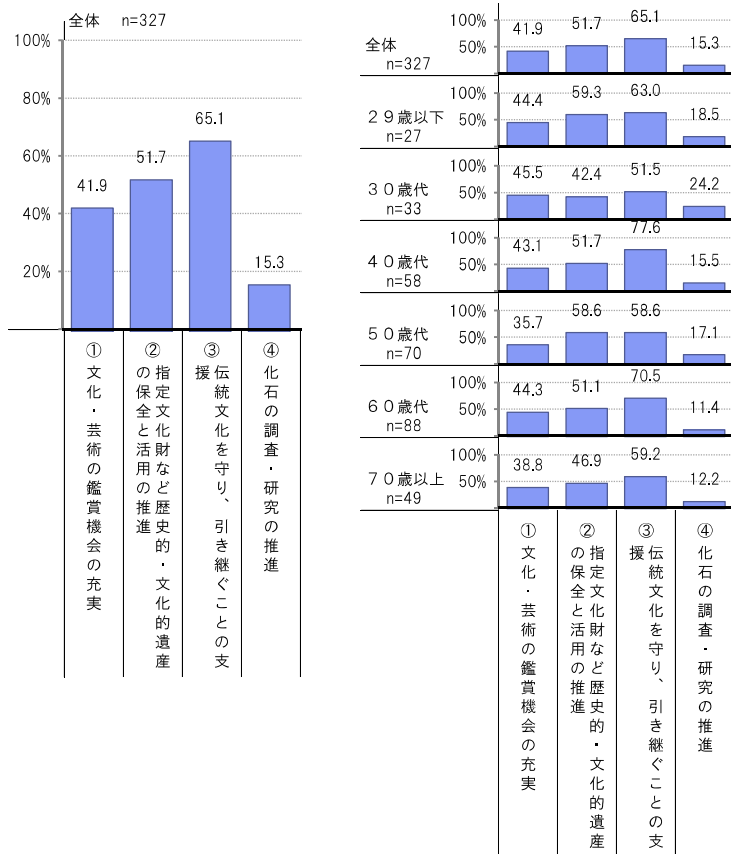
満足度では、「④化石の調査・研究の推進」が5.6点と最も高く、次いで「②指定文化財など歴史的・文化的遺産の保全と活用の推進」（5.5点）、「③伝統文化を守り、引き継ぐことの支援」（5.2点）、「①文化・芸術の鑑賞機会の充実」（5.0点）の順となっており、全ての項目が5点を超えている。



重要度

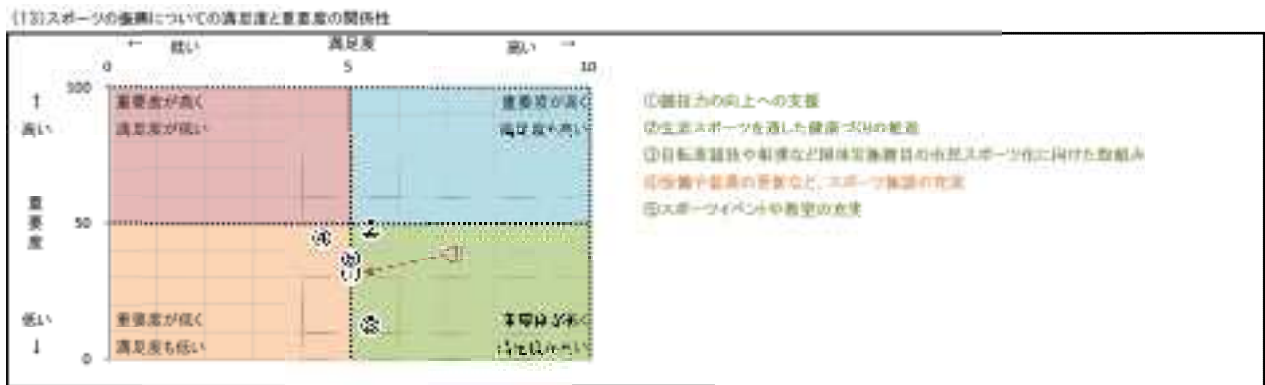
重要度は、項目①～④の中で、重要だと思われる取り組みを2つ選択して頂き、項目ごとに回答数を母数で割り集計しています。

重要度では、「③伝統文化を守り、引き継ぐことの支援」が65.1%と最も多く、次いで「②指定文化財など歴史的・文化的遺産の保全と活用の推進」(51.7%)、「①文化・芸術の鑑賞機会の充実」(41.9%)、「④化石の調査・研究の推進」(15.3%)の順となっている。



(13) スポーツの振興についての満足度と重要度

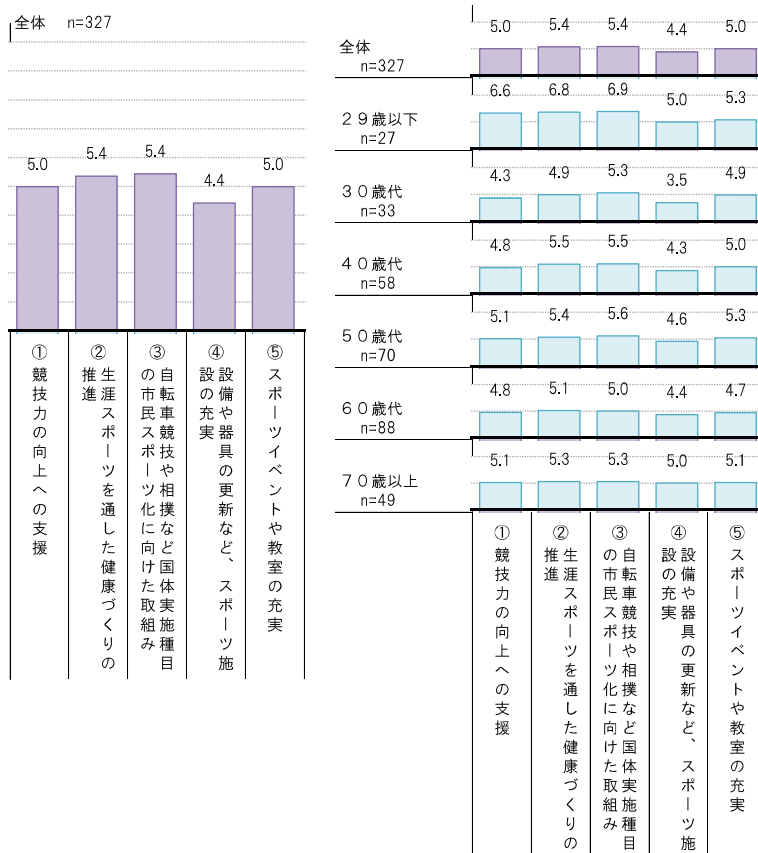
満足度と重要度の関係は、「重要度が低く、満足度が高い項目」は2項目、「重要度が低く、満足度も低い項目」は3項目となっている。



満足度

満足度は「満足（10点）」、「やや満足（7点）」、「やや不満（3点）」、「不満（0点）」として集計したものの平均値を得点として集計しています。

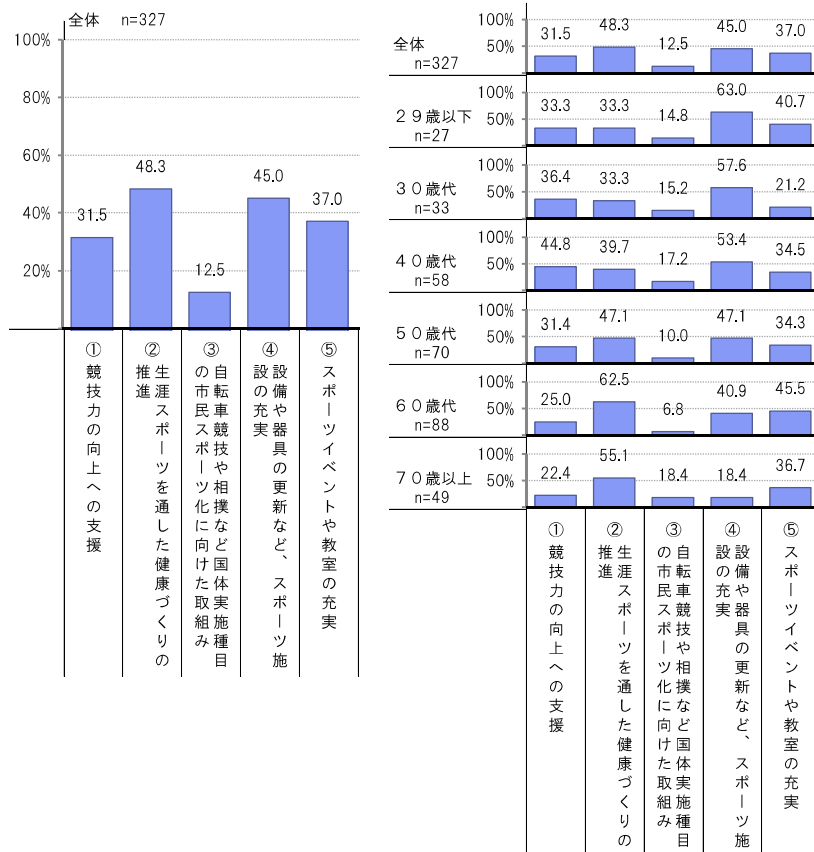
満足度では、「②生涯スポーツを通じた健康づくりの推進」と「③自転車競技や相撲など国体実施種目の市民スポーツ化に向けた取組み」が5.4点と最も高く、次いで「①競技力の向上への支援」「⑤スポーツイベントや教室の充実」（5.0点）の順となっている。



重要度

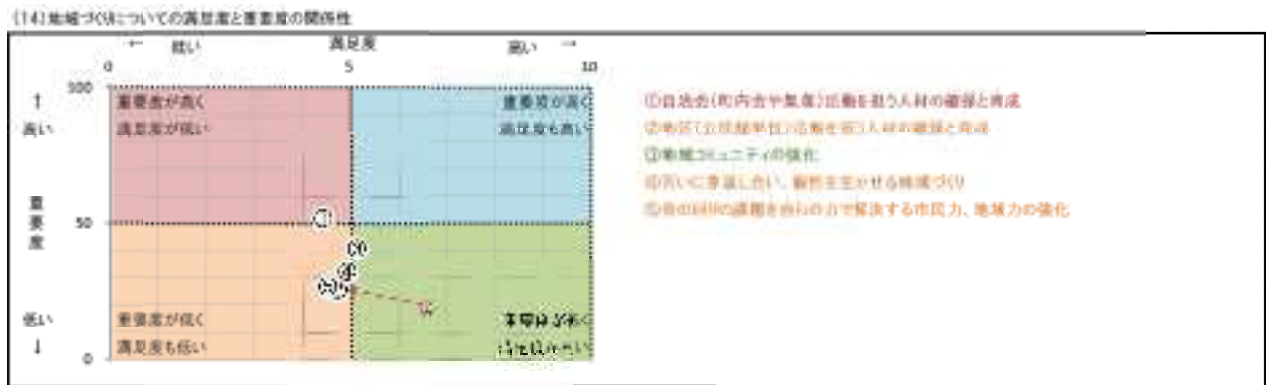
重要度は、項目①～⑤の中で、重要だと思われる取り組みを2つ選択して頂き、項目ごとに回答数を母数で割り集計しています。

重要度では、「②生涯スポーツを通した健康づくりの推進」が48.3%と最も多く、次いで「④設備や器具の更新など、スポーツ施設の充実」(45.0%)、「⑤スポーツイベントや教室の充実」(37.0%)、「①競技力の向上への支援」(31.5%)、「③自転車競技や相撲など国体実施種目の市民スポーツ化に向けた取り組み」(12.5%)の順となっている。



(14) 地域づくりについての満足度と重要度

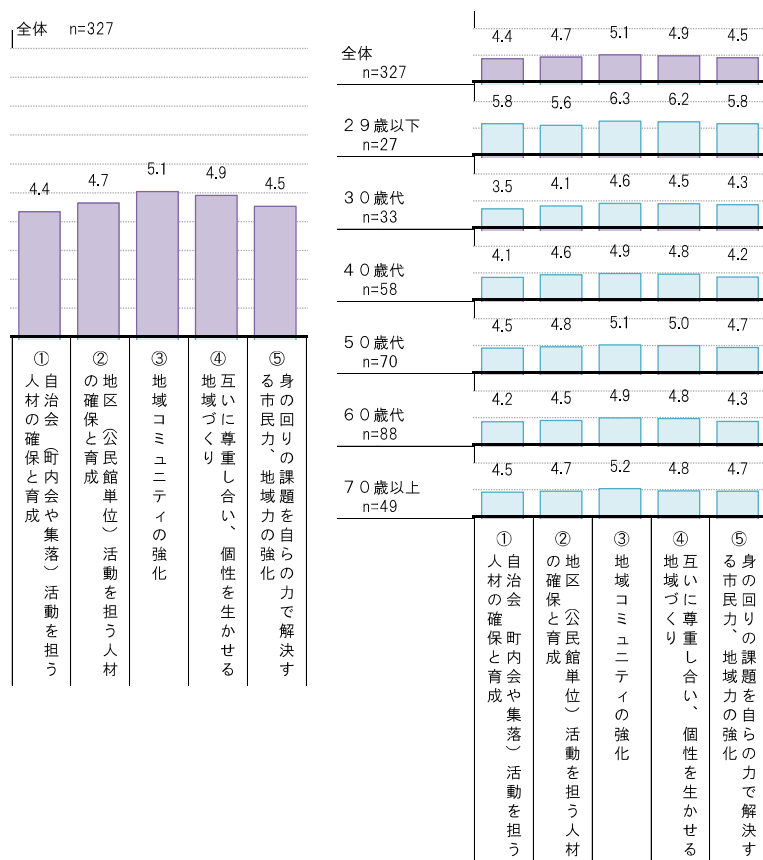
満足度と重要度の関係は、「重要度が高く、満足度が低い項目」は1項目、「重要度が低く、満足度が高い項目」は1項目、「重要度が低く、満足度も低い項目」は3項目となっている。



満足度

満足度は「満足(10点)」、「やや満足(7点)」、「やや不満(3点)」、「不満(0点)」として集計したものの平均値を得点として集計しています。

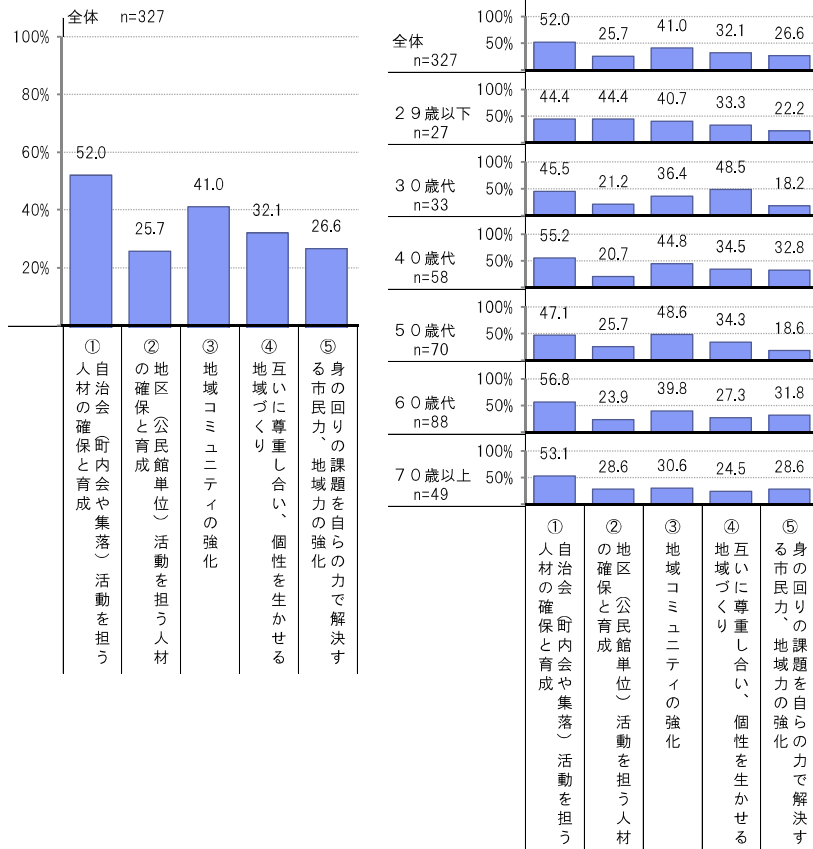
満足度では、「③地域コミュニティの強化」が5.1点と最も高く、次いで「④互いに尊重し合い、個性を生かせる地域づくり」(4.9点)、「②地区(公民館単位)活動を担う人材の確保と育成」(4.7点)、「①自治会(町内会や集落)活動を担う」(4.4点)、「⑤身の回りの課題を自らの力で解決する市民力、地域力の強化」(4.5点)の順となっている。



重要度

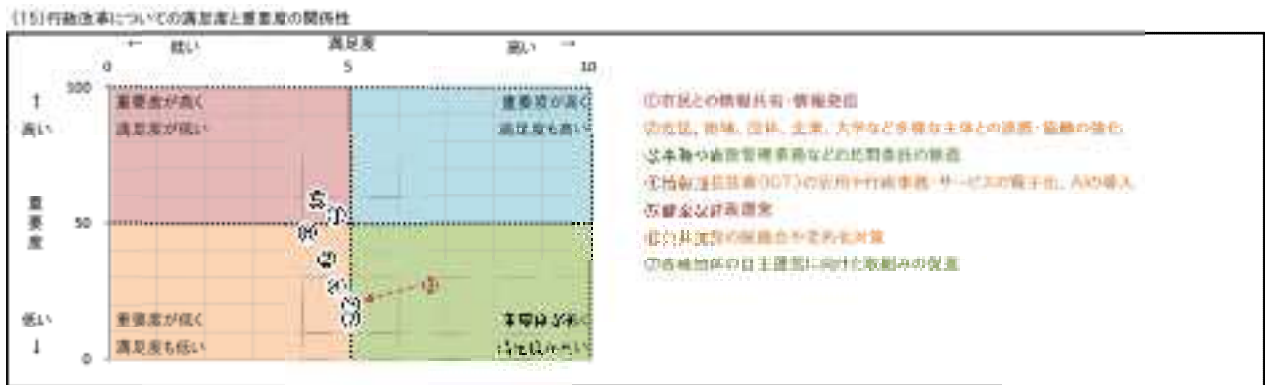
重要度は、項目①～⑤の中で、重要だと思われる取り組みを2つ選択して頂き、項目ごとに回答数を母数で割り集計しています。

重要度では、「①自治会（町内会や集落）活動を担う人材の確保と育成」が52.0%と最も多く、次いで「③地域コミュニティの強化」（41.0%）、「④互いに尊重し合い、個性を生かせる地域づくり」（32.1%）、「⑤身の回りの課題を自らの力で解決する市民力、地域力の強化」（26.6%）、「②地区（公民館単位）活動を担う人材」（25.7%）の順となっている。



(15) 行政改革についての満足度と重要度

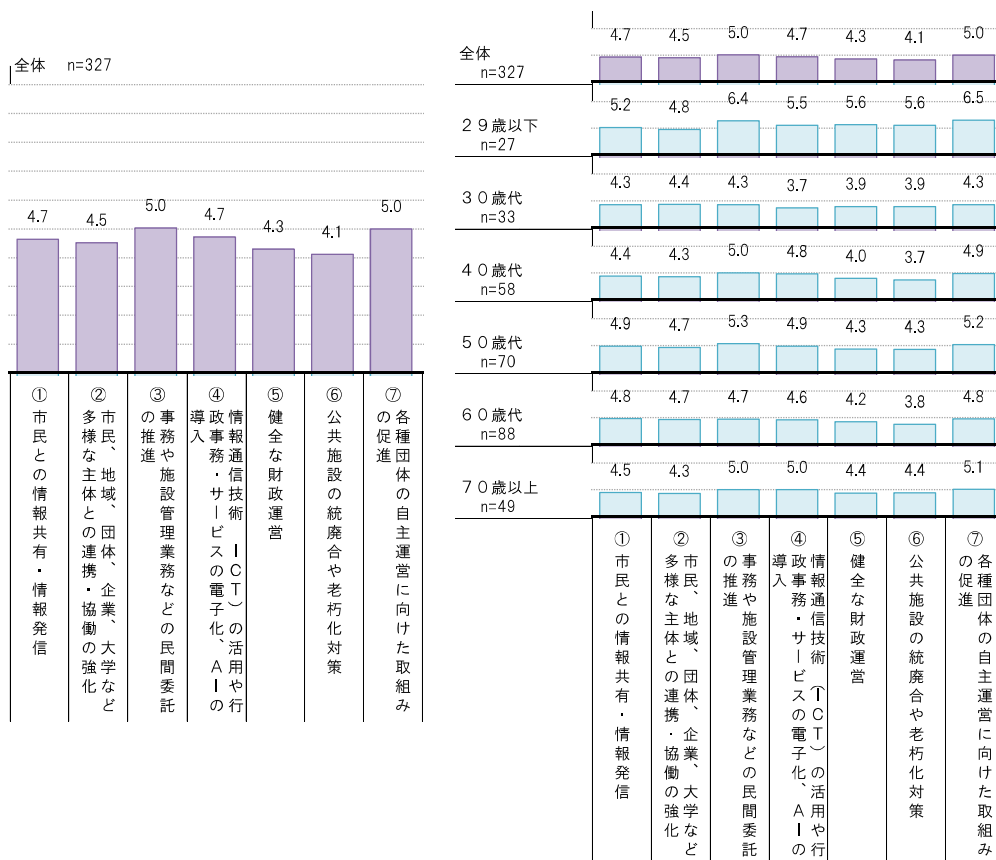
満足度と重要度の関係は、「重要度が高く、満足度が低い項目」は2項目、「重要度が低く、満足度が高い項目」は2項目、「重要度が低く、満足度も低い項目」は3項目となっている。



満足度

満足度は「満足（10点）」「やや満足（7点）」「やや不満（3点）」「不満（0点）」として集計したものの平均値を得点として集計しています。

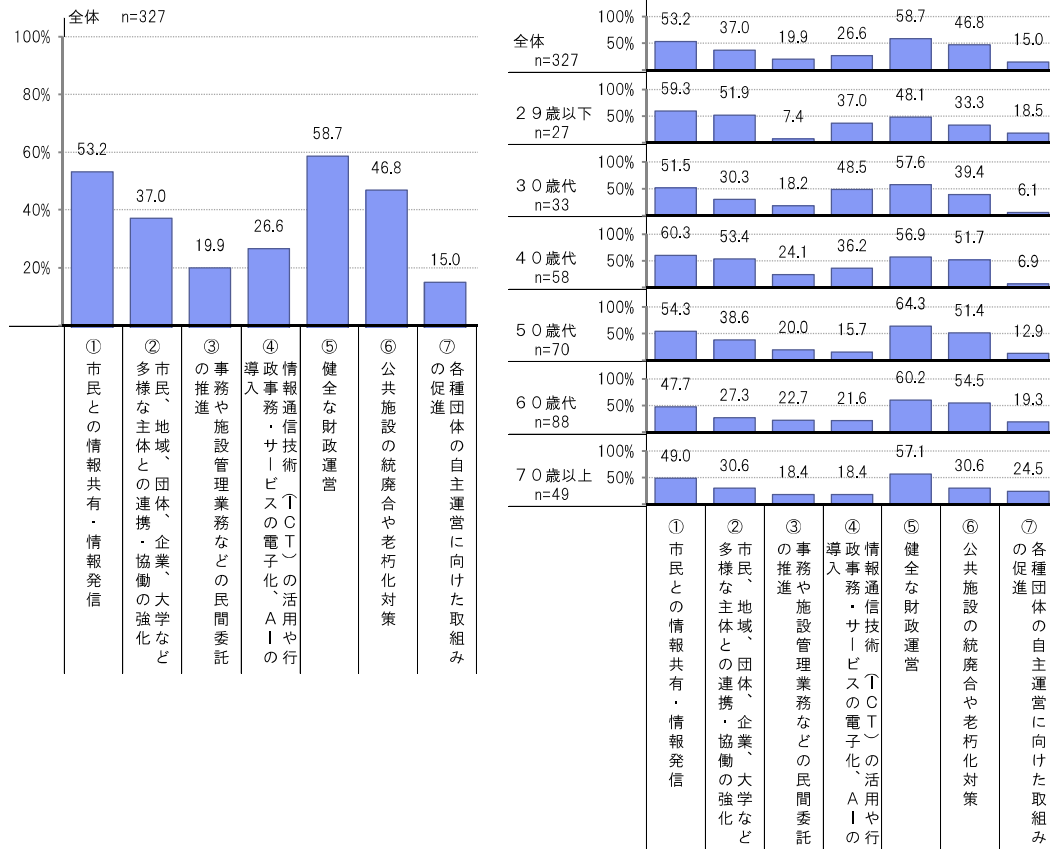
満足度では、「③事務や施設管理業務などの民間委託の推進」と「⑦各種団体の自主運営に向けた取組みの促進」が5.0点と最も高く、次いで「①市民との情報共有・情報発信」「④情報通信技術（ICT）の活用や行政事務・サービスの電子化、AIの導入」（4.7点）、「②市民、地域、団体、企業、大学など多様な主体との連携・協働の強化」（4.5点）の順となっている。



重要度

重要度は、項目①～⑦の中で、重要だと思われる取り組みを3つ選択して頂き、項目ごとに回答数を母数で割り集計しています。

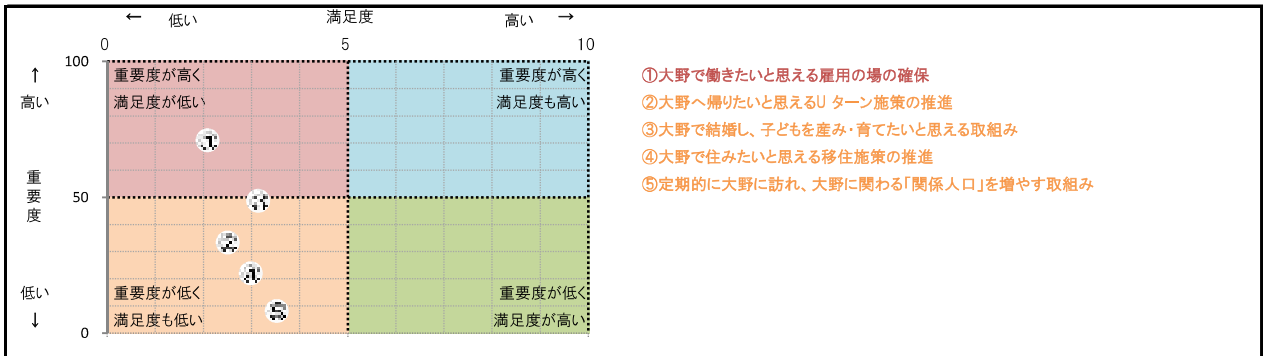
重要度では、「⑤健全な財政運営」が58.7%と最も多く、次いで「①市民との情報共有・情報発信」(53.2%)、「⑥公共施設の統廃合や老朽化対策」(46.8%)、「②市民、地域、団体、企業、大学など多様な主体との連携・協働の強化」(37.0%)、「④情報通信技術（ICT）の活用や行政事務・サービスの電子化、AIの導入」(26.6%)の順となっている。



(16) 人口減少対策についての満足度と重要度

満足度と重要度の関係は、「重要度が高く、満足度が低い項目」は1項目、「重要度が低く、満足度も低い項目」は4項目となっている。

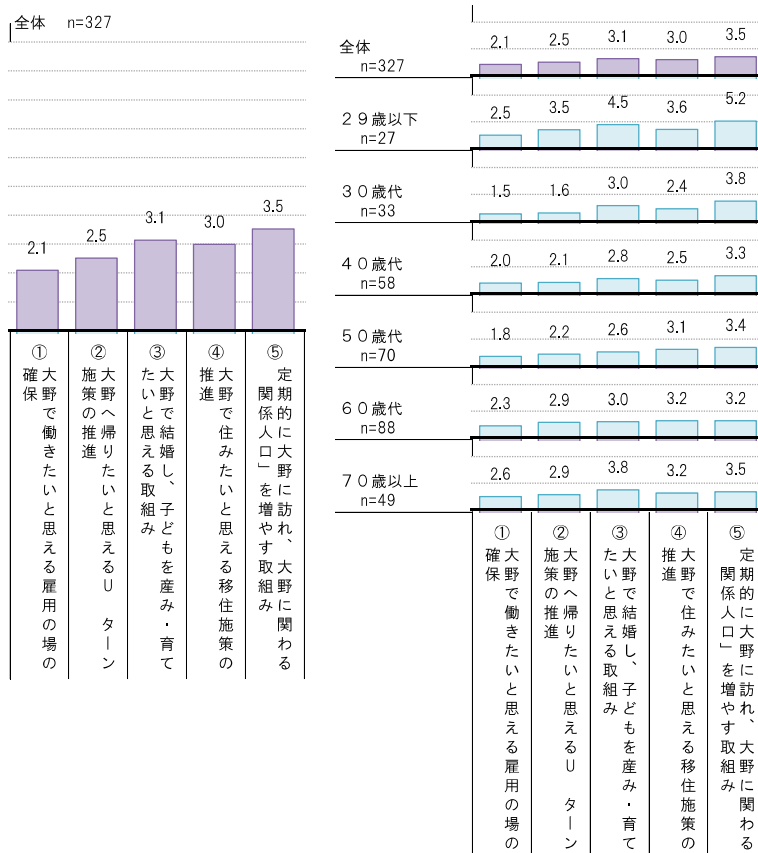
(16)人口減少対策についての満足度と重要度の関係性



満足度

満足度は「満足（10点）」、「やや満足（7点）」、「やや不満（3点）」、「不満（0点）」として集計したものの平均値を得点として集計しています。

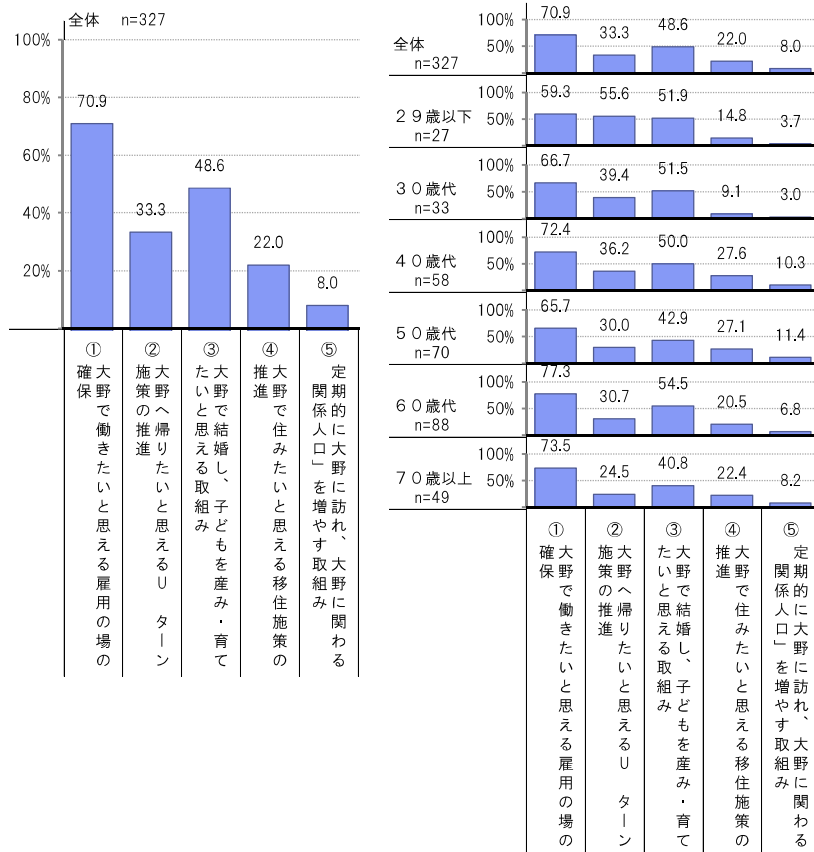
満足度では、「⑤定期的に大野に訪れ、大野に関わる「関係人口」を増やす取組み」が3.5点と最も高く、次いで「③大野で結婚し、子どもを産み・育てたいと思える取組み」（3.1点）、「④大野で住みたいと思える移住施策の推進」（3.0点）となっており、全体的に5点を下回っている。



重要度

重要度は、項目①～⑤の中で、重要だと思われる取り組みを2つ選択して頂き、項目ごとに回答数を母数で割り集計しています。

重要度では、「①大野で働きたいと思える雇用の場の確保」が70.9%と最も多く、次いで「③大野で結婚し、子どもを産み・育てたいと思える取組み」（48.6%）、「②大野へ帰りたいと思えるUターン施策の推進」（33.3%）、「④大野で住みたいと思える移住施策の推進」（22.0%）の順となっている。



項目ごとの重要度ランキング（上位3位まで抜粋）

（1）社会基盤について

	第1位	第2位	第3位
令和元年	①中部縦貫自動車道や国道、県道、市道などの整備	②JR 越美北線や広域路線バスなど、公共交通の確保	③まちなか循環バスや乗合タクシーなど、市内の交通手段の確保

（2）生活環境について

	第1位	第2位	第3位
令和元年	⑦地下水の保全活動の推進	①良好な自然環境の保全	②城下町の景観や田園風景の保全

（3）防災・防犯について

	第1位	第2位	第3位
令和元年	③雪害（大雪）に対する備え	②風水害、土砂災害、地震などに対する備え	④地域の防犯力の強化

（4）子ども子育て支援について

	第1位	第2位	第3位
令和元年	②子ども医療費の助成、子育てに関する相談や支援、児童発達支援など子育て支援サービスの充実	⑤子どもたちを犯罪や交通事故などから守る対策	③保育所や認定こども園による保育の実施や延長保育、一時預かりなど保育サービスの充実

（5）高齢者が健康で暮らすための支援について

	第1位	第2位	第3位
令和元年	①高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を送るためのサービス	⑤高齢者の介護や介護予防、認知症対策	③高齢者が活躍する機会や交流する場所の確保

（6）障害のある人への支援について

	第1位	第2位	第3位
令和元年	②障害のある人が安心して生活できる場所の確保	①障害や障害のある人に対する理解	③障害のある人の地域での生活支援の強化

（7）健康づくりについて

	第1位	第2位	第3位
令和元年	④緊急時の救急医療体制の充実	③かかりつけ医の普及など、地域で住み続けるための在宅医療の推進	②がんや生活習慣病などの病気の早期発見と早期治療の促進

（8）商工業の振興について

	第1位	第2位	第3位
令和元年	①労働力確保への支援	④企業誘致の推進	②働き方改革の推進

（9）農林水産業の振興について

	第1位	第2位	第3位
令和元年	①担い手確保への支援	⑦サルやイノシシなどの鳥獣害対策	③米、里芋、ソバ、舞茸、アユなど農林水産物の販路開拓への支援

（10）観光の振興について

	第1位	第2位	第3位
令和元年	⑥市外・県外に向けた越前おおのの魅力発信	④水、山、星空など自然や四季の魅力を活かした観光の推進	①まちなか観光の推進

（11）教育について

	第1位	第2位	第3位
令和元年	⑥いじめ・不登校や児童・生徒に対する虐待の防止	⑧安全で快適な学校教育環境の充実	⑦児童・生徒を犯罪や交通事故から守る対策

（12）文化の保存や継承について

	第1位	第2位	第3位
令和元年	③伝統文化を守り、引き継ぐことの支援	②指定文化財など歴史的・文化的遺産の保全と活用 の推進	①文化・芸術の鑑賞機会の充実

（13）スポーツの振興について

	第1位	第2位	第3位
令和元年	②生涯スポーツを通じた健康づくりの推進	④設備や器具の更新など、スポーツ施設の充実	⑤スポーツイベントや教室の充実

（14）地域づくりについて

	第1位	第2位	第3位
令和元年	①自治会（町内会や集落）活動を担う人材の確保と育成	③地域コミュニティ（※）の強化	④互いに尊重し合い、個性を生かせる地域づくり

（15）行政改革について

	第1位	第2位	第3位
令和元年	⑤健全な財政運営	①市民との情報共有・情報発信	⑥公共施設の統廃合や老朽化対策

（16）人口減少対策について

	第1位	第2位	第3位
令和元年	①大野で働きたいと思える雇用の場の確保	③大野で結婚し、子どもを産み・育てたいと思える 取組み	②大野へ帰りたいと思えるU ターン施策の推進

過去の調査における項目ごとの必要度ランキング（上位3位まで抜粋）

過去の調査におけるアンケート項目では、必要度として尋ねているため、参考値として掲載しています。

（1）都市基盤について

	第1位	第2位	第3位
平成26年	中部縦貫自動車道の早期整備	幹線道路（国道、主要地方道など）の整備	公共交通網の整備
平成21年	幹線道路（国道、主要地方道など）の整備	中部縦貫自動車道の早期整備	公共交通網の整備

（2）情報化社会について

	第1位	第2位	第3位
平成26年	インターネット等を活用した情報提供	広報紙の内容の充実	テレビ、ラジオ等、マスメディアの充実
平成21年	インターネット等を活用した情報提供	広報紙の内容の充実	テレビ、ラジオ等、マスメディアの充実

（3）生活環境について

	第1位	第2位	第3位
平成26年	良好な自然環境の保全・育成	子どもの遊び場等の充実	美しい街並みづくり
平成21年	良好な自然環境の保全・育成	地下水の保護涵養対策	子どもの遊び場等の充実

（4）災害・犯罪対策について

	第1位	第2位	第3位
平成26年	雪害に対する備え	犯罪を起こさないための青少年教育	子どもたちを犯罪から守る対策
平成21年	犯罪を起こさないための青少年教育	雪害に対する備え	子どもたちを犯罪から守る対策

（5）社会福祉について

	第1位	第2位	第3位
平成26年	子育て支援策の充実	障害のある方が安心して生活できる場所の確保	高齢者世帯などへの在宅福祉サービスの充実
平成21年	高齢者世帯などへの在宅福祉サービスの充実	子育て支援策の充実	障害のある方が安心して生活できる場所の確保

（6）健康づくり・医療体制について

	第1位	第2位	第3位
平成26年	緊急時の救急医療体制の充実	育児支援の充実	妊婦・乳児健診の推進
平成21年	緊急時の救急医療体制の充実	二次医療病院（福井社会保険病院）の存続	在宅医療の推進

（7）産業振興について

	第1位	第2位	第3位
平成26年	雇用の機会を拡大する	就労条件を良くする	新規企業を誘致する
平成21年	雇用の機会を拡大する	就労条件を良くする	新規企業を誘致する

（8）農業振興について

	第1位	第2位	第3位
平成26年	安全・安心な農産物の提供	鳥獣害対策（カラス、イノシシ等）	若年層への就農環境の整備
平成21年	安全・安心な農産物の提供	若年層への就農環境の整備	優れた人材の育成・確保

（9）林業振興について

	第1位	第2位	第3位
平成26年	防災、環境など多面的な機能を担う森林づくり	林業後継者の育成、就業機会の拡大	木を生かしたものづくりによる木材需要の拡大
平成21年	防災、環境など多面的な機能を担う森林づくり	木を生かしたものづくりによる木材需要の拡大	林業後継者の育成、就業機会の拡大

（10）観光振興について

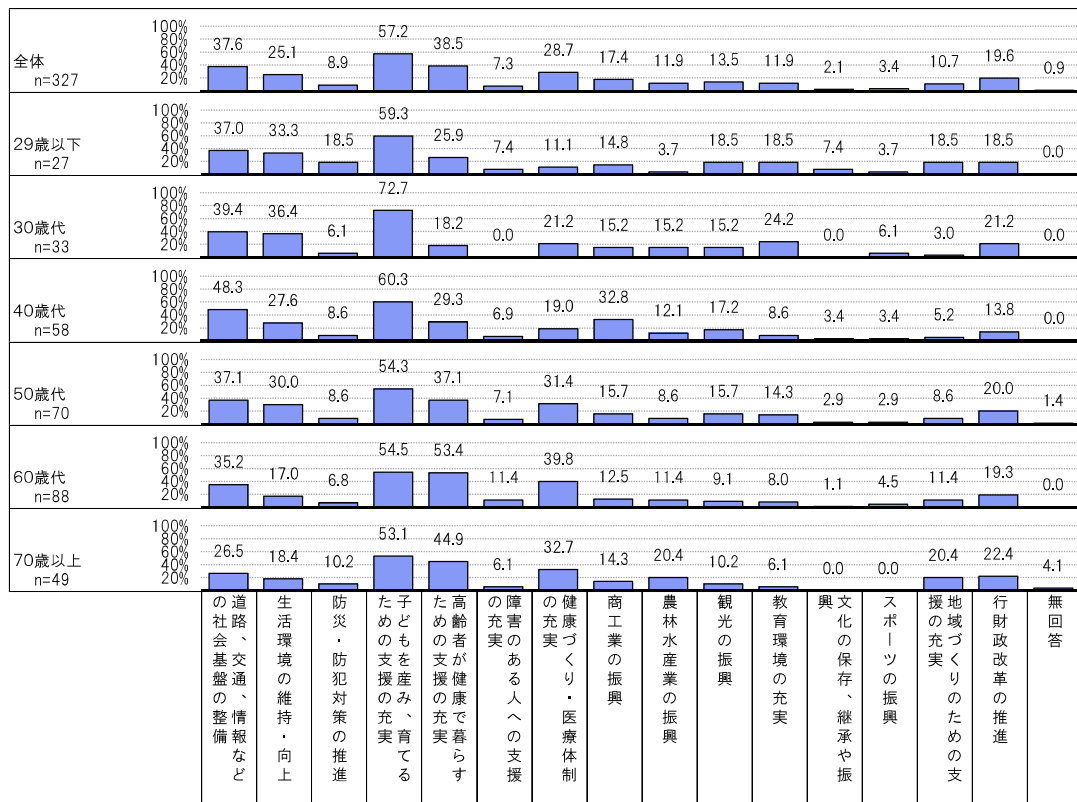
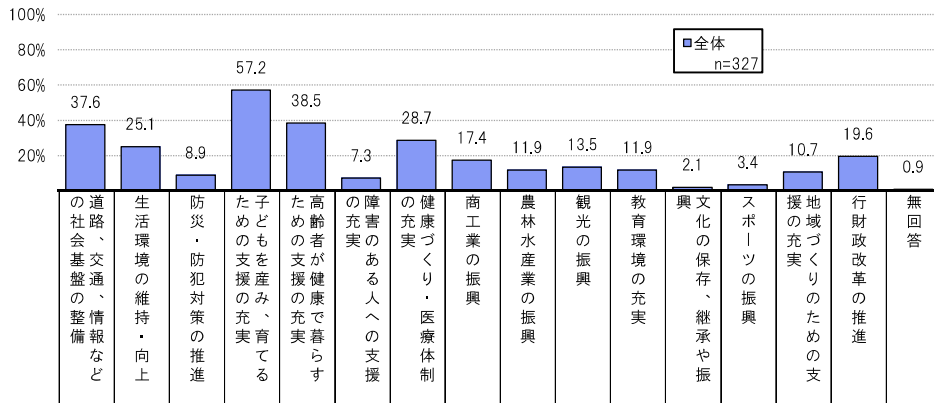
	第1位	第2位	第3位
平成26年	四季の魅力を生かしたイベントの実施	越前おおのブランドの情報発信	水のみえるまちの活用
平成21年	水のみえるまちの活用	四季の魅力を生かしたイベントの実施	越前おおのブランドの情報発信

（11）教育・文化について

	第1位	第2位	第3位
平成26年	自然共生、環境保全教育の充実	文化遺産の伝承と活用	社会教育、文化・芸術施設の整備・充実
平成21年	自然共生、環境保全教育の充実	社会教育、文化・芸術施設の整備・充実	文化遺産の伝承と活用

問 10 必要な取り組み

「子どもを産み、育てるための支援の充実」が57.2%と最も多く、次いで「高齢者が健康で暮らすための支援の充実」(38.5%)、「道路、交通、情報などの社会基盤の整備」(37.6%)、「健康づくり・医療体制の充実」(28.7%)、「生活環境の維持・向上」(25.1%)、「行財政改革の推進」(19.6%)、「商工業の振興」(17.4%)の順となっている。



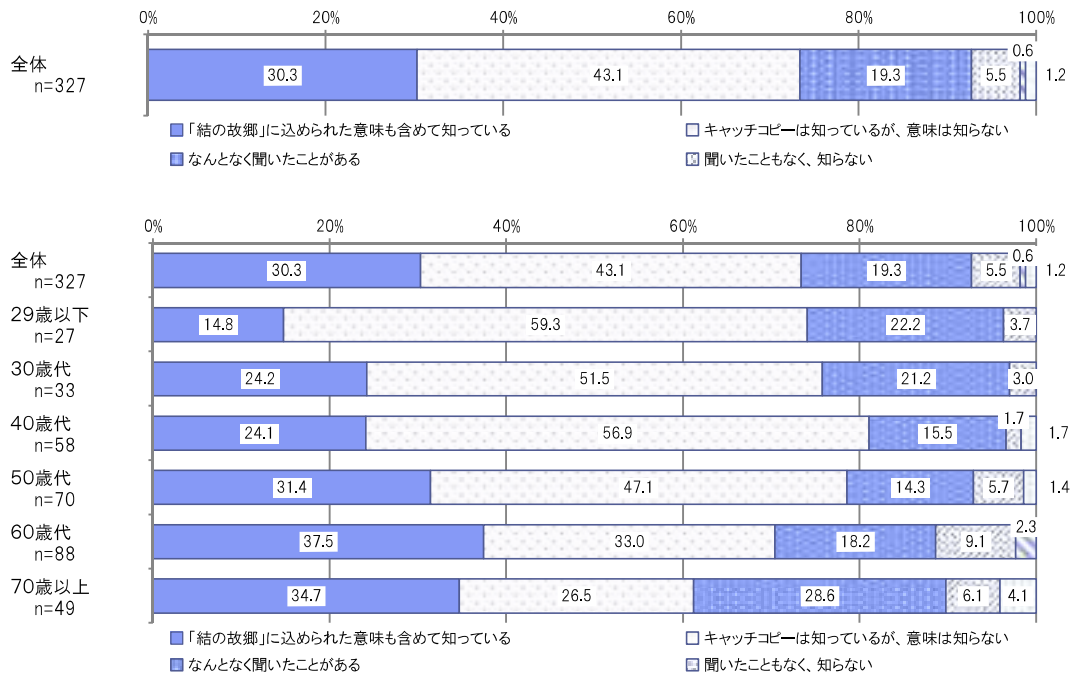
〔市民アンケートの集計結果〕

(上段:実数、下段:%)

		回答者数	必要な取り組み															
			道路、交通、情報などの社会基盤の整備	生活環境の維持・向上	防災・防犯対策の推進	子どもを産み、育てるための支援の充実	高齢者が健康で暮らすための支援の充実	障害のある人への支援の充実	健康づくり・医療体制の充実	商工業の振興	農林水産業の振興	観光の振興	教育環境の充実	文化の保存、継承や振興	スポーツの振興	地域づくりのための支援の充実	行財政改革の推進	無回答
全体		327 100.0	123 37.6	82 25.1	29 8.9	187 57.2	126 38.5	24 7.3	94 28.7	57 17.4	39 11.9	44 13.5	39 11.9	7 2.1	11 3.4	35 10.7	64 19.6	3 0.9
年齢別	29歳以下	27 100.0	10 37.0	9 33.3	5 18.5	16 59.3	7 25.9	2 7.4	3 11.1	4 14.8	1 3.7	5 18.5	5 18.5	2 7.4	1 3.7	5 18.5	5 18.5	-
	30歳代	33 100.0	13 39.4	12 36.4	2 6.1	24 72.7	6 18.2	-	7 21.2	5 15.2	5 15.2	5 15.2	8 24.2	-	2 6.1	1 3.0	7 21.2	-
	40歳代	58 100.0	28 48.3	16 27.6	5 8.6	35 60.3	17 29.3	4 6.9	11 19.0	19 32.8	7 12.1	10 17.2	5 8.6	2 3.4	2 5.2	3 13.8	8 20.0	-
	50歳代	70 100.0	26 37.1	21 30.0	6 8.6	38 54.3	26 37.1	5 7.1	22 31.4	11 15.7	6 8.6	11 15.7	10 14.3	2 2.9	2 2.9	6 8.6	14 20.0	1 1.4
	60歳代	88 100.0	31 35.2	15 17.0	6 6.8	48 54.5	47 53.4	10 11.4	35 39.8	11 12.5	10 11.4	8 9.1	7 8.0	1 1.1	4 4.5	10 11.4	17 19.3	-
	70歳以上	49 100.0	13 26.5	9 18.4	5 10.2	26 53.1	22 44.9	3 6.1	16 32.7	7 14.3	10 20.4	5 10.2	3 6.1	-	-	10 20.4	11 22.4	2 4.1

問 11 キャッチコピーの認知度

「キャッチコピーは知っているが、意味は知らない」が43.1%と最も多く、次いで「「結の故郷」に込められた意味も含めて知っている」(30.3%)、「なんとなく聞いたことがある」(19.3%)、「聞いたこともなく、知らない」(5.5%)の順となっている。

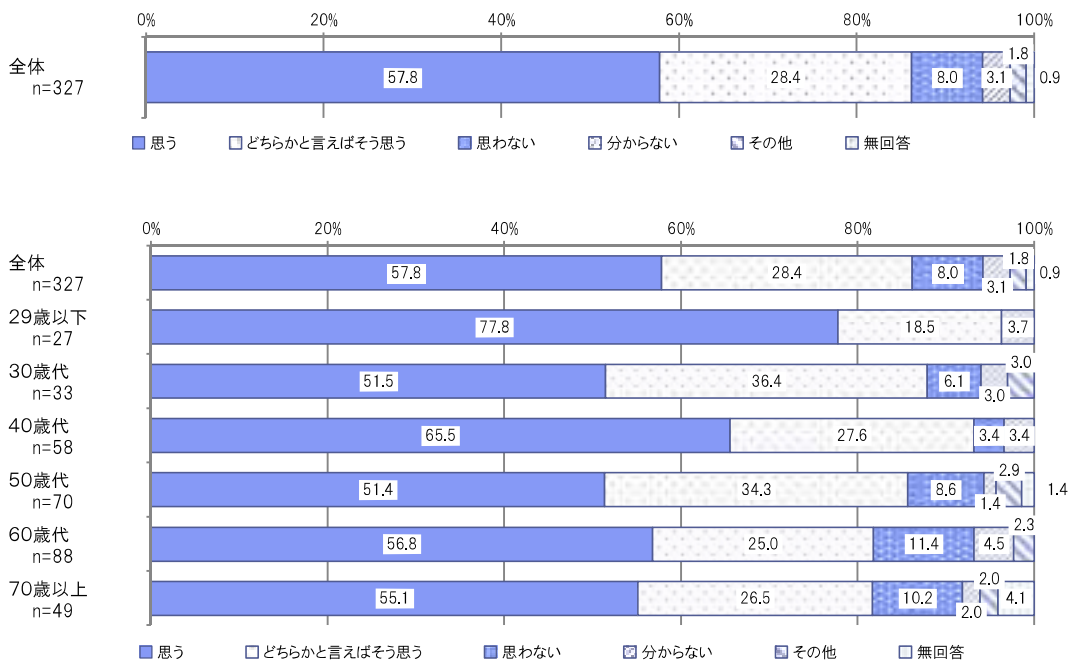


（上段：実数、下段：％）

		回答者数	キャッチコピーの認知度					
			味「結の故郷」に込められた意	が、キャッチコピーは知らない	なんとなく聞いたことがある	聞いたこともなく、知らない	その他	無回答
全体		327	99	141	63	18	2	4
		100.0	30.3	43.1	19.3	5.5	0.6	1.2
年齢別	29歳以下	27	4	16	6	1	-	-
		100.0	14.8	59.3	22.2	3.7	-	-
	30歳代	33	8	17	7	1	-	-
		100.0	24.2	51.5	21.2	3.0	-	-
	40歳代	58	14	33	9	1	-	1
		100.0	24.1	56.9	15.5	1.7	-	1.7
	50歳代	70	22	33	10	4	-	1
		100.0	31.4	47.1	14.3	5.7	-	1.4
	60歳代	88	33	29	16	8	2	-
		100.0	37.5	33.0	18.2	9.1	2.3	-
	70歳以上	49	17	13	14	3	-	2
		100.0	34.7	26.5	28.6	6.1	-	4.1

問 12 御清水をはじめとする「水」が大野市の誇り・象徴だと思いますか

「思う」が57.8%と最も多く、次いで「どちらかと言えば思う」(28.4%)、「思わない」(8.0%)、「分からない」(3.1%)の順となっている。



(上段:実数、下段:%)

		回答者数		御清水をはじめとする「水」が大野市の誇り・象徴だと思いますか				
				思う	えどちらかと思う	思わない	分らない	その他
全体		327 100.0	189 57.8	93 28.4	26 8.0	10 3.1	6 1.8	3 0.9
年齢別	29歳以下	27 100.0	21 77.8	5 18.5	1 3.7	1 3.0	1 3.0	1 3.0
		33 100.0	17 51.5	12 36.4	2 6.1	1 3.0	1 3.0	1 3.0
	30歳代	58 100.0	38 65.5	16 27.6	2 3.4	2 3.4	1 1.4	1 1.4
		70 100.0	36 51.4	24 34.3	6 8.6	1 1.4	2 2.9	1 1.4
	40歳代	88 100.0	50 56.8	22 25.0	10 11.4	4 4.5	2 2.3	1 1.2
		70 100.0	36 51.4	24 34.3	6 8.6	1 1.4	2 2.9	1 1.4
	50歳代	88 100.0	50 56.8	22 25.0	10 11.4	4 4.5	2 2.3	1 1.2
		70 100.0	36 51.4	24 34.3	6 8.6	1 1.4	2 2.9	1 1.4
60歳代	49 100.0	27 55.1	13 26.5	5 10.2	1 2.0	1 2.0	2 4.1	
	70歳以上	49 100.0	27 55.1	13 26.5	5 10.2	1 2.0	1 2.0	2 4.1

問13 将来に向けたまちづくりに関する意見

大野市のキーワード

大野市のキーワードとなる言葉を並べたところ、「和や結、繋がり」を連想するもの、「水」を連想するもの、「自然」を連想するもの、「住みやすさ」を連想するものが多い。

【和や結び、繋がりを連想するもの】

結／結／結／結／絆／絆／和／和／和／和／協／協力／和⇒輪へ／「幸せ」「結」「未来へつなぐ」→「和」／結楽座／結の故郷／結の故郷／結の故郷(ゆいのくに)／家族の和／未来へつなぐ／結・未来へつなぐ・和／人とのつながり／社会とのつながり／つながり・協働・大野らしさ、人と人、地域と地域、助け合う心を大切に／結ステーション／地域密着

【水を連想するもの】

水／水／水／水／水／水／水／水／水源／天然水／地下水／お清水／水と雪、山と川／おいしい水／水郷／水のまち／朝つゆの町／湧水豊かな街／水に育まれた郷／清らかな水の流れる大野で、清らかな政治のもと、清らかな心を育み、笑顔が溢れる町

【自然を連想するもの】

自然／自然／自然／大自然／盆地／盆／自然を生かすこと／緑の故郷／ふるさと／折々季節の景色(色)／星がきれい／流れ星を見よう！／長閑(のどか)／大野市特有の四季の自然／自然環境の整備／豊(自然・心)人間愛／緑と紅葉

【住みやすさを連想するもの】

帰りたくなるところ・まち／帰ってきたくなるまち／住みたくなるまち／住みたくなる街／住みやすさ No.1／若者が住みたくなる街／住みやすい幸せな田舎生活／若者が生活しやすい環境(税金など)／定住／招待のまち／住みやすい町づくり／人にやさしいまち

【まちを連想するもの】

城下町／城下町／城のまち／地下町／大野駅／大野城／山岳リゾート／まちなか観光／城下町、小京都／天空の城／潜在型の観光

【夢、希望を連想するもの】

夢／希／希望／未来／明るい未来、大野／育てる未来／大きな野望がもてる

【育むを連想するもの】

育む／地域を大切に作る心／体や心が安心して過ごせる町／子供が安心して遊べる所／住宅・子育て支援の充実／多くの子どもと笑顔

【食を連想するもの】

食／里いも／山菜／山菜／特産物／近くて美味しい大野

【職を連想するもの】

就職／雇用／職場の充実／大型工場の誘致／企業誘致／農林産物の中京圏販売

【交通を連想するもの】

中部縦貫自動車道／中部縦貫自動車／幹線道路の2車線化

【環境を連想するもの】

ゆとり／ゆったり／のんびり幸せ／安心／安心／おっとり／ほんわか／思いやり／情／人情

【イベントを連想するもの】

七間朝市／ゆいピー／うぐピー／かめじろう

【まちのキーワードを連想するもの】

若者の定着大野／若者の市内への定着／時代の先取り／Next インバウンド／家族の幸せは地域の幸せにつながる／出生率の向上／ゆるやかな成長／ふるさと愛／心の安らぎ／高齢者安心大野／越前おおの／大いなる野の盆地／本物志向で人を集めよう／大野市民のおおらかな心／時の流れがゆっくりとしている／大野市というここ1番のブランド／伝統と発展の共存／大野人

【その他のキーワード】

発信／輪廻／大野めいりん／栄／切磋琢磨／免許の返納／人口減対策／透明／恵／行政のスリム化・スピードUP

(1) 道路、交通、情報などの社会基盤について

公園の充実 → 規模や遊具の面で、今しっかり整備されているのはふれあい公園ぐらいなので、もう少し街中にもう1つ大きな公園があっても良いと思う。人が集中することの解消や、消費の拡大(出かけたついでにご飯を食べて帰る、など)につながるのではないと思う。

JR 越美北線の本数が少なく、快速もないため、鉄道での通勤がとても不便です。福井市方面への通学・通勤に合わせた快速便をつくって欲しいです。具体的には、乗降の少ない駅に停車せず越前大野～福井間で30分程で結び、始業・終業時刻にぴったりの便を希望します。

例)7:30 越前大野発～8:00 福井着、17:45 福井発～18:45 越前大野着

他の時間帯の便も増やしたり、JRの定期券でバスにも乗れるようにするなど、利便性を高めてほしいです。

通勤・通学の負担が減れば、大野に住み続けられる人が増えるのではないのでしょうか。また、福井市のベッタウンとして注目されて駅周辺の活性化にもつながり、観光客増も期待できると思います。

おいしい水、豊かな大自然、大野の魅力を未来へつないでいてほしい。

水を守るために下水道の整備を進めているのだと思うが、下水道工事のお金を各家が負担するのはおかしいと思う。膨大なお金がかかる上、その後上下水道のお金も支払っていかなくなり、負担が大きすぎる。少しでも援助したほうが良いと思う。

他市につながる道路の整備

交通の便などの差をなくすことで人やものの動きが活性化され、様々な可能性をさぐれると思います。まずは中部縦貫など交通の早期設備することで企業誘致もあるのかと思います。

人口も減少が続いており、定住だけでなく関係人口を増やすことから力を入れて、定住につながればと思います。

または交通がよければ、働く場が市外でも子育ての充実で移住もあると思うので、1つ1つのプランに対して、様々なシミュレーションを行って進めて行ってほしいです。良い面、悪い面の両方をしっかり見るようにしてほしいです。

大野市は他と比べて何が違うのかを徹底して調査して、その違いを魅力化していくことで活性化すると思います。

遠くでは移動手段がなく参加しにくい。買い物、通院、催し物などに気軽に行けるよう町なかバス等充実してほしい。

問題外です。私的な考え！街路樹について景観はいいが都会と違い山に囲まれた町です。無くしたほうが良いのでは？

交通の障害、歩行者、道路標識が見えづらい、車の幌が痛む。降雪時の妨げになる。花、落葉の飛散。維持、管理の出費。

若者が働きたい、将来住みたいと思える街づくりが必要。受け入れ体制がなければ、やはり市外へ出てしまう。そこには、道路等の整備の問題もある。

交通（バス越美北線）の整備

道路の整備、バス、JRの本数増、これも人口流出の大きな原因ではないか。スピード感をもって、ご対応いただきたい。

158号線、大野⇄間戸間の早期開通。大野、福井間については中部縦貫道が整備進行中ですが、通勤道となると158号線の需要が多く、全線開通を一刻も早く望まれる。158号線バイパスが完成し、県都への通勤圏地域として確立されれば、転出人口も減少することが期待される。

地下水の保全。上下水道の普及。推進 非協力者にはペナルティーが必要。

まちなか循環バス、どれだけの人が利用しているのか。金銭面等でバス利用したいが、バス停まで歩けない。（自宅内での生活は自立、買い物に行きたい気持ちもある）

越美北線は公共交通機関ではあるが、運休が多く利便性が悪い

返納後の不便さから、返納をためらう人が多い。交通の便をよくできないか。

道路の整備をしっかりとしてほしい。除雪の素早さと丁寧さの向上がもっと必要だと思う。

現在奥越方面に自動車道が建設中ですが市外から多くの人が仕事にいられています。特にトイレの（公共）清掃の回数が少ないのではないのでしょうか。最低週2回は必要だと思います。

若い人が大野に残りたくても、就職先の選択肢が少ない為、結局市外や県外に行ってしまうと思います。よく耳にするのは「冬の事を考えたら、福井市へ移住してしまう」という事です。大野市は除雪作業も早く丁寧だと思うのですが、若い人が少しの雪かきも面倒だと考える人が多い為かもしれません。

交通、情報等の社会基盤の整備を行い、商工業の事業発展と拡大、事業の拡大により雇用の増加と人口増加を見込める。

大野に移住するには、雪がネックになると思います。道路の除雪は早期に実施され、それほど生活に支障がないように思いますが、屋根雪下ろしで毎年落ちたりして怪我をする話を聞くと、何とか対策はないのかなと考えます。市でも支援事業など対策があるみたいですが、新築時に屋根雪を下ろさなくてもよいような家の建築をすすめたり、補助を出したりしたらどうかと思います。雪が降っても安心、安全なまちづくりをお願いします。

これと言って特に何も思いつきませんが、市街地と村部の利便性の差が広がらないようにしてほしいです。交通、買物、通院、すべてにおいて暮らしやすいとは言えません。高齢化も進む一方で不安がいつばい。まちなかが発展するのも大事ですが格差が広がらないようまちづくりを期待しています。

（２）生活環境について

築40年の中古住宅を購入し、リフォームして住んでいますが、助成金は1万も通りませんでした。なぜ、古い家を利用したのに？古すぎるから？おかしい話です。若い世帯にとって、助成金は必要だったと思います。仕方がないとあきらめ、住み始めましたが、家の前の市道の下水の上のコンクリートブロックが大きく割れていて、子どもの足がはさまったり、抜け落ちそうなので、市民課窓口へお願いに行った所、「区長さんに言ってください」冷たい対応です。市民の為に市民課なのは？引越してきて、何も変わらない。市民にそんな対応では増々大野に若者は住まないでしょう。

子供がいるのですが、私自身が大野へ住み「これからの不安が多くどうしたらいいのか？」と悩みがあります。

子供に家を守ってほしい、子供と一緒に大野で生活をしてほしい、お墓を守ってほしい。子供に「酷な話なのかな」と思います。

子供の人生で私達が強く押し付けてしまいうそでこわいです。子供が自分らしくいきいきとした人生を送ってほしいです。子供に申し訳ないと思っています。迷惑をかけずに死にたいと思います。

今の時代は、お金さえ払えば何でも手に入る。お金さえあれば、なんでも「します。」「入れます。」「出来ます。」の時代です。生活に今困っている人を、どう支えていくか！どうもっていきけるか！

「何か、サービスを」「何か、無料です」とか、何か支援したり。全ての人が「幸せ」「結」「未来へつなぐ」→「和」につながるのではないか。「差別なく」どんな人も！

住んでいる人たちの基本となる生活環境の維持・向上にも地道に取り組んでほしい。課題はたくさんありますが、どうか一歩一歩取り組んでいただけたらと思います。市民の一人として、できる限り協力し、大野市を応援したいと思っています。

地下水は貴重なので大事にしていきたいと思います。

大野市は水と自然。自然環境を大切にする教育。生きもの、緑を多くする。ゴミを少なくし、きれいな大野市に。山にゴミ、川にゴミを捨てないように。

子供・老人・障がい者の生きやすい町づくりが、全員の生活しやすい町になるのではないかと考える。

（３）防災・防犯について

空き家の対策

横断歩道では、必ず車が止まってくれる交通安全運動を行ってほしい。まちなか観光客、老人、子供等は、特に優先的に車が止まって、弱者にやさしい車社会になってほしい。

市街地のまちづくりに関して、空き家対策にも力を入れるべきだと思う。市役所周辺にも倒産した会社の建物等がそのままになっており、ゴースタウンみたいになっている。市が働きかけて整備していてもらいたい。

防犯対策における自助、公助、共助の考え方は、高齢化社会における地域コミュニティにもつながると考える。自助・公助には限界があるが、近所付き合いの良し悪しによって、共助は変わる可能性がある。

（４）子どもを産み、育てるための支援について

どの自治体にも言えることだと思いますが、20代・30代が大野で働き、結婚して住んでいきたいと思える環境づくりが必要だと思います。仕事の充実、子育て支援、住みやすい環境など…

もうちょっと子供を育てやすく産みやすくして、子育てに対する対策を向上してほしいです。なぜ理由がないと保育園に入れてはいけないのか？社会性の向上や、しつけに関しても保育園に入りたい人もいると思う。

支援センターの土日開放希望 → 平日の日中のみということは、仕事もしてない・保育園や幼稚園に通ってない親子にしか行くことができないから。

すこやか未来券に該当する人の拡大や支給年数の増加 → 最大3年ではなく、子どもを産んで3年間支給の間にもう1人産まれたら、その年は20万円分支給…など、そもそも3年間でなくても良いのでは…オムツやおしりふきなど生活用品を買うだけでなくります。

とにかく子育てしやすい環境づくりを！お願いします！

東京の私立大学へ子供を出せる親が極端に減っています。4年間で約1500～2000万円、自分達の老後を考えたら出せない。奨学金は未来を潰す借金です。子供に借金を担がせなくなったら地元の大学しかありませんが、そこでは世界の競争に勝てる勉強ができません。残念ながら！貧すれば鈍する、そんな大野から脱却する政策を願う。

今の世の中、子供を産み育てることが大変で、子供を産まない、産んでも1・2人と少ないと思う。子供を産み育てていけるように、子育て支援の充実・強化をしていってくると大変助かる。

子どもが遊べる場所(公園など)の整備

子育てしやすい

子供が遊べる施設が必要(特に屋内施設)

子育てするのに大野市が住みやすいと、2人目の子供が生まれてすぐ、市外に住んでいた子供と孫が、大野市に引越してきました。すぐに、10万円の商品券が頂けて、とても喜んでいました。

託児所等の子供をあずかる場所の充実、向上。

（５）高齢者が健康で暮らすための支援について

高齢者が少しでも長く自覚し自立出来るよう生活習慣予防(食事・運動・病気になりにくい)、詐欺との関わり方、高齢者の今の医療費などのお話を近くの集会所などで聞ける機会を作してほしい。

大野にこれから住み続けるにあたって不安なことは、入院できる病院が少ないということ。高齢者が体の異常を訴えると「年だから」の一言で片づけてしまうドクターが多い。患者の年齢関係なく真剣に向き合ってくれるドクターを呼び寄せてほしい。

高齢者の在宅サービスの基盤をもっと増やすべき(24時間サービスなど)

大野市は高齢の方が多く、どの施設も入所するまでに長い期間がかかり、亡くなる方も多い。自宅で(介護保険で)訪問看護やヘルパーや訪問リハビリなどサービスを利用している方が多いなか、お金に困り思うように利用できない方もいる

高齢であっても自立した生活がおくれるような支援を。実際どのような点で困ったりしているのか調査し、1つでも解決策があるとよい。

高齢でゴミを当日の朝決められた時間に出すのが困難。前日に出すのも地区の区長さんによりOKのところとダメなところがある。(基本前日はダメなため仕方がないが…)一定の条件を満たす人のみ前日ゴミ出し(もえるゴミに限ってでもよいので)を市から許可(申請して)もらえるかどうか。専用のゴミ袋を作成して。

高齢化社会で、車の免許返納者が多くなると郊外的大型店舗の集客は難しくなってくる可能性がある。自宅周辺に来る移動型の店舗が多くなると便利かもしれない

高齢者がますます多くなる今、高齢者自身も自ら健康で暮らして行けるための努力も大切(周りの方の支援をいただきながら)と思いました。

高齢者世帯になって感じてきた事は、いろいろの事が不便になりつつあります。

高齢者が増える大野で高齢者のサポートや孤独を感じさせない人と接触するコミュニティーツールがあるといいなと思う。

（６）障害のある人への支援について

障がい児を預ける施設・スタッフを増やしてほしい。児童館のスタッフは、障がい児に関して勉強不足だと感じるし、あから様に嫌な顔をする人もいると聞いたことがある。大野へ住むと医療はもちろん、障がい児も含めた子供たちを安心して預けるところが充実していると大野から出る人も少ないし、Ｕターンする人も移住する人も増えるのではないかな？道路や観光を充実させるよりも、住んでいる人を増やして税金を納めてくれる人口を増やした方がいいのでは？

（７）健康づくり・医療体制について

医療機関の充実

医療整備が整っていない（小児の緊急時など）

設備が整った病院を誘致

かかりつけ医の多くは、外来患者中心となり、入院できる医療機関が市内では少なくなってきた。福井市などの一次救急病院では、入院期間の短縮が求められ、早期退院後にフォローアップできる体制が必要と考える。

住環境としては医療機関の不足が気になるころではあります。

（８）商工業の振興について

今の福井市でスポーツの会場となって結ステーションからスタートしたことがあったり、とんちちゃん祭りで他県の人々が来たりと、全国から人が来ていると思います。福井市の名水は地域の人にとって大事なものだと思いますが、人口が少ない高齢化になっている状態では、将来の自分たちや子供たちには未来が見えないです。働く場所がないと生活もできません。若い世代を増やすことが重要で、他の大学と協力して大学（農業など）学べる環境、広い施設はできると思います。地元の人だけでなく、これから働くことが若い世代にできる企業の誘致をしてもらいたいです。コストコやアウトレットモールなど、県外企画や企業が入ってくる福井市になってほしいです。若い世代が将来の福井を育てて未来を作ってくれると思います。

新市長には、全力で企業誘致を実行してほしい。その為の東京大学への一票です。

若者が働きやすいと思う市づくり。未来につながるために今を変えていくこと。

働く場所の確保

子供、老人を支える働き盛りの 30、40、50 代への支援

中心市街地の発展も必要だが、周辺地区の充実した生活への支援が必要ではないか。

ショッピングセンターVioをはじめ、県外からもわざわざ来店して買い物を楽しめるような商業施設をもっと増やしてほしいと思います。

町中に飲食できる店が少ない。町中を活気づける政策を取ってほしい。

福井市には、子供や若年世代が楽しめる場所がありません。休日になると、殆どの若者や子供は市外へ行ってしまう。もっと親子で楽しめる場所がほしいと思う。

市内に魅力的な就職先がほとんど無いのが致命的。市外で就職を希望する子どもに反対はできない。

子供が福井の高校でたくさんの資格を取得して、福井で高卒で働きたいと思っていたのに、奥越の企業は地元の高校生を優先するとのことで、就職試験さえ受けませんでした。現在は専門学校を出て福井で就職しております。福井に帰ってくることはないと思います。地元の高校が大事なのも分かりますが、福井で学習してきた子達も働くことができる環境を整えてほしいです。

観光客誘致はいいのですが、バスで来ても食堂が数少ないので、力を合わせて福井にもう一度来たいというレポート。高齢者人口が増えたので、そういった人達に協力を求めているのかと思います。

企業誘致が必要。働く場所が少なく、賃金が安い

人口が減っており、このままにしておくと、限界集落のように「高齢者しか住まない」「介護産業しか成立しない」「まち」になると思います。今の子ども（小学生～高校生）達が大人になっても暮らせる街であり、都会へ出て行った若者（～30 歳代）が戻ってきても暮らせる街にしないとけないと思います。そのためにも、企業を誘致し、安定した収入を得られるようにするのが得策だと思います。

県外で大学等の高等教育を受けても、福井には市役所と銀行くらいしかまともに働く場所がない。あっても安給料が俗に言うブラック企業ばかり…。これでは福井で働いて暮らそうとは思わないですね。

私も市外へ働きに行きますが、長男でなければ、99.9%福井に住みません。働く所もない。遊ぶ場所もない。病院（手術等設備のある）もない。年を取っても、交通インフラが悪く免許返納もできない…。若い人が今すぐにも福井に戻ってきて、生活したいと思える街を計画してほしいと思います。

実際に福井に住んでいても、仕事・職場が市外なので、休日・夜間のみ福井に居るという感じです。このように色々アンケートをされても、参考になる回答になったとは思えません。若い者も、市外に職場があるため同居もしていません。やはり職場が福井にあつてこそ若い者が福井で子育てしたいと思ってくれてこそ、未来があると思います。ましては、学校の数も減ると聞くと、誰が福井に住んでくれるでしょう。私はこれから福井で（退職後）生活が始まりますが、それからでしたら、もっと具体的に答えることができると思います。

若者が働ける場が少ないし給料が福井市と比べると少ないからどうしても福井を出るし、県外へも出ていってしまう。給料水準を上げて外へ働きに出なくてもいられるようにしてほしい。また、人手不足といわれるが雇用側に優位の意識が甚だしい経営者が多い。今時の若者が働き続けられるよう、雇う側の意識改革も必要。

若者の働く場所の確保が重要である。（工場誘致）

教育、子育てに対する支援は福井も福井県もレベルが高いと思うが就職の際には県外へ出て行ってしまう。優秀な人材がとどまらない。IT、高速道路など整っているから人材を市内（県内）にとどめられる職場が出来ないか、若い人がいなくなる。

自分の子供も社会人になり職が自分に合わない為市外に行つて家庭を持ちました。さみしいです！やはり若者が福井市で働ける会社がたくさんあればと思っています。

大学卒業後、就職が出来る福井にしてほしい。若者が多く居る未来へつなぐ町にしていけるように取り組んでほしい。

現在、大野市は危機を迎えていると感じている。私の同級生の多くが県外へと出ていき、市外へと職を求めていく。これからの大野を担う若者が、大野市に存在していないという状況が、これからも続いていくかもしれない。しかし、ピンチをチャンスに変えていくのだという強い気持ちを持って自分たちが変わることが出来れば、未来は変わっていくと信じている。まずは、若者が大野にたくさん存在するという状況を作っていきたい。それは、街の活性化につながるはずである。一人一人が活き活きと過ごすことの出来る未来を作るために「今」を大事にしてやっていかないといけないと思う。その中心となって、自分がやっていくという気持ちである。

働く場所を求めて市外・県外へと移住していく現状を考えると、働き場所の確保や商工業の支援の充実を望みます。

遊ぶ所の充実

大手企業の充実 若者の娯楽

安定して働ける企業がないことには、大野に住んで子供を育てることはできないと思う。企業誘致も大切だが、大野の既存企業の意識改革も重要ではないか。

（９）農林水産業の振興について

活性化が街中心部に集中している。農村部にも豊かな土地や緑がたくさんあるのに何も活用できてない。農村はただ米作って、草刈りしていればそれで良いのか。若い世代が不足している今、地域づくり活動や保全活動は集落の中高齢者に逆に負担をかけているのではないのでしょうか。人の力には限界があります。

休耕地、空き地、山・田んぼ、もっと緑を活用した農村の活用に目を向けてほしい。

大野のおいしい米、里芋もただ作って出荷して発送だけの農村。立派な施設がそこにあってもインパクトがありません。集荷施設で見学ができ、そこで地場野菜の料理がいただけ。そうすれば街だけでなく、農村も潤いが出て大野全体に活気が出るのではないのでしょうか。

大野市の農作物の品質の良さをもっと県外・国内・国外へのアピールし強みにするべき。米・里いも・水・野菜(とうもろこし)etc。

「自然が豊か」は「自然しかない」ということ。大切な水がある。一生懸命な人たちがいる。それをどのように生かし、繋げていくかだと思う。

大野の地域を生かした生産物環境の改善など宣伝する。

＜都市計画区域と農村区域の在り方について＞私達の住む区域は混住化が進む地域に該当すると思われます。高齢化が進む中、農地を守り今まで農業を続けてきました。川を挟んで一つの集落の中でも農業振興区域との区別がされ、税金面、制度的な補助事業もなく、未だに農業用道路は未整備(砂利道)です。農業行政を進める上でも、地域の現状を把握し(机上の計画は、まずは実態を見て頂き担当部署は現場を見る)早急とは申しませんが年次計画を立て、区長迄示していただきたい。県知事がチャレンジ目標を樹立し実行に移しています。徹底現場主義「県民主役」を大野市に於いても「市民主役」でやっていただきたい。市長さんも変わられ地域の声として是非実行してください。

同じ集落内であれば、同じ制度「準農業用区域として用途変更」田園風景の維持、地域の農業存続、小規模農業者(1.6ha 耕作者)ですが、5年、10年後の経営が出来るよう、望みます。

上庄地区を含め村部では今から 10 年後には農業ができなくなり耕作放棄地が増えてくると思われる(すでに放棄地がでているし、今いる担い手も限界がある。担い手支援も必要だし放棄地を花畑にするなど、景観を維持する取り組みも必要だと思う。

自然の中で、山近くの畑の作物がだんだんと作られなくなっています。いのししは電気柵でふせぐことが出来ますが、サルは木の上などからやって来ます。せっかく取れるのかと思うと、全部食べられたり、今から育つさつまいもなどが抜かれていたり、とても残念です。網をかけたりして頑張っていますが、市としても何か対策はないものではないでしょうか。

（１０）観光の振興について

この5年間で大野市の高齢化 & 少子が顕著となり、経済的疲弊が手に取るように実感できます。道の駅・郷土歴史館あるいは中部縦貫道等の観光対策事業は 20 年以上前の政策で、マイカードライバーが高齢化と共に運転免許を返納する時代に入ってきた。「全く無謀な投資」だと、すぐにわかるでしょう！

人口3万人を切る事を基にまちづくりを考えれば、将来性の無いムダな施設(例、九頭竜スキー場・平成の湯・ミルク工房・六呂師人工スキー場など)を民間払い下げ又は閉鎖して、子どもの教育費に投資していただきたい。

恐竜博物館(勝山)など、外国人旅行者が増えています。インバウンドにより、大野にももうすぐ外国人旅行者が増えるように思います。それに備えた外国人向けの案内表示、大野のよい所を、言葉が分からない人たちにも伝え、観光客増加による大野市の景気が上がると思います。

大野の水、城下町のいいところのPRが足りない。星空日本一を誰も知られてない。せっかくのいい場所があるのにもったいない。P.S.京都ガイド歴8年 亀山をアピール、老若問わず頂上へ行くことができると良いと思う。天空の城のアピールをもっとすると良い。

大野の水はおいしいと思い込んでいたが東京の水も大野にまけない味と分かり、ショックを受けました。大野の自然の水が素晴らしいのは分かっているが、もっと先を行く努力をしないとだめだと思う。

「結の故郷 越前おおの」を続けてほしい。全国の人に知ってもらふ事も大切。天空の城や御清水、里いも認知度は上がっていると思う。その他にも星や雪といった素晴らしい自然があり、とても豊かな土地である。もっと、星や化石をアピールしてもよいと思う。

中部縦貫道路が岐阜まで通ろうとしているのに大野市に足を止めて観光したり、レジャーを楽しむ施設がないのが非常に残念です。

遊園地やショッピングできる所がほしいと思う。

アウトレットやレジャー施設を造ってほしい。そうすればもっと市内が活発になり人口も増えるのではないかとと思われる。

せっかくの観光客が観光バスで訪れているが大野に期待して来るのに、見て廻るところも少なく団体で訪れても大勢で食事をする所もないのは残念で、二度と大野に来てくれなくなると思う。

〔市民アンケートの集計結果〕

中部縦貫道の早期完成(大野⇄白鳥間)を行い、中部都市(名古屋等)からの観光客誘致に取り組んでほしい。そのためにも、大野市の魅力となる、風景や財産を守り、まちづくりを行うことが重要。まちなかの観光の充実をさせるとともに、百名山である荒島岳の観光スポットを連携させる。道の駅(荒島岳)を中心とした観光開発に取り組み、第2の玄関となる事を重要視してください。全国的に知名度の高いものは、大野では大野城と荒島岳である事を再認識してください(食べ物はいりも)

水が美味しく空気がきれいで、食べ物が美味しい大野はどの店に入って食べてもハズレないと言ってくれます。「食」をアピールして市外から来てもらう。しかしながら、坂井市の人でさえ、大野からわざわざですか？遠いのに変ですなと言われます。遠くないんです。一度来てみたいと思えるブランド力が必要かと・・・

観光に力を入れた活気あるまちづくりを目指して頂きたいと思います。高齢者、障がい者が住みよいまちづくりを目指して頂きたいと思います。

六呂師高原をリゾートの街(アルプス)につなげるため、人工スキー場が設置されましたが、全国でいえば軽井沢にしたら良いと思います。

森林の多い大野(100名山もある)。もっと山や自然を整備し、登山やハイキング等々自然を生かした工夫をし、集客できないものか！(まちなか観光も良いが、中高年向きで、若いファミリーを呼び込む工夫が必要と考える)

イベントの継続は個々の団体の力では難しいか！福井市の友人はとんちん祭りを楽しみにして、来て参加して大野で宿に泊まって帰っていた。2年イベント無、残念がっていた。

大野市はせっかく古い町並も残っているし、小京都とも呼ばれているので、もっと売り出して、外国人の観光客の方を呼ぶとよいと思う。そのためには、やはり町を活性化させたほうが良いです。例えば商業施設を増やして、県外や国外の方がきても、遊べたりできるほうが観光客も増えるのではないかな。(有名な施設があれば親近感がわいて安心できるのではないかな)でも、自然と町が共存してる大野は大好きです。

観光客が年々増加していると思うので、さらに名が知られる為に情報発信や主要な駅等に「おおの」と地名をもっと出して良いと思う。

大野には現役、故人、有名、無名のすごい人が居るのではないかなと思う。そのような方々を市民に紹介できる場(市報や広報誌他)と、若い人達の刺激になるのではないかなと考えます。(例)福井新聞記事 H31.4.4 福井市の男性 献血 219 回で卒業、福井新聞記事 日時不明 越前市の男性 白山登頂 400 回

観光バスなど来ているが、観光スポットがそんなにない。朝市もアピールしていても実際に行くと、少ない店数に驚いている人もいる。大野と言えばこれ！！というものがあればもっと観光客は増えると思うが・・・

宣伝効果と思われるが地図を持って歩いている人が多いが七間通りなどさびしい。おみやげ、手作り製品など、空き店舗で今以上に何かあると良い。経ヶ岳の名前を県内外に広めてほしい(大野市で一番高い山)。噴火の際の噴石群を紹介してほしい。六呂師スキー場で、有名な歌手のコンサート。

大型量販店の充実や IT の発達による物流の変化により、市内の小売業は瀕死状態ですが、逆に言うと、製品を世界中に売るチャンスです。伝統産業の支援とブランド化による販売戦略を考えていただきたい。観光や伝統産業のブランド化に力を入れて「緑の故郷」。大野の魅力を全国に発信していただけるようお願いします。応援しています。

大野の自然を活かした上で、芝桜や花桃のような花のエリアを各地に作る。季節ごとに咲く花を見るために県内外から人が集まり、そこで大野らしい食事を提供する。大野のおいしい水やお米などもみんなに知ってもらおう。

大野には星空や山など自然のものがたくさんあるので、あたり前のものや事をもっと丁寧にアピールしていくことで、住んでいる人たちが訪れた人たちが心とむ市になってくれると思う。まずは、ずっと住みたくなる市、リピーターとして又行きたい市を目指す。人が増えていけば施設等も増えるし、今よりは活性化するのは。将来、子供たちや孫たちも住み続けていきたいと思う市づくりを期待しています。

天空の城で TV で広めてもらっているのに観光地として何もない。中部縦貫や学校建替え案よりも、そっちにお金をかけたほうが良いと思う。

大野市も市外から来る人のことも考えて小さなおもてなしに取り込んだら良いと思います。(市外よりの人により良い印象がないと聞きます)

全国的な番組で天空の城などが出るとうれしくなります。もっと多く PR 出来るといいですね。

県外の人々から見ると、自然豊かで空気がきれいでとても良い所だと言われます。この自然を守って市外からの移住も増えるといいと思います。特に市外からの印象も「水のおいしさ」を掲げる人が多いです。友人や実家でも、大野の水がおいしいから持ってきてほしいと言われ、昔はよく届けていました。大変喜ばれました。これからは大野の地下水をアピールすると良いのでは。

先日も、新聞やテレビで、地域協力隊の方々やペットボトルを考案したとか、市長と大学の先生、南部酒造(だったと思うのですが)さんが協力して大野の水の販売のニュースを見ました。とても良いと思いました。

水がおいしい、お米もおいしいので名水マラソンなど県外の人々が来た際それをもっとアピールすべき。(できれば無料提供)

六呂師でみる星空はとってもきれいです。しばらく眺めていると流れ星もいくつか見れます。若い時は自分の運転で行けましたが、今は夜は運転を控えています。せめて流星群の日などにはマイクロバスのツアーなんかがあると、子供たちと一緒に楽しい星空が見たいものです。

観光を重視するか、生活を重視するのかわどっちつかずではなく、どちらかに決めたほうが良いと思う。

荒島岳の登山に金沢からいられています。勝原よりの登山口駐車へ出入りする時、R158 へ出る時に見通しが悪すぎるのでカーブミラーがあると良いと思います。

七間商店街が閑散としていますね。名水マラソンや、いろんなイベントを市役所でできるようになって街なかにはさびしくなる一方です。イベントを元のように街なかに戻してもらいたいと思います。

(11) 教育について

子供の数が少ない小さな小学校から優秀な人が沢山います。少人数学校はなぜだめなのか？放課後の運動・文化活動はなぜ必要なのか、なぜ教師が指導するのか？私は理解できません。

子供達が安心して学校に通える環境を維持し、できれば大学生活まで大野でいけるような学びの場が増えてほしいと考えております。

小学・中学(高校)で日本でここじゃ受けられないような特化した教育を進め、それを県内の大学につなげ、つながりのある企業誘致へ。強く魅力ある地には、子供のために親は動く時代だと思います。まずは、人を魅了する教育の設備を。

教育環境についての早期の整備。時間をかけている間に、どんどん人口が流出してしまう。大野市一斉にどうかするのでなく、周辺地区の理解を得た学校(地域)から再編を進める。学校の児童生徒数が急激に減り続け、歯止めが効かなくなっている。早急に理解・同意を得た所から進めていただき

たい。

図書館の閉まる時間が早すぎる。全国的にもっともつと進化しているのについていけないし知ろうともしない。せめて勝山みたくPM7:00まで延長しないと、勤め人はだれも平日借りれないし県立まで行かないと種類もないから不便。飲み物すらない。

言葉は悪いが、どれだけ老人に投資してもほとんど返ってくるものはありません。老人大国を支える子供達に未来の大野を築く教育をさせてあげてほしい。

（１２）文化の保存や継承、振興について

文化芸術を楽しむ心の余裕のない人が多い。コンサートや美術等の楽しむ場がない。福井や県外に出ないと見られないし、楽しめない。

古い町並みを極力残すことが大切だと思う。

個人的に最近「神社」が周りでも注目されていて学ぶ機会が多いのですが、「神社」を学ぶと、これまで、その土地を守ってきた人達の思いに触れるような気がします。それとともに、私達はこれまで、その土地のそれまでのことを振り返り尊重してきたことはあっただろうか。と、反省することもあります。

未来へつなぐ、つなぎたいものは何なのか。これまでの想いを汲み取ってこれただろうか、と。つなぐ、継いでいきたいと思う穂ころを持てたらと思います。篠座神社の森も昔はもっときれいで大きかったと、亡くなった母からも聞いていました。森が無くなっていることが残念に思います。長い目で見たときに、本当に残したいものは何なのか、見定めていきたいと思っています。

（１３）スポーツの振興について

スポーツの発展

（１４）地域づくりについて

エリアの特長を生かした協働の地域づくりを進めることで、①自信と誇りを持って生きる②その魅力を感じて訪れる③地域を支える産業の育成、IT 化（生産性向上・付加価値）→ 大野人の育成・定住と新大野人の移住を促進。 ※決して関係人口とか交流人口とか指標で表せない（測れない）もので設定しない → 常に人口減少対策に効果が上がっているか測れる指標を設定（途中で施策変更も） ※アンケート用紙に説明図あり

将来に向けたまちづくりが良くなると、必然的に村も良くなると言うのなら、町・村・地区が一つになるには調和が必要なのかなと思います。

「100 年先を考えるなら人を育てる」という言葉がある。大野市の未来を想像するのは難しい。ある意味、お先真っ暗、また渾々（和々）たる未来があるかもしれない。

目に見えるもの 自然、物、人。目に見えないもの 人の心

「結」というワードがいろいろな場面、場所で使われているが、どれだけ人々の心がつながっているのかと思う。これは行政が上から与え、導くものではなく、それぞれの地域、小さな集合から大きく広がるものだと考える。これまでの検証と方策の見直しも必要だと思う。

私は3年ほど前に 65 歳をすぎ、大野にもどってきました。景観は大きく変化していましたが、生活環境はあまり変わっていないと感じました。現在、区の役をつとめています、市の担当課とのコミュニケーションが悪く、区民の思いが伝わりません。市は、各地区のコミュニティと交流を深くし、市民の意見を直接聞いて、まちづくりに活用してほしい。

地域をあげて何かする時に、リーダー的な存在は必要だと思う。育成の場も必要だと思う。物事別に、気軽に相談できる窓口が分かりやすくあるといいと思います。

協力・協和・協調…おたがいみんな協力しあうとよりよいまちづくりが出来るのではないかと思います。

地域でのつながり支え合い。

地域のつながりが薄くなり、良い意味で世話を焼く人、仲人になるような人が減ってしまった。あまり他人の事に関わらないでおうという気持ちが強くなってきているように思えます。私自身も出来ていません。

キーワード(結・未来へつなぐ・和)、これらは人と人とのつながり、仲良くしていく、和合、コミュニケーション。人として一番欠けてしまっているもの、他を思いやる心、これを大切にしていきたいです。

お祭などの出店などいろいろな規定があるようだが、もっと大野の人が活躍できる場が増えるといいと思う。小さくてもいいので活躍できるイベント、市民の参加できるイベントが増えるといいと思う。

まちづくりに向けての強力なリーダーシップを取っていくポジションが無い。感じられない。大学・短大などにその知恵を借りたりはできないものであろうか。

（１５）行財政改革について

統廃合などで新しい建物を建設するのではなく、耐震対策も済んでる建物を生かす。無駄な事・不要な物としないでほしいです。

しがらみ行財政は禁止。

①行政(集落)単位の諸組織の統廃合あるいは再編の検討

②何でも区長会に下ろすという現在の行政の体質改善(区長は行政の出先、あるいは下働きではないと思う)

③区長手当の改善。区長手当、いわゆる「筆墨料」は何十年も前から 12000 円?であり、これを十倍にするのはいかがか。ほとんどの集落では、「筆墨料」とは別に5~10 万を住民が負担しているのが実情である。

新しい箱物ばかりに手をつけず、今ある古いものをもっと生かす事！学校の統廃合にしても同じ、ゆっくり考えて皆で話し合ったほうがいい。七間朝市の人々のことを考えると大変だと思う。

箱物行政はやめてほしい。

施設の統廃合を進めてほしい。 unnecessary 公共施設が多い。インフラ整備は、安全・安心に重点を置くべき。持続可能な公共交通の運営を望む。SDGsに取り組んでほしい。

〔市民アンケートの集計結果〕

人口減少は避けられない！今のうちに施設の増改築をしておこう、ではなくて、後々に付けを回さない為にもよく研究してほしい。重荷にならないように。

人口減少に伴って学校編成等変化せざるを得ないこともたくさんあるが、関係するすべての人に正確な情報が行き渡るようなシステムを確立してほしい。

地域づくりに関しては、年金支給開始年齢の引き上げもあり人材の確保を難しくさせている。

税金(市民税)が少ないと嬉しい。

意見や願いがあっても役所の何課へ申し出たらいのかわからない。役所に意見を聞く気があるのかどうかかわからない。

行財政改革による市の財務基盤の強化、盤石な財務による市内の地域振興を行う。振興は老若男女問わないイベントを開催。地域も活性化するし、市外に向けて広告をすることにより市外からも人が集まりやすくなる。大野がよい所を知れば移住してくれる可能性が上がると思った。

壊れかけの空き家を取り壊してほしい。

市役所の1Fの方はにこやかに明るく挨拶してほしい。大野市の窓口なのだから。いつ行っても暗い。住民票をとるのに3時間かかりました。

大野市職員も含めて「対人」の心が感じられない場合が多い。Uターン、Iターン、観光、移住。全て他府県で生活している、又は生活していた人を相手にする。接客や交通マナー向上において競争も向上心もないままでは、観光や移住政策は成り立たない。大野は人情味溢れる人が多いのに、その入口対応で損をしてしまうのは非常に勿体無い。

現役世代に対し、継続的に意識改革ができるプログラム等が必要ではないだろうか。市役所職員に対しても「がっかりした」対応をされると嘆くUターン者も多い。他県に出る前は「こんなものか」と思っていた対応が、外に出て外を知り戻ってきた時にあまりにも違う。と悪いギャップを抱かせるようでは、未来に何もつながらない。安心してここにいられる生活基盤を築くためにも市役所職員、市内企業経営者の近代的意識改革がまちづくりのスタートに必要なだと考える。

人口減少社会となり、市税歳入の減少が予想される。行財政改革も必要になってくる。

公共施設が知られてない所も多々あります。活用するとよい。(道案内など道標を作るとよい。)使い道がなければ廃止する。大きい公園の遊具は定期点検されていると思いますが、村や空き地などにある遊具など使う子どもがいなければ廃止した方が安全。

住む人が住みやすい町を目指したい。関係人口を増やすことも必要だが、税制や法律の改正も国に求め、地域が自立できる施策をお願いしたい。

(16) 人口減少対策について

キーワードとは別に自分の意見としては、今問題になっている少子高齢化について！とにかく結婚しない人が多く、50代の男子女子が特に目立ちます。又、一人暮らしの家もあり、今後ますます増えるようです。

人口減少対策を早急に取り組むべきと考えます。それに伴い市合併を推進すべき(むだを除く)

保育園や高校の無償化が進む中、県としての政策の3人っ子プロジェクトですでに3人目以降は無償化されています。3人以上いる家庭はさらに上のせした経済的な補助をお願いしたいです。(3人目以降は小学校給食費無償・進学のための補助金支給等)

3人目以降、そういったものがあれば、少子化対策にもつながると思います。将来の経済的不安がなくなれば、私も5人目、6人目産みたいところです。よろしくお願いします。

毎年生まれてくる子供が少なくなっています。このままでは、学校もなくなるし職場も失われていきます。大野に住んでいる若者が結婚して子供が安心して産める社会を作ってほしいです。婚活パーティーなどをまた復活してほしいです。

大野市の一番の問題は人口減少。出生数を増やすために大野でも子供を安心して産める環境(病院を含め)を整えてもらいたい。

小中学校再編に関して、子供の教育環境を一番に考えることも大事だが、市民の意見の中に多いのが、人口減少につながる懸念があることである。

人口減少対策も一緒に議論してもらいたい。

高齢者人口増加に伴う少子化に対する対策。高齢者が元気で過ごせる期間を長くする為の対策。若者が都会や市外(特に福井)への流出防止策。

高齢者(病気の人を含む):若者人口(比率)→9:1、8:2、7:3→こうなると市の町の未来が限りなく消える

結婚しない(出来ない)者が各集落に多くいる。今後限界集落になるのではないか。若者の働く場所と結婚できる環境を整える必要がある(市役所に結婚課を置いてはどうか)

移住して、もうすぐ20年になります。生活するためには「住居」「職場」「医療」「教育」が重要だと思っています。すべてそろっていれば魅力的な町になると思います。

若者が増えなければ廃れていくだけ。観光できる場を設けても、高齢者が好むものばかりで、若者が観られるものが何一つない。道の駅の整備が進んでいるが、一時的に人が集まる場ではなく、大野の目玉になるような若者が集まってくる何かが欲しい。就労の場にもなるであろう。結局大半の若者は市街地へと職を求めて大野から出て行ってしまふ。高齢者が増え、人口が減り、大野は後退の一途をたどっていると思う。

中部縦貫自動車の完成が大野市の発展に大きくかわってくると思います。市の人口が20年後に2万人台になると言われています。これにストップをかける絶好のチャンスです。中京圏などからの流入があると思います。新しい人たちを迎える政策を作成し、立案して下さい。

大野の人口が少なくなる。空き家が多く村がさみしくなるばかり。人口減少対策が第一です。

自然に恵まれた大野で育ち、子供も大野で育てたいと考え、大野に家を構えることになりました。子育ての環境としては(支援施策が充実しているかは別として)申し分がないと思う一方で、少子化による学校教育や部活動の幅が制限されるなどの課題があるかと考えます。

Uターンの人にもっとサービスはないのでしょうか。県外から来た人に対するなじみやすい市に。田舎らしい田舎にしかないものを作ってほしい。大野にきて良かった、大野にいて良かったという場所に。

大野から一度出た人は意識は高いように見える。そのような人が故郷にもどる力を発揮するのではないのでしょうか。Uターン者を多く持つための努力があっても良いのではないかと。

将来に向けたまちづくりを考える上でどうしても問題になってくる点の一つに、人口減少の歯止めが効かない現状がある。これには様々な理由があり一様に特効薬があるわけではない。手っ取り早い方法はやはり大野市が税収を増やしていくことで住み良い環境を市民に提供する仕組みを作る事だと思う。住民税が安くなるだけでもかなり違うと思う。その為にも、上記に上げたキーワードをヒントに外貨(市外県外からのお金)を稼ぐことが手早い事だと思う。その事を踏まえた大野市の在り方を見据えてまちづくりを考えればよいと思う。

大野市を良くする為にもっともっと考えていかなければ人口も減少し高齢者ばかりが残ってしまうのではないかと感じてしまう。

(17) その他

消防士の飲み会が多すぎる(皆言っている)。未来の子供の為なら家族との時間を大切にすべきだと思います。

「大野へかえろう」「結の故郷」などのキャッチコピーが優れていて、県内でも大野市のまちづくりの取り組みは評価されていると感じる。県内市外の知人からもその巧な意見を聞くことがあった。(職場の同僚)

特に「大野へかえろう」は、歌詞・曲ともに大野市の自然や人々のくらしをうまく表現していて、大野市民として大切に口ずさんでいくような曲であってほしい。(大野高校卒業式(H31.3)にては歌われなかったと聞いて残念。在校生の息子も「なんでなかったの」と言っていた) 子どもたちへのはなむけの歌として歌い継いでいくことを希望します。

学校で歌うことが難しいのなら、市のイベント、施設での BGM などメロディを流すなど活用して、市民が“幼いころからなんか知っている曲”になり、若い人へのメッセージが歌として伝わってほしい。

配布チラシが多い。紙のムダである。少なくしたらと思う。配布する人は、区長、役員大変である。

項目が多すぎて行政がもっと絞るべき

県民の命を守る大野市民になりたい(※アンケート用紙に新聞切抜添付あり「用水路使用料強制できず」)

本アンケートの回答欄の答えが偏っている。満足一不満足で整理されていて、回答者をこまらせている。総論のくりでなく細部、部門別のアンケートにすべきと思う。総合計画の中に市内・県内に限った問いがなく都合よく利用される可能性がある。例えば、①越美北線を利用して、大阪・東京を往復して都合の個人がレポートするか体験してください②自宅から車を使用せずに市役所、スーパーマーケットでの用事を体験して下さい。

都合の目で見えるアンケートでない大野に足のついたアンケートを望みます。

この意識調査の結果(とりまとめ)を市報等で市民に報告願います。

このアンケート回答は、満足か不満の二者択一になっているが、「こんなものだろう」と感じる人の選択ができない為、「普通」の項を入れるべきだと思います

人にやさしい大野であってほしい。

アンケートが回答しづらかった。満足度を評価する欄だが、その内容について詳しく知らない場合、どの評価をしていいのかわからなかった。

大野は冬を除けば住みやすい町だと思うが、箱物はなるべくいらないと思う。

太平洋プレートで大地震が起こる。(30年以内に80%) 人口、産業、公的機関を日本海側へ移す事によってリスクを分散すべき。東京一極集中は日本を再建不能とする。国/県/市、一体となってリスク分散を図るべき。これのみが、地方再発の原動力となる。

我々は子供のころはテレビも無しでとにかく外でよく暗くなるまで遊んでいたように思い出されます。それが今では子供が少なくほとんど家の中にいてゲーム等又は勉強しているのではないかと大変さみしい時代です。

若い人の意見を聞くと、大野は何も楽しめるものがないと言います。楽しめる魅力もなく胸をはって言える大野のいい所が浮かばない限り、キーワードは出てこないです。

大野に生れて良かったと思える人生を。